



# シネマ気球

第38号 200円

シネマ気球©

編集兼発行人 関田孝正  
〒270-0107  
千葉県流山市西深井 339-2  
TEL 04 (7153) 1533  
FAX 04 (7156) 7122

## 「バーバリ 二部作」

### 上映終了後、館内に拍手沸き起る

インド国内歴代興行収入一位の記録を樹立したバーバリは「伝説誕生」と続編「王の凱旋」の二部作だが、2018年6月「バーバリ王の凱旋完全版」も上映された。

上映館が少ないせいか、私が観に行った映画館はほぼ満員。熱気に包まれ、上映終了後には館内拍手が沸き起こった。

映画は古代インドのマヒシュマティ王国の王位継承をめぐる物語。伝説誕生の冒頭で一人の高貴な女性が背中に矢を受け赤ん坊を抱えながら逃げてくる。

追っ手を倒すが激流に落ちた彼女は川に沈みながら片手で赤ん坊を支え、自分の命と引き換えに、王子の助命を神に祈り絶命。

赤ん坊は助かり、村の女に育てられ、たくましい母親思いの若者に成長する。

巨大な滝から木彫りの面が流れ着き、若者は何かに導かれるように滝の上を目指す。そこには彼の継ぐべき王国がある。

私はこのあたりから、胸が高鳴り物語のとりこになった。

好きになった美女戦士と共に、王国にとらわれているデーヴァセーナ救出に向かう。

往年のハリウッドのスペクタクル映画以上の映像迫力があり、バーバリの痛快なアクションはアニメの主人公を連想させる決めポーズあり、見せ場の連続でワクワクする。

しかしこの映画の魅力は、王国内の確執、陰謀、復讐譚、そして女の強さと意地にある。兄弟の王子のどちらを王にするか迷う国母シヴァガミの母としての悩みと、長男を王位につけた王になれなかった夫ビッジャラデーバの陰謀。忠誠心熱い勇者だが、奴隷のカタッパ。

凶暴な王が支配する王国に入った若者は、民衆から顔を見られ、バーバリと畏敬された。彼は父が25年前に暗殺されたことと、その殺人者を知る。

ここまでが「伝説誕生」。様々な疑問は「王の凱旋」に描かれるが、・・・字数が足りない。気になる人は是非観てください。

(絵と文・山下雄平)

## ハリウッドベテラン男優たちの動向

門馬徳行

○ベテラン男優ハリウッドスターと言えば、まず出てくるのは、トム・クルーズ。あと数年で60歳なのにスタントマンを使わないアクションに挑む姿は頭が下がる。現場で怪我をしても、それを宣伝材料にしてしまう根性。これは、アクターとしてはなくプロデューサーとしての意識が大きく作用している。ファンを必要以上？大事にするところは、一部ではゴマスリ、イヤミと批判されているが、決してサービスピ精神はなくなるらない。「ミッシェル・インポッシブル」シリーズの新作が待っているアクション派トムだが、CIAや麻薬組織の運び屋パイロットを演じた「バリー・シール」アメリカをほめた男」では、別の顔を見せて新鮮な印象を残している。○日本での人気はいまひとつなのに、米ではよく使われているのがニコラス・ケイジ。コッポラの甥ということもあり、やはり、映画界もまたコネクションなのだろう。が、最近はやたら出すぎで、とても仕事

を選んでいるとは思えない（これでは、一時の「出まくりデ・ニーロ」と同じだ。いつも顔にシワをよせて弱った顔ばかりみせているが、たまには、「リービング・ラスベガス」でみせたシブイ？演技もみたいところだ。○もつぱら役者より演出家に向いているとの噂があるのが、ベン・アフレック。「ゴーン・ガール」の時は、時間があるとデヴィッド・フィンチャーと演出の話ばかりしていた。「夜に生きる」のギャング役もわるくないが、ぼさつとした風貌が弱みになっていて、一部女性にはまるで人氣がない。ここできつぱりと役者をあきらめ、監督に専念した方がベターと思うが、「出たがり、ベン」には無理かもしれない。○同類に、マーク・ウォールバーグがいる。いわずとしたさえないカンストリーボーイ。そこに潜在的なくし味があるのだが。一見サル顔（猿の惑星）ではハマリ役）のマークは、いろんな役をこなし、それなりの実績を残している。とくに最近

の「パトリオット・デイ」は、良く似合う警官役をリアルに演じていた。ハデさはないが、スナイパーもやるし実直な労働者の役もできるし貴重な存在。彼は、9人兄弟の1人で非行少年だったらしい。○マット・デイモンもセクシーさは見当たらず、常にひかえめでもつさりした印象。そんなマットがジェイソン・ボーンを演じた時は目が覚めた。激しいアクションシーンをよくこなしていた。やはり監督との出会いが大きかったと思う。不評の「グレートウォール」に出たのも監督がチャン・イモウだったからかな。彼はクリント・イーストウッドの作品にも出演していて、いわゆる好感度よりも監督度を選ぶ生き方をしている。○これまた俳優なのに監督もつとめる（かっこつけ男）ナンバリー1、ジョージ・クルーニー。彼は社会性のある作品を多く撮っている。○ニヤニヤしてるばかりではなく骨はあるようだ。反体制的な運動もしていて、ただのプレイ

ボーイではないと自負したいのだろう。いろんな女優とのうわさがあったが、今は家庭をもつて落ち着いているらしい。彼が名をあげたのが、TVドラマ「ER 緊急救命室」だというのだから、メディアの力はあなごれない。○（かっこつけ男）ナンバー2のブラッド・ピット。彼は自分がプロデューズした作品では、いい役ばかりやっている。汚れ役はやらない。良心的作品を世に送り出しているのに、裏方に徹しきれないスターの本性がここにでていいる。新作の「マリアンヌ」では相手役のマリオン・コティヤールに完全に食われてるように見えた。○このほか、私生活で物議をかもししているあべれものメル・ギブソン。暴力と信仰が相克する「ハクソー・リッジ」は、彼の体質がそのままの作品といえよう。「エイリアン コヴェナント」に出たガイ・ピアースも、最近シブ味全開で眼が離せなくなってきた。かつてのネットワーク役、カート・ラッセルもま



トム・クルーズ「ミッション：インポッシブル」

だまだ「ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー リミックス」で健在ぶりを見せているし、忘れちゃいけないハンソロハリソン・フォードの存在もある。彼は「ブレードランナー 2049」でも元気な姿を見せている。「僕のワンドフル・ライフ」のデニス・クエイドもいいし、元諜報部員リアム・ニーソンはあいかわらずアクション派を続けているが、たまに怪物の声で吹き替え（「怪物はささやく」もやったりして）いて衰えていない。新作の「トレイン・ミッション」は評判がいい。奇人変人キアヌ・リーブスも「ジョン・ウィック チャプター2」で最強



マーク・ウォールバーグ「パトリオット・デイ」

の殺し屋を。この作品でキアヌはトムに負けてたまるかとおぼろしくスタントで激しいシーンを演じている。このシリーズは好評で第3作も作られる。めつきりメジャー化したのがジョニー・デップ。私生活でいろいろ金がかかるのか、インディーズ系の作品にはほとんど出していない。「ゴールド 金塊の行方」のマシュー・マコノヒー、「アメリカン・バーニング」のユアン・マクレガー、「グレイテスト・ショーマン」のヒュー・ジャックマン、「スパイダーマン ホームカミング」のロバート・ダウニー・Jr、ロバートは、以前チャップリンを演じたがばつとせず、



マット・デモン「サバービコン 仮面を被った街」

アイアンマンで人気が発散するのだから、わからない。曲者、ゲイリー・オールドマンも「ウインストン・チャーチル ヒトラーから世界を救った男」でチャーチルを演じ、オスカーを手に入れている。以前、「レオン」でみせたキレキレの刑事の印象を完璧に打ち破っている。○まだまだ、ベテラン俳優が数多くいるのだが、この辺にしておこう。日本と違って、ハリウッド・アクターは層が広い。これらが今のハリウッドを支えているのは明白だ。女優や若手ばかりでなくベテラン俳優たちの動向が、映画の楽しさの一因になっていることを忘れてはならない。

ごまめ書房  
〒2700107  
千葉県流山市西深井339-1221  
FAX 044-7755611  
電話 044-7755611



坊っちゃんプロデューサー奮闘記  
**昭和映画屋渡世**  
坊っちゃんプロデューサー奮闘記  
斎藤次男 著  
2200円(税別)  
四六判 256ページ

●かつての撮影所の映画作りの実際を、裏も表も率直に書いた本だ。とても面白いし、映画によせる思いに感動した。  
(映画評論家・佐藤忠男)  
●ちよつと異色の本である。ピュアな映画愛と趣が違う。(キネマ旬報)映画評論家・尾形俊朗  
●映画界の盛衰 1作が完成するまでの映画人の苦闘、華やかな世界の内幕や裏話を軽妙な筆致で伝え哀愴がにじみまします。  
(しんぶん赤旗)  
●プロデューサーならではの視点で綴る泣き笑いの奮闘を通して巨匠から俊英まで監督、俳優たちの素顔が生き生きと描かれる。担当した名作や歴史に埋もれた映画の裏話も興味深い。  
(出版ニュース)

シネマギャラリー 16

鶴田 聖



〔描き手からの蛇足〕裏話をひとつ。殺し屋（ジャック・パランス）との最後の撃ち合いで、シエーンは銃を射った瞬間目を閉じています（人間としてごく当然の反応）でも、それでは絵としてサマにならない！顔だけすげ替えようかとも考えたのですが、結構大変…で、結局どうしたかと云うと、射った直後に目を開けた瞬間のシエーンの姿を描いて、その銃口から閃光を吹き出させたのでした。

## 「佐藤允が好きだった。」

「独立愚連隊」

清水 和昭

といえ、ミステリー仕立てで、主人公がメインになっているのに対し、「独立愚連隊西へ」は、主人公よりも左文字小隊にスポットライトがあたっており、まったく別の物語になっている。双方とも小気味のいい一流のアクション映画に仕上がっているが、底に流れているのは、戦争の愚かしさ、むなしさ、権力の傲慢さ、人の悲しさなどで、それがこれらの映画をいちだんと魅力的なものにしているのだ。

映画監督、岡本喜八 大正13年（1924年）生まれ、平成17年（2005年）没。私の父より一つ上で、同じときにあの戦争に行っている。東宝で助監督を15年つとめ、やつと監督になれたのは、シナリオ「独立愚連隊」の会社への持ち込みがキツカケだった。シナリオの筋立てのキツカケは、百円均一のゾッキ本からみつけた小冊子「護身術入門」の中の一ページ、「ブローニング中型拳銃は発

射寸前に銃口にテノヒラを押しつけたら引鉄を引けない」であったという。その場面は中丸忠雄扮する副官が、八路の捕虜である上原美佐を撃とうとするときに、毎朝新聞記者（実は陸軍脱走兵、大久

保軍曹）佐藤允が副官の拳銃の銃口にテノヒラを押しつけてはなつセリフで、舞台は戦争末期の北支戦線、本隊から孤立して、最も危険な敵中に突出している各隊より選ばれたゴロツキ集団、通称「独立愚連隊」。佐藤允はその「独立愚連隊」で不可解な心中事件を起こして死んだ、弟の死の真相を探るために、入院中の陸軍病院を抜け出しこの地へとやってきたのだ。

ヒロイン、「とみ」には雪村いづみ、大久保の子を宿しながら流産をしてしまい、慰安婦となつてめぐり合う、工藤看護婦。岡本作品には慰安婦がよくでてくる。中北千枝子が「とみ」の相手となつてわきを固める。この映画の雪村いづみはとても魅力的で、素晴らしかった。このころ、美空ひばり、江利チエミ、雪村いづみが3人娘として売り出していたが、雪村いづみが一番、と思っていたのはこの映画を観て覚えていたからに違いない。

岡本監督と親交のあった仲代達矢が語るところによると、一番やりたかったのは「独立愚連隊」だろう。台本をよんでとても面白かったけれども、同時期に小林正樹監督の「人間の条件」（59）

61）に出ていてあきらめたという。そうして俳優座養成所で同期の佐藤允が主役になった。

独立90（どくりつきゅうまる）通称「独立愚連隊」小隊長、真相を知りながら黙して語らぬ石井軍曹に中谷一郎。ひょうひょうとしていながら、部下思いの下士官を演じきる。後年、風車の弥七として活躍していた。中谷一郎といえ、私の中で印象に残っているのは、同じ岡本作品で「日本の一番長い日」の航空士官学校黒田大尉役、近衛師団で勝部演之の首を落し、近衛師団長島田正吾を斬殺するシーン。子供のころのショッキングなシーンは、忘れようとしてもなかなか忘れられません。「独立愚連隊西へ」でも準主役で出演している。

近くで全滅した連隊の軍旗を守つて帰還する青年将校、辻少尉に最近亡くなった夏木陽介。黒澤明の「用心棒」（61）で最後まで生き残る若いやくざで出演。日本テレビの「青春とはなんだ」で人気を博す。生涯独身で、なぜ結婚しないのかを問われると、自分の子どもができたならば必ず殺してしまうからと答えている。かなり苛烈な性格だったようだが、私はこの

俳優が好きだった。

主人公の弟、中心にみせかけて殺害される大久保見習士官の相手の女の妹に上原美佐、その兄に鶴田浩二。上原美佐といえば、ジョー・ジルーカスの「スター・ウォーズ」の原型となった黒澤明の「隠し砦の三悪人」(58)のヒロインだけれども、撮り終わったあとにやめるといいだして、その引き留め役を任されたのが岡本喜八だった。たしかに、観た感じはこの映画のほうがびのびしている気がする。鶴田浩二率いる馬賊の一員

映画の本

「銀幕に愛をこめて ぼくはゴジラの同期生」(宝田明 構成・のみみち) 映画とは

俳優・宝田明の幼少時代から現在までの体験談の聞き書き。

小市民的な東宝映画よりはアナキーな東宝映画の方が好きだった私は、宝田明は二枚目俳優ということがよく知っているのだが、意識して彼の映画を見ることはなかった。だから「ゴジラ」に出ていたなという認識ぐらいいしかなない。映画以外で最近の右寄りのご時世のなかで新聞で読んだ戦前の中国での九死に一生を得た意外な体験談が記憶に残っている。

しかし、この本は面白い。敗戦時

に「用心棒」で拍子木を鳴らしていた沢村いき雄。

黒幕の副官、橋本中尉に中丸忠雄、その片腕の酒井曹長に南道郎。中丸忠雄は二枚目なのだが、どちらかといえば悪役とかクセの強い役柄が多くあまり好きではなかった。ところが、太宰治の「走れメロス」を題材とした谷口千吉監督の「奇巖城の冒険」(66)で三船敏郎を信じる僧侶を演じるのだが、それを観てからはたちまちファンになってしまった。われながらとても単純であきれてしまうのだが、

命からがら満州から逃れた体験談も読ませるし、戦後俳優になって映画興隆期を生きた話も当時の映画界を垣間見ることができて興味深い。宝田明の映画を遅まきながら見たいとも思った。歌もうたえる俳優だそうで、そういうミュージカルなどの舞台にも立っていたのを新聞の広告で覚えていたが、いまだ聞いたことがない。一度聞いてみたいものだ。

一九三四年朝鮮で生まれ、戦時中は満州で少年時代をおくった(父親は満鉄勤務)。敗戦によって家族とともに苦労して引き揚げてきた。長兄は戦死、次兄はソ連に抑留(後に帰国)、三兄は生き別れ(戦後日本で偶然再会できたもののその後別離)、自身はソ連兵の銃弾によって傷を負った過去をもっている。そのトラウマ

このころ映画で悪役を演じていた人は、結構大変だったのではないかと思ってしまう。

謎解きあり、決闘あり、突撃あり、ロマンスあり、岡本喜八のエッセンスがギュッと詰まった冒険活劇、それが「独立愚連隊」だ。60年近く前に公開された映画だけれども、今観ても決して古びていない、佐藤允のすがすがしさは子供のころの私の心を魅了するにあまりある。いつのまにか「独立愚連隊」の話になってしまった。「独立愚連隊西へ」は次の機会へと

るをえないほどだったという。帰国して中学・高校と演劇に興味をもち、高卒時の一九五三年東宝の第6期ニューフェイス試験を受け、3500倍の難関を突破して佐原健二らとともに合格した。「ゴジラ」(一九五四)は初の主演作。試写会を見て……以下、本文より抜粋。

見終わった後の試写室でワンワン泣きましたよ。

正直言って、僕は『ゴジラ』がこれほどまでに哲学的な作品だとは思っていません。もちろん台本は何度も読みましたし、監督の演技指導を受けながら、自分なりに一生懸命考え抜きました。

しかし、試写の直後に感じたほどの深みを台本からは読み取れていませんでした。ところが、単純にひとりの観客として、純粹に心を揺さぶ

うことで。私的なことだが、昨大大病を患い映画館へ足を運べない状態になってしまい、いまはある程度の健康を回復しているもの、人ごみの中へ出かけていくのはあまり気が進まない。そうであっても、こんな映画をリアルタイムで観ることができたことに親に感謝、時代が進み、今はDVDで手元においていつでも観られることに結構幸せを感じるのだ。

俳優としての未熟さもあつただろうと思います。しかし、出演者の想像力をはるかに超える、感動や深みを完成した映画は持ってるんだ、ということに改めて知る思いでした。数え切れないほど多くのスタッフが力を合わせることで、観客の心に訴える映画ができるんです。

映画俳優になってよかった、『ゴジラ』に出させてもらって本当によかった……改めてそう思えた。この瞬間こそが、僕の映画俳優としての、本今のスタートだったと思っています。

俳優たちの力、脚本、監督、音楽、照明などのスタッフの力が結集して初めて映画は力をもつことを改めて知らされる。(漂流介)

わたしのお気に入り 3

押切令子



我家の電話を  
映画の中に見る…

時計、鏡、靴…  
映画の中の小物は主人公の分身です  
映画のラストシーン「僕の美しい人だから」で  
珠五の美しきエリート広告マン、マックスの  
留守番電話は、求めていたはずの華やかな  
生活に微妙な距離をとる  
彼の心を語ります

幼なじみのニールは  
妻の死から立ち上がれない  
マックスを励ましますのですが…

この前はすまん。  
また外れな説教を  
した。電話くれよな  
(ニール)

ここでマックスは  
ノーラと会います  
そのバーガーショップが  
原題のホワイト・パレス  
神経質で頑固な母が  
うとましいマックス

女性からの誘いは  
後をたうません

ハイジよ  
今晚のコンサートの券  
があるの。来てくれた  
らうれしいわ

〇〇社の  
広告制作主任の  
コリンよ。朝食でも  
いっしょにいかが?

あしたはジェニーの  
お墓参りよ。4時に店に迎え  
に来て! ももし、ももし…  
(マックスの母)



僕の美しい人だから

レイチェルよ  
感謝祭にお母さまを  
招待したの。秘密の彼女  
を連れてくるのか教えて!  
(ニールの妻)

ノーラキで気の  
いいレイチェル  
ちょっとK.Y



ノーラ(スーサン・サランドン)  
はかなく見えて実は自立した  
女性だったマリリン・モンローに  
心酔するノーラ。不幸ばかりの  
人生に突然現われた美しい  
マックスにとまどいながらも  
自分をとり戻してゆく。

マックス(ジェームズ・スペイダー)  
売られたとはいえない家庭に育ち  
努力して手に入れた今の生活。  
事故で亡くなった妻とはあまり違う  
ノーラに強ひかれるが、全てを  
受け入れることができないうち  
とまどう。



ほどけそうになったくつむしを、ひさま  
づいて結ぶマックス。紅葉の公園  
での美しいシーンです。それ程大切な  
ノーラなのに、この直後に上司を見つ  
身を隠します。とても残酷です。

MEMO

1990年 アメリカ  
監督: ルイス・マンドーキ  
製作総指揮: シドニー・ポラック  
原作: クレン・サウエン  
「ホワイト・パレス」

# 田舎の映画生活

石館 範子

昨年(2017)夏に、青森の実家に戻ってきた。東京では、年中週に2回映画を観ていたのに、こちらではなかなか映画館に行けない。近くにないのだ。

家では家族が、TVで吹替の『インディ・ジョーンズ』シリーズや、『ワイルド・スピード』シリーズ、古いところで『GEMMON』。あとは、『必殺仕事人』などを観ていた。吹替は観る気はないし、興味がないので観なかった。

DVDを観られるようにつないであるというので見たけどつないでない。という事はポータブルプレイヤーなので画面が小さい。チャレンジしてみたけど、5分であきらめた。

## ・映画館への道のり

八戸の場合Ⅱ家の前からバス5分で町の中心へ。そこから八戸方

面のバスに乗り、1時間ちよつとでチーノ八戸のフォーラム八戸という映画館に到着。バス代は500円。

下田の場合Ⅱ家の前から十和田市内行のバスに乗る。30分程度だと思う。バス代は720円。八戸より近いのに、バス代が高い。なぜか十和田方面は、従来の乗れば乗る程運賃があがっていく方式のままらしい。(ある日ドライブバーさんに聞いたら、バス停で停車したまま詳しくていねいに教えてくれた。さすが田舎。ちなみに他に誰も乗ってなかった。)市内からは、別のバス会社のイオンモール下田行のバスで20分程度。中にあるT O H O シネマズおいらせ下田に到着。バス代は860円。

下田の方が、いろんな作品をやっているけど、朝早くでかけても家に帰るのが遅くなるのではと考え、八戸に行った。

『スター・ウォーズ/最後のジェダイ』を観たかったのに時間が合わず、しかも吹替のみ。他には『ジオストーム』、『キングズマン/ゴールデンサークル』、『パディントン2』などをやってたが、『ユダヤ人を救った動物園 アントニーナが愛した命』(2017 アメリカ

映画 監督ニキ・カロー)を観た。

ストーリーⅡ1939年、ポーランド・ワルシャワ。ヤンとアントニーナ夫妻は、当時ヨーロッパ最大の規模を誇るワルシャワ動物園を営んでいた。アントニーナの日課は、毎朝、園内を自転車で巡り動物たちに声をかけること。時には動物たちのお産を手伝うほど、献身的な愛を注いでいた。

しかしその年の秋、ドイツがポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が勃発。

動物園の存続も危うくなる中、アントニーナはヒトラー直属の動物学者ヘックから「あなたの動物と一緒に救おう」という言葉と、希少動物を預かりたいと申し出を受ける。そんな言葉に心を許したアントニーナだったが、ヤンは不可解な提案に不信感を募らせていた。ヤンの予感的中し、数日後、立場を一転したヘックは「上官の命令だ」と言う理由で、園内の動物たちを撃ち殺すなどの残酷な行為に出る。

一方でユダヤ人の多くは次々とゲットー(ユダヤ人強制居住区)へ連行されていく。その状況を見かねた夫のヤンはアントニーナに「この動物園を隠れ家にする」とい

う提案をする。

ヤンのこの作戦は、動物園をドイツ兵の食料となる豚を飼育する「養豚場」として機能させ、その餌となる生ゴミをゲットーからトラックで運ぶ際に、ユダヤ人達を紛れ込ませるといったものだった。人にも動物にも深い愛情を注ぐアントニーナはすぐそれを受け入れた。連れだされた彼らは、動物園の地下に匿われ、温かい食事に癒され、身を隠すことができた。

しかしドイツ兵は園内に常に駐在しているため、いつ見つかるもおおしくない。アントニーナの弾ピアノの音色が「隠れて」「静かに」といった合図になり、一瞬たりとも油断は許されなかった。

さらにヤンが地下活動で家を不在にすることが続き、アントニーナの不安は日々大きくなる。それでも、ひとり「隠れ家」を守り抜き、ひるむことなく果敢に立ち向かっていくのだが。

出演者Ⅱジェシカ・チャステイン、ヨハン・ヘルデンブルグ、マikel・マケルハットン、ダニエル・ブリュール

大好きなアントニーナ役のチャステインは、やっぱりかわいかった。ちゃんと映画を観てたのに、



大事件が発生!?

半年ぶりの映画館が嬉しくて、にやにやしながら楽しく観てたのに突然中断された。何だろうと思っっていると、ビル1Fの火災報知機が鳴ったからだ。準備が出来しだい再開するって、10分くらいかかってた。しばらくしたらまた中断。あきれてトイレに行ったらもう始まった。ショック。しよっちゆうある事なのかスタッフは落ち着いたものだった。

ユダヤ人を救った人物は、オスカー・シンドララーや杉原千畝がいる。シンドララーはドイツ人、杉原はドイツ友好国の外交官、このジヤビンスキ夫妻は、ドイツとソ連に分割されたポーランド人。自分たちも危険なのに、重罪とされるユダヤ人を救うなんて称賛に値する。こんな奇跡の物語は他にもあるのではないかな。

この作品の時の予告編で面白そうと思い、『スリー・ビルボード』(2017 イギリス・アメリカ映画 監督マーティン・マクドナー)を観ることにした。

ストーリーはアメリカ、ミズーリ州の田舎町エビング。"迷ったやつかボンクラしか通らない"さびれた道路に立ち並ぶ、忘れ去ら

れた3枚の広告看板に、ある日突然メッセージがだされる。「レイプされて死亡」「犯人逮捕はまだ?」「なぜ? ウイロビー署長」それらは7ヶ前に娘を殺されたミルドレッドが、一向に進展しない捜査に腹を立て、エビング広告社と1年間の契約を交わして出したものだった。

自宅に妻と2人の娘とデイナーを囲んでいたエビング警察署長のウイロビーは、パトロール中に看板をみつけたデイクソン巡査から報告を受ける。翌日、エビング社にデイクソンが乗り込みすごむが、法的には問題ないはずだとはぐらかされる。デイクソンはウイロビーを父親のように慕っている。

ミルドレッドは迫りうちをかけるように、ニュース番組の取材に対し、犯罪を放置している責任は署長にあると答える。努力はしていると自負するウイロビーはミルドレッドを訪ね捜査状況を丁寧に説明するが、「そうやって弁解している間にも、別の子が犯されてる」とはねつける。仕方なく末期がんのために先がないと告白するウイロビーに「町中の人が知ってる」と平然と答える。知っていて広告をだしたのかと驚くウイロビーに

死んだ後じゃ意味がないとミルドレッドが言い放つ。

町の人々の多くは、人情味あふれるウイロビーを敬愛していた。ミルドレッドは事件を起こすし、態度が悪く、町の人から敵視されるようになり、息子や元夫からも反発を受け、忠告される。

警察を追いつめて捜査を進展させるはずが、孤立無援になっていくミルドレッド。さらにある晩、ウイロビーが自ら命を絶つてしまう。衝撃の事件に、エビングの町は騒然となる。ウイロビーが、妻のアン、デイクソン、ミルドレッドに遺した手紙が彼らの考えを改めさせ、決意を強くさせる…。

出演者はフランシス・マクドーマンド、ウディ・ハレルソン、サム・ロックウェル、アビー・コーニッシュ、ジョン・ホークス。またもお気に入り、マクドーマンド、ハレルソン、ロックウェルが出演しているので嬉しくつてにやにやしてしまつた。

始まってすぐマクドーマンドがノーメイクでキビしい顔して出てきただけで「いいぞ! いいぞ!」って思った。怒りのエネルギーを放射し続けるミルドレッドを演じて、かっこよかった。スト

リーは想像とは全く違う方向へ行く。予測不可能な作品だった。ロックウェルが演じるデイクソンが過激で、常軌を逸してる。またそれがはまっていた。彼はいい奴もできるけど、トラブルメーカーやアウトサイダーこんな悪役のようではもつと複雑なキャラなんてびつたり。演技を観るだけで泣けた。キャリア最高の演技という人もいる。ただ、ウイロビーの遺言に触発され、デイクソンが真人間に生まれかわろうとするエピソードがラストにあるけど??? 納得できず好きではない。

田舎に来て10ヶ月たつても、映画館へ行ったのは2回だけ。TVで新作の予告がでてる度に観に行きたいと思う。でも行けないからDVDだと思っけど、家に再生機器がないし、レンタル屋さんには影も形もない。売つてるところは町中に1件あるけど、カメラ屋さんで、在庫はほとんどなく取り寄せになつてる。あとホームセンターで大昔の作品など398円で売ってるくらいかな。映画館へは行けないから何とかTVで映画を観る方法を考えなくてははいけない。

映画観たい!

—読者から—

〈第5回〉

## めぐる双六警備員室

農律 捨丸

関田監督。じつに、ひさしぶりに映画館へ行きました。「ひいくんのあるく町」という短いドキュメンタリーです。新聞の地域面でえらい持ち上げぶりなので動かされたいわけなのですが、じつは、私の江戸時代の先祖たちが住んだ町が舞台なのでした。Y県I町。若い監督が映画大学の卒業制作にしたもので、私にとっては手頃なルーツ探訪なのですが、映画ってこうした田舎の小学校での映写会のように、わくわくした予感が、すでに楽しみの半分を占めているのでしょうか。それで関田監督。地下シネマへ入る気分、今回の話をきいてください。

〈報告 一〉またの登場で恐縮で

すが、やはり口つり事件です。今回はすっかり遭遇しています。九月某日の午前五時。秋の朝がやつと明るさを帯びる時刻です。ひと晩の巡回で五回も通る順路に、一本の大げやきがあります。現場はここで、しかも手頃に切られた一本の枝あり。高さ約三メートルのところはこの切り株さえなければ、という設定なのです。私が歩く前方で、別棟にいるはずの宿直警備員の大声。「オーツ、オオ」。異変の起きたことは直ぐにわかります。「人身事故だ！ あっち」。瞬間、我ながら覚悟をして、その木へ向かいました。第一発見者は、早朝のランナーの一人だったようで、まだ暗い中を、さぞやあわてて宿直室へ駆け込んで来たことでしょう。暗い中にも、木の幹のシルエツトがいつもと違うのがわかります。人の身体が貼り付いている！ 私と一緒に巡回中の相棒、宿直者、そして、その場に居合わせてしまった数名のランナーたち。一人は警察へ通報をしてくれています。私はまず、これは現実だ、落ち着いて、と心の中で自分に言うのですが、これがすべて逆回転でも起こしそうな感じでした。LED光を当てると、四十歳前後の男

性のように見えます。現場保存だと考えながらも、まず生死の確認をしなくては。恐る恐るも、垂れ下がっている腕に服の上から触れてみず。固い。声を掛けてみるまでもなく、すでに事切れているのだと判断しました。真新しくも白い、太いロープを使って、脚立まで用意。それを蹴って飛び立つたようです。ここまでは、自転車を使つて来ていました。じきに、警官が到着。次いで救急車。ふだんはクルマを入れない通路ですが緊急事態です。救急隊も一見するなり、手の施しようもないという見立てでした。そんなに長時間もここに。救急車は帰り、まだそのままの遺体と三名の警官たちが残りました。先輩が後輩に、こういうときは、こうなっている……を実地で教育しています。私は、この間ほとんど遺体を直視出来ません。それでも小一時間、通行人たちを通さないように、警察に協力をして近辺三メートルにいるのでした。この間、自社へ一報を入れ、公園の責任者へも、とひととりの対応をしました。

どうも、警備員としての真価を問われそうなのですが、当日、私は「これは現実だ」を何度も唱えていたに相違ありません。何といつても、目の当たりで、人の生き死にに遭うというのは、日頃の感覚を超えるところがあります。いくら冷静に、距離を置いてみたりもりでも。しかもなお、その後もひと晩に五回も現場を通ることは変わりないわけで、四十九日間は必ず大げやき前では足を停め、両手を合わせましたよ。相棒たちにもそれを求めました。現在もその切り株はそのままになっています。夜間の野球場照明が、ちようどそこを明るく照らします。まるで私は、毎回肝だめしをされているようなものではありませんか。そして後日。仏様は六十代男性という情報もたらされました。一体、自分の観察眼というものも、どうなっていたんでしょうか。

〈報告 二〉「殺害予告」なんです、ネット世界ではありません。現実の、しかも早朝七時のはなしです。春になれば、ただでさえ楽しい気分になるもの。そんな調子で、明るい公園の中、ちようど体育館のうらを回ろうとしているところでした。私の前方左からランナーの足音がひびいて来ます。左へよけようと寄りました。現れたのは、仲間うちでコードネーム「狂

暴そうランナー」という、この一年ほど早朝のランニングをしている男性。いつもグレーのニット帽で鋭い黒のサングラス。走り方がつま先着地スタイルで、一見おっかないサンです。シュツシュツという掛け声も入り、あつまた来たな、でわれわれ警備員はうまく彼をよけて歩くのですが、この朝、左舷九十度から現れたこの魚雷は大人しくはありませんでした。すれ違いざま、サングラスが〇・一秒間こちらを観察して何やらの表情を半分示します。私はそのままやり過ごし、さらに、二、三度方向転換をして、サッカー場よこの長い直線へ入りました。直前に相棒と別れて一人になります。ヒタヒタと後ろから足音がして、私はまた左へ寄ります。すると、やにわに先ほどの狂暴さんが目の前に立ちはだかりました。警備のじいさん。さつき、オレを見たな」

「警備員は人を見るのが仕事です。危ないですから通してください」と私。狂暴さんとの車間八十センチメートル。こりやいかん、と私右へ二歩。狂暴さんも同じく右へ私、うしろへ二歩。狂暴さん前へくる。「今度オレを見たら殺す」。私、無言。狂暴さん、私めがけて

右のジャブを一発出す。顔の前五センチの寸止め。ニヤリとうれしそうに笑って、そのまま走路に背中が見えなくなりました。さきほどの大げやきのあたりです。不思議と恐怖を感じることなく、まあ冷静に対応出来たのは、あの事件の霊のおかげなのかも知れません。このところ、公園下方の商店街に、K1だかムエタイだかのジムが二つもオープンして、ややや、どうなるのか…という事情をかかえたところなのでした。こうして、なんだか物騒な感じのランナーたちに走る場を提供しながら、まわりまわったところで、自分が殺害予告を受ける。「天才バカボン」の本官なら、もう実弾発射ものである。しかし現実の警備員の仕事は、こうした不当な暴力に無言で耐える場面が多いのです。なぜかって、警備員には何ら特別の権限もなく、相手の実力行使にはひたすら逃げるしか手がないのです。正当防衛の範囲というのも、いろいろと圧縮されてしまうのが多いようです。それで、「おっと危ない」ような時には、まず、ひたすら離れる。なめられようが、バカにされようが、まず逃げる。ただ、案外とこれが難しい。とくに、私のように他人

に格好わるいところを見せたくない、さらに地元のよき市民と自負する見栄坊型は、その最初の一歩がつけられない。こちらの行動は正しいと、少しの疑いも持たない場面が、その発火点となったりするケースが多いのです。警備員は軽く見られているくらいが安全。ただこれも、見ザル、言わザル、聞かザルの「異常なし警備員」になるくらいなら、仕事を辞めたほうが心身の健康にはよいのかも知れません。それで、その後この狂暴さんの件はどうなったかといいますが、そのままなのですが、どうやらこの人、他にも「強いところを見せてやりたい」場面をいろいろとお持ちになったようで、だいぶ有名人となっています。それからふた月もして、ある日のこと、朝一番の開錠作業をしてふとふり向くと、頭半分ごま塩の五十男が走ってきます。足音と走り方はあの狂暴さんなのに何か迫力を欠いています。サングラスを外して視線が下つているのでしょうか。強がりくたびれたようなすがたで現れました。こちらも知らぬ振り。これからは、お互いに事情があるような、ないような関係を持つことになりそうなのです。

〈報告 三〉子どもたちに手が掛かっています。といっても、自分の子ではありません。公園に集まり出した若ものたちのことです。私が以前パートタイマーとして、Y市の青少年施設の世話係をしていたことを思い出してほしいのですが、現在のように、夜中の公園の巡回警備の仕事に就いていても、やはり一方の主役として現れるのは子どもたちでした。正確には準こども・準おとなかな。バイクを乗り回すようになった高校生の集団、何が不足なのか、あまついでるのか、夜中に集まって楽しくやるうぜというふうにやって来るのです。現在は十名くらいですが、なかなか一人前のいたずらをしてくれるようになりました。一、二年まえは、まだ中学生だった彼ら。何をしてもなく、どうやら「自己表示・表現衝動ふう」の表情を見せながら集合してきた彼らに、どう対応したらよいか。はつきりもスッキリもしないままに、公園の夜はつづいてきました。これはナイショですが、中学生時代の彼らは、全員が競って自分の名を覚えてくれるほど、警備のおじさんとも「近い」ところがあったのです。でも、そうしたあやふやな関

## 映画観放題の毎日

堀江 広子

係は必ず厳しい関係になつてゆかざるを得ません。Y市センターで勉強したはずの私も、まだまだ足りませんでした。少しずつエスカレートした彼らの行為に手の打ちようもありません。パトカーに追

われて来るバイク少年を、「しっかかり捕まつてしまえ」と突き放しているのが、ほんの昨今です。事態は動き、どんどん先へ進みます。とことんつき合う覚悟がなくては、この先どうなつてしまうのやら。

七十歳ちかくなつてこのザマではやはり反省すべき人生であつたかとの思いもつのりです。息子も現在、非正規雇用ながらゲーム企業で「リーマンぐらし」をするようになりました。親父は

おやじで、このとおり。いつ「さらば警備員室」を報告出来ますことやら。今年の夏も、まだまだ暑くなることでしょう。あとは、一日も早く「作品」づくりに取り掛かることですよね、関田監督。

鑑賞するのだ。時折、飼っている猫のハナが私のお腹の上のつて来てジャマをするけど。

してくれなくていいからねと云つておいた。

心地よくなつてくる。  
韓国サスペンスも多数あるし。願わくば、溝口健二、成瀬巳喜男らの映画があつたら最高だ。

蛇足だが、我が家で飼っている日々食つちや寝のぐうたら猫のハナは、必要且つ切実になると、人間の言葉を懸命に理解しようとす。おやつ、お外へ行こうか、まんま、ダメ、待つて、おしまい、おすわり、まだですよ、後でね、これらの言葉の意味は分かっているらしい。もっとも返ってくる返事は「ニャー」の一言だけだ。

さあ、それからというもののWOWで観たい映画がないときは、ネットフリックスでおもしろそうなドラマを探しては毎晩のように愉しんでいる。今ではハリウッド映画だけではなく、ネットフリックスオリジナル作品がどんどん増え、しかも最近結構見ごたえのあるものが出てきているのだ。

「藪の中」にふりまわされず  
労働者よ怒れ  
一方、現実社会は見るも無残なことになっている。首相や夫人の不見識な言動から始まった森友学園事件と過剰な付度もたらした官僚の不正、首相の親友の野望に応えた獣医学部新設に絡む加計学園問題、無責任な対応で騒動になっている日大。加えて至学館大学学長のお粗末な会見やら、このところ組織のトップの劣化？が目立っているようだ。

映画は映画館で観るべきだと周りの人たちに言われていたし、基本的に自身もそう思っている。言い訳になるが、邦画かハリウッド映画しか上映されない町に住んでいるので、観たい映画は、レンタルビデオを借りるか、WOWWOWでしか観られない。仕方なく自宅でせめて映画館の雰囲気味わおうと、夫が寝室に消える真夜中のリビングルームで灯りを消し、ソファに寝そべって静かにゆつくり

TVで映画、合間にサッカーW杯、テニスの四大大会を観て、猫とくつろぐ真夜中の時間帯が、最高に幸福を感じるひとときである。そんな私に一年ほど前、朗報がもたらされた。ネットフリックスなるメディアである。東京に住む息子が、映画を見放題出来るよと契約して、月々の料金も払ってくれるという。月千円程らしいが、思わず、息子よこの先もう親孝行

『マイノリティハンター』というシリーズ物がおもしろかった。全編ではないが『セブン』のデビッド・フィンチャー監督も手がけている。毎回冒頭で、ある連続殺人犯(シリアル・キラー)の日常や、犯行までの下見や段取りの様子を切り取って見せておいて、本編では別の事件を追っているFBIを描き、少しずつ関連づけていくという斬新な演出が光っている。しかもなかなか解決に向かって行かずもどかしいけど、それにも慣れて

またまた余談であるが、日大と聞いて思い起こすのは、ユニークな人材の宝庫、芸術学部存在と五十年前に日大全共闘議長だった秋田明大さん。誰？と思う方もいるだろうが、当時田舎の女子学生

だった私にとって、都会で起きて  
いる事とはかく刺激的だった。

秋田さんは、ご健在のようなので、  
これ以上書くのは控えるが、その  
日大内部があのような事になって  
しまっていたとはね。

何もかも、真相は「藪の中」に  
埋められていきそうな感じである。  
藪の中といえ、黒澤明監督の  
『羅生門』。この作品は、ヴェネチ  
ア国際映画祭で金獅子賞、さらに  
アカデミー賞名誉賞を獲得し、一  
躍世界のクロサワになったのだと  
いう。

受賞したのが昭和二十六年。筆  
者の生まれた年だ。戦後の混乱が  
漂っている時代で、多くの国民が  
食べていくだけでも大変な頃だろ  
う。そんな時代に、今に通じる作  
品を撮っていたとは驚きだ。地方  
じゃ狐やたぬきと追いかけてこし  
ながら地べたを這いずって生活し  
ている農家が多かったのだ。(狐と  
たぬきと追いかけてこというフレ  
ーズは、農家出身のわが夫の常套  
句で他人さまには全く通じないの  
で悪しからず)

黒澤明監督の作品では「天国と  
地獄」が好きだ。「羅生門」は、国  
内では難解な映画と捉えられあま  
りパツとしなかつたらしい。それ

が海外では大変高い評価を受けた  
のだ。

時代は平安末期、山中で一組の  
夫婦の夫が何者かに殺され、妻が  
暴行される。二人の目撃者と生き  
残った妻の三者の言い分がそれぞ  
れ異なり、真犯人が特定出来ず、  
誰の言っていることが正しいのか  
最後まで分からないというような  
映画だったと思う。

真相が藪の中というか、中部圏  
に住む人たちがよく言う例えに、  
茶の木畑に入ってしまったという  
のがあるが、国会で問題となって  
いた森友、加計両学園の件がそれ  
であろう。

実態があまりに酷すぎて問題点  
が絞れず、しまいには国民の意識  
もボンヤリとしてきているのではな  
いか。或いは、もうどうでもいい  
わと諦めの境地に入ってきてる？  
知られたら都合の悪い事を隠す為  
に、みんなで付度してかばったと  
いうこれっぽちも美しくない馬鹿  
げた単純な話なのだ。

そんなこんな政府の茶番劇に  
世の中がふりまわされている内に  
いつの間にか政府の進める働き方  
改革関連法案が通ってしまった、労  
働時間でなく成果で決める実質残  
業代ゼロの高度プロフェッショナ

ル労働に関する法案も、とうとう  
決まってしまったが、悪法だと思  
う。

さらに、兼業、副業も推奨しよ  
うとしている。どんだけ働かせる  
つもりだ。

我々が三十代の頃、男女雇用機  
会均等法が制定されたり、労働者  
派遣法が導入されたりした。バブ  
ル経済で世の中が浮かれていると  
きにあれよあれよと決まっていっ  
たような気がする。確か最初は男  
女雇用機会平等法だったのが、あ  
る政治家の強力な思惑で均等法と  
いう言葉に変えられたとマスコミ  
関係の知人に聞かされたときは、  
大いに憤慨したものだ。労働者派  
遣法も当初は人材派遣といつて特  
定の職種に限られていたのが、規  
制緩和され、今ではご存知のと  
おりあらゆる職種に適用され正規  
労働者と不正規労働者の格差があま  
りに大きな社会問題となっていっ  
たではないか。

いつも思うことであるが、政治  
に携わっている人たちって何でこ  
うも想像力に欠けているのだろう。  
わざと？国民を完全にバカにして  
る？官僚の人々は国民が納めた税  
金から給料を貰っているのを忘れ  
てる？政治家に盲従するのが正し

い仕事と思ってる？

それより世の労働者は、もっと  
怒らないといけない。怒りは、神  
様が人間に与えてくれた正当な感  
情だと思う。

我が家では、夕方四時にTVを  
つけて、再放送の「水戸黄門」に  
チャンネルを合わせる。猫のオヤ  
ツの時間の時計代わりに、見ると  
もなく見ている。毎回似たような  
単純なストーリーで、家老や代官  
と欲にまみれた商人が悪たくみを  
して、農民や町民を騙し、陥れる  
といったドラマを半世紀に亘って  
放映している。大いなるマンネリ  
ズムといわれたこのドラマ、いつ  
ぞ、国会議事堂の大会議室にバカ  
でかいスクリーンを設置して毎日  
流したらいいのではないか。少し  
は、政治家や官僚の不道徳な行  
いのクスリにならないだろうか、  
半ば本気で思っている。

前回に続き、今回もとりのめの  
無い愚痴を書いてしまったが、つ  
まるところ、黒澤明監督は凄い人  
だったと書きたかった。

『羅生門』は、生きとし生ける  
人間の複雑な事情と内奥を冷徹に  
描き、愚かさを見事にあぶり出し  
た名作だった。

## トランプ & 安倍政権下 タイムリーな作品

「ペンタゴン・ペーパーズ 最高機密文書」

片桐公男

2017年1月、マスコミを敵視し攻撃するドナルド・トランプ政権が誕生した。彼は政権に厳しいメディアを「フェイク」扱いして攻撃している。日本でもマスコミを政権側に取り込もうと安倍政権のマスコミ対策が進められていた。新聞界も例外ではなく大手各紙幹部が首相と会食するなど、政権とマスコミの在り方が問題視されていた。勿論、日本のマスコミの中にも骨のある人が居て、「報道の自由」を守るために政権と一線を画すマスコミ人や会社が存在する。

映画は60年代、泥沼化するベトナム戦線。雨の中ジャングルを米兵が行軍し銃撃戦が展開される場面から始まる。

邦題の機密文書「ペンタゴン・ペーパーズ」の正式名称は「ベトナムにおける政策決定の歴史1945年から1968年」といい、

アメリカ政府のベトナム戦争関与の実態を記録した内部資料だ。この膨大なレポートによれば、歴代政権はベトナム戦争で勝目がないことがあらかじめ分かっていたから、国民を欺き、何百万人も若者を戦地に送り込んでいたという。資料作成に関わっていたシンクタンクの間は内部告発を決意する。71年に報告書のコピーを秘密裏に作成し、ニューヨーク・タイムズ紙に送付。かくしてペンタゴン・ペーパーズの存在が世に知れ渡ることになった。しかし、当時のニクソン政権は司法省を通じて記事の差し止めを求める訴訟を起こす。「情報漏洩によりアメリカの安全保障が危険にさらされる」という理由で。

ニューヨーク・タイムズ紙は、入手した資料を3カ月かけて精査し報道を決断する。遅れて同じコピーをワシントン・ポスト紙も入手する。ベン・ブラッドリー編集長（トム・ハンクス）は、腕利きの編集者を集めてスクープ記事を作成。しかし、ニューヨーク・タイムズ紙と同じ情報源の記事を出版した場合、投獄されるリスクがあることがわかり悩む。しかも、同紙は上場を控えているため、銀

行筋や出資者は不要なスキャンダルは避けたい。キャサリン・グラハム社長（メリル・ストリープ）は、銀行筋や投資家から記事掲載しないよう再三迫られる。グラハム社長は、悩みながら重大な判断を迫られることになるが、発行時間を迫る中、記事掲載を決断する。ワシントン・ポストと並んで地方の各紙も続々と秘密文書を掲載する。ライバルであるニューヨーク・タイムズなど、新聞界が丸となり裁判をたたかい連邦最高裁で勝利する。「報道を守るのは報道しかない」「政治家と仲良く葉巻をくゆらす時代は去った。権力を監視しなければ」との作品中の台詞は、「報道とは何か」「ジャーナリズムはどうあるべきか」を観た人に再認識させるであろう。私もその一人だ。

この作品がタイムリーな理由がもうひとつある。本作の真の主人公はストリープ演じるキャサリン・グラハム社長だ。重役に男性しかいない70年代のビジネス界において、まともに発言すらできなかった気弱な彼女が、会社の命運を左右する英断を下すリーダーへと成長していく。

私は社会派の映画が好きでこの

種の映画は比較的よく観る分野だ。最近では「ウインストン・チャーチル」も観ている。もう一つ、音楽が好きでミュージカル映画も比較的観る分野だ。また、スピルバーグ監督の視点も好きで、この映画のタイトルを紙上で目にした時、「絶対観に行く」と思った。60年代私は20代、所属する労働組合は、新安保条約反対のスト権を確立して岸政権を退陣に追い込もうとしていた。

勿論、組合の中には政治ストに反対する勢力がいて、会社と結託してスト権確立を不成功に終わらせようとしていた。若かった私は仕事が終わるのを待って毎晩国会周辺のデモへ出かけた。（いわゆる「60年安保闘争」）国労のスト支援に上野駅で徹夜して支援のピケを張ったこともあった。

ベトナム支援にも力を注ぎ、1日分の賃金をベトナム支援カンパに拠出するなどした。

世界一強大な米軍がベトナム（ベトナム解放戦線）に追い詰められていく戦況に「正義の戦争は必ず勝つ」と、拍手を送っていた若者だった。この映画を観て、50年以上前の時代と若かった自分の姿を思い出していた。

とても静かで  
きれいな映画

『彼らが本気で編むときは』  
(監督＝荻上直子)

藤井 陽子

深く、深い悲しみ。悔しさ。葛藤。  
ちよつとの絶望と、意志のある  
希望。

ささやかで、この上ない喜び。  
お互いを思う羽毛みたいな優し  
さ。精神的献身。

慎ましき。謙虚さ。  
それらの裏側に隠し持つ、激し  
さと熱。

みんな、色んなものを心に抱え  
ていてざわざわしているはずなの  
に、とても静かで、きれいな映画だ。

生田斗真のリンコさん、素晴ら  
しかった。とても美しかった。外  
の器がどうこうじゃなくて、中の  
器(心)が美し過ぎて、そしてそ  
れが仕事や言葉や表情ににじみで  
ているような人で、それはそれは  
美しい人。美しいとは、こういう  
ことか。沢山沢山、沢山、泣いた。

この映画は、母子家庭で育つ孤  
独な小学生の女子・トモが母親に  
出て行かれ、久しぶりに叔父のマ  
キオ(桐谷健太)に会い、マキオ  
の家でマキオの彼女・リンコと一  
緒に、3人でちよつと変わった生  
活を送る中のストーリー。

「私ね、産まれたときは男の子だ  
つたの」という言葉の通り、リン  
コはトランスジェンダー(性同一  
性障害)として生きている。

母親からご飯を作ってもらった  
事のないトモは、リンコの美味し  
い料理の数々に感激し、リンコ  
が作る可愛いキャラ弁にときめき  
髪の毛を可愛く結んでくれるリン  
コの器用であたたかい手に安らぎ  
を覚えているようだった。

リンコには、日課にしている作  
業がある。黙々と続ける編み物だ。  
理由を聞くトモにリンコはこう説  
明する。

「私はね、これですつげー悔しい  
事とか、死ぬ程悲しかったりする  
事を、全部キャラにするの」

母親の愛情を1mmも感じられず  
に孤独で頑ななつぼみのように育  
つたトモは、トランスジェンダー  
として既に悟りと達観の境地で生  
きるリンコに憧れやシンパシーを  
感じると共に、いつでも海のよう

な愛情で包み込んで何でもしてく  
れるリンコの母性に心の氷を溶か  
していく。

同時に叔父のマキオからトモは、  
マキオがリンコを選んだ理由らし  
き事を聞かされる。

「リンコさんみたいな心の人に  
惚れちゃったらね、あとの色々な  
事はどうでもいいんだよ」

リンコが日々本気で編んでいる  
ものを、トモとマキオも一緒に編  
み出す。悔しい事、悲しい事、嫌  
で嫌でしようがない事。ネガティ  
ブな感情を、本気で「それ」を編  
む事でそれぞれがキャラにする。  
リンコは「それ」を、108個

編むと言う。  
身体工事は終わって女性の体を  
手に入れているリンコは、「それ」  
を108個編んだら、儀式をする  
とも言う。

産まれた時にはリンコの体に確  
かに付いていたもの。リンコは、  
心と体の乖離により潜在的に忌み  
嫌ってきたかもしれない「それ」  
に対して、大人になって自分から  
切り離れた事によって逆に慈しむ  
べき存在である「それ」へと変わ  
り、真の決別として108個本気  
で「それ」を編む事に託してもいた。

簡潔に言えば、それは、男根の  
鎮魂といったところか。

中学生の頃にリンコに、ここに  
こしながらブラジャーをブレゼン  
トしたリンコの母は、素敵だ。そ  
れをとつても嬉しそうに身に付け  
て、母と息子が共に幸せそうにし  
ている姿も、素敵だ。

リンコの母は、例えば自分が自  
分の子供であっても偏見と差別意識  
を捨て切れずに「普通じゃない」  
と卑しくも堂々と攻撃してしまう  
世の中の親・大人には、月並みだ  
けど爪の垢を煎じて飲ませたいよ  
うな母親だ。

108個を編み終わり、3人で  
浜辺で焼納(?)するシーンは印  
象的だった。燃え上がる炎がやけ  
にきれいで、正直108個のアレ  
はやけに可愛かった。

3人とリンコの母の他に、同じ  
く性同一性障害を抱えるトモの同  
級生の男子とその母親、最後まで後  
味悪めに出てくるトモの母親、確  
執と連鎖でつながったトモの母親  
の母親など、静かな中に、それぞ  
れが良し悪しは別にして強烈な存  
在感で映画の中に佇んでいる。

リンコを絶望に叩き落としたかのように見える最後のトモの選択だけど、100人いれば100通りの解釈を見ている私達に促すかもしれない。

私個人で言えば、トランスジェンダーに関しては昔から(初めてオカマとかゲイとかを知った中学生の頃から)まったくもってなんの偏見もなく、むしろ人として凄



イラスト||筆者

く興味深く親しみのある存在として受け止めている。

でも当事者からすれば、私のような人間ばかりではない世の中で、想像に難くない差別と偏見の暴力の中で生きていかなければならぬ(かもしれない)現実がある。

終わらない暴力にさらされて今も生きているリンコが、本気で編む事で、深く傷付いた自分の心に折り合いをつけながら乗り越えてきた。

その象徴が、108個のアレだった。

わかりやすく、感じやすい作品であるからこそ、私は当初、背景や説明を抜きにして少し違った視点からこの映画の感想を紡ぎ出すと考えていた。

それは、主人公のリンコの視点から、リンコの心の声みたいなもの、妄想ポエムで綴る事。

いつも静かに穏やかに、必要最低限の言葉で語り、あまりにも沢山の我慢と忍耐を強いられてきた謙虚で慎ましく母性に溢れたリンコが、ちよっとだけ私情を挟みながら本音を語るとしたら…と勝手な妄想で綴るポエム。

せっかくなので、妄想ポエムを

タラタラ綴って、感想文を終わりにしようと思う。

男子で産まれて女子に育って大人になったからあなたにさようなら

でもたくさんありがとう

傷付いて

大嫌いで

恨んでもいたけど

ずっと私にくっついて離れなかつたもの

108個編んだら

ほんとのお別れの儀式をしまし

よう

私が死にたくなるくらい悔しかった時

私が死にたくなるくらい悲しかった時

あなたが本気で編みました

代わりに私がくつつけたのは

ニセモノのおっぱい

ママが男子の頃の私に買って

くれたブラジャーが

似合うようになったかな

心から愛している大好きな彼に

似合うようになったかな

似合うようになったかな

似合うようになったかな

心から愛している大好きな彼に



大切にしてもらって  
とても幸せ  
私を全部受け入れてくれる最高の人

トモちゃんのママになれたらも  
つと幸せ

3人で家族になれたら  
死にたくなるくらい幸せ

ほったらかしで  
ご飯も作ってくれなくて  
家にも帰って来ないママは失格よ

トモちゃんのママに私  
なれたらいいな

トモちゃんのほんとのママには  
負けちゃったけど

少しの間私をママにしてくれて  
ありがとう

トモちゃん  
強くなって必ず幸せになるのよ

またおっぱいがべったんこのト  
モちゃんに  
私が編んだおっぱいをあげる

私のママはね  
いつも笑って私を全力で守って  
くれたのよ

私のママじゃなかったら  
私は私じゃなかったわ

トモちゃん私  
選ばれなかったけど

遠くからトモちゃんを見守って  
る

もう1人のママみたいだね

きれいに化粧粧して  
ワンピースを着て

ヒールのくつを履いて

何でも作れる料理が自慢で  
キャラ弁も作れて

トモちゃんの髪の毛可愛く結べ  
ても

みんなは私を男に見るの  
普通じゃないって言われるの

でも

本気で編んだ108個のあなた  
を弔った時

浜辺で輝く炎がとつてもきれいで

3人で炎を眺めていたら  
報われた気がしたの

私はあなたを編みながら

私の全てを編んでいた  
悲しみも苦悩も  
夢も願いも希望も

マキオとトモと私  
抱えている思いをぶつけるよう  
にして

みんながあなたを編みました  
3人であなたを編みながら

私は家族を編んでいた  
それは叶わなかったけど

マキオと私

トモの幸せをこれからも祈って  
る

そしてそれから  
弔った108個のあなたが

これからの私をもっともつと強  
くたくましく

美しく優しく清らかにしてくれ  
ると信じています

あしたのジョーの感動、再び

「あゝ、荒野前・後篇」(監督岸善幸)原作は寺山修司の同名の小説。この映画は、寺山修司の「あしたのジョー」だ。「あしたのジョー」は、1970年前後「少年マガジン」誌上で話題を呼んだ。原作・高森朝雄、マンガ・ちばてつや。ジョーのライバル力石徹は、激闘の末、減量苦がたたってリングで死んでしまう。その後、寺山修司が中心となって、原作者や出版関係者とともに葬式をあげたの

である。力石徹の死はマンガとはいえ衝撃的で、フイクシヨンの世界の登場人物を弔う前代未聞のイベントは、さらに我々読者をも驚かせた。映画の舞台は現代、それも数年後の新宿・歌舞伎町に設定されている。東日本大震災、自衛隊のイラク派遣など原作にはなかった話を盛り込んで、自殺や母親に捨てられたり死に別れた子供の話など、負の話が絡んでくる。この辺は寺山の世界か。貧乏ジムに二人の若者が入門して

くる。ジムの責任者は片目の男(ユースケ・サンタマリア)。丹下段平か。二人は4回戦プロボクサーとしてデビュー。それぞれ新宿・シンジ(菅田将暉)、バリーカン・ケンジ(ヤン・イクチュン)と名乗る。シンジは少年院上り。これもジョーを髣髴させる。仲間を半身不随にされて復讐に燃えている、野獣のごとき男。ケンジはどもりの二世。流れの床屋職。内気な、ボクサーらしくないボクサーだ。二人の父親はともに自衛隊員

でイラクに派遣されたことがある。ケンジの父親がシンジの父親の上官だった。戦場のトラウマでシンジの父親は自殺してしまう。母親は子どもをシンジを教会(施設)に預けてそのまま失踪。その母親とは意外な場所での出会うことになる。男たちに異性も絡んできて……。最後はシンジとケンジがリングの上で戦うことになる。のた打ち回って生きていくしかないのか、人間は……。

(流 漂介)

## 特集

映画ときどき  
プライベート

少林寺拳法シニア流山健康クラブ

今年も本紙編集責任者である関田がお世話になって「少林寺拳法シニア流山健康クラブ」代表者石井宏明先生(八段)の皆さんに映画の原稿をお願いしました。今回は映画のみならず、プライベートな内容の原稿もOKとしました。数々の力作をおたのしみください。

映画あれこれ、映画館  
あれこれ

石井宏明

「音の出るもの何でも好きで」は、かの有名な北島三郎のヒット曲。『風雪ながれ旅』の一節であるが、私はと言えば、音の出るものは和洋、ジャンルを問わず知識は浅いながらも何でも好きである。歌舞伎をはじめ日本の伝統的な話芸(落語、漫才、講談、浪花節)にも親しんでいる。最近では映画も映画のための映画だけではなく、シネマオペラ、シネマ歌舞伎、歌手のラ

イブ中継録画など多種多様である。

オペラには関心はあったが、チケットが高価で劇場まで行くには敷居が高い。ある時初めてシネマオペラを観てその魅力にはまった。シネマオペラでは、メトロポリタンオペラやロンドンロイヤルオペラの本場のオペラ歌手の迫力ある声や姿に触れ、合間に出演歌手へのインタビューや楽屋裏の情景まで紹介してくれる。一般の映画よりは入場料も高めではあるが、劇場に足を運ぶことに比べれば格段の安さである。

母に連れられて何度か歌舞伎座に通った。祖母は歌右衛門と先代吉右衛門のファンであったが、私は美しい女形の先代時蔵と凛とした爽やかな口跡の寿海のファンだった。シネマ歌舞伎には名優勘三郎や当代随一の女形玉三郎や関西歌舞伎を代表する立役、仁左衛門が登場するのは嬉しい。

また、歌手のライブ中継録画も魅力的である。なかなかライブには行けないが、今まで中島みゆきやX JAPANそして浜田省吾のシネマライブを観た。ヒット曲以外の歌も聴けるし、歌手の素顔も垣間見られる。

最近の映画の多様性を実感する今日この頃である。

ところで私の住む流山の自宅から三十分以内で行ける映画館が三館ある。東宝シネマズ流山おおたかの森、ムービックス柏の葉、そして柏のキネマ旬報シアターである。私は上映作品に応じて三館を巡り歩いている。これから私なりに感じているこの三館の特徴を挙げてみたい。

母に連れられて何度か歌舞伎座に通った。祖母は歌右衛門と先代吉右衛門のファンであったが、私は美しい女形の先代時蔵と凛とした爽やかな口跡の寿海のファンだった。シネマ歌舞伎には名優勘三郎や当代随一の女形玉三郎や関西歌舞伎を代表する立役、仁左衛門が登場するのは嬉しい。

また、歌手のライブ中継録画も魅力的である。なかなかライブには行けないが、今まで中島みゆきやX JAPANそして浜田省吾のシネマライブを観た。ヒット曲以外の歌も聴けるし、歌手の素顔も垣間見られる。

最近の映画の多様性を実感する今日この頃である。

ところで私の住む流山の自宅から三十分以内で行ける映画館が三館ある。東宝シネマズ流山おおたかの森、ムービックス柏の葉、そして柏のキネマ旬報シアターである。私は上映作品に応じて三館を巡り歩いている。これから私なりに感じているこの三館の特徴を挙げてみたい。

まずは我が家から最も近い東宝シネマズ流山おおたかの森まで自転車ですら十数分で着く。駐輪場は有料で四時間で百円、三時間増す毎

「少林寺拳法シニア流山健康クラブ」は、一般財団法人少林寺拳法連盟の管轄下であり、少林寺拳法の技法のエッセンスを取り入れた手軽な運動により、健康増進を目的として活動しています。流山市立常盤松中学校・武道場で週2回(火曜・木曜、夜7時から1時間半)、流山市コミュニティプラザで週1回(金曜、朝10時から1時間半)練習しています。

題と言っても一カ月に観られる本数は私にとっては三十本が限度である。一度だけ一日四本観たことがあったが、疲れ果て映画の内容も頭の中で錯綜していた。また、

ここではプレミアアスクリーンという上映館が十一館中一館だけあり、少々高級仕様になっている。座席数も限られているだけに空間に余裕があり、椅子も座り心地が良く、ゆったりして隣には荷物台も設えてある。でもプレミアアスクリーンに当たるのはその日の運次第である。

次にムービックス柏の葉である。ここは自転車で三十分近くかかるので、おたかの森で観られない映画を上映している時だけ行く。私にとってこの最大の魅力は駐輪場が無料で使用でき、しかも建物内にあるので雨に濡れる心配もない。心おきなく映画の世界に没入できる。また映画館からエスカレーターを降りると食堂街やフードコートに直結していてチケットの半券を呈示すればデザートやソフトドリンクのサービスを受けられる店も多い。

また最も早くシネマオペラやシ

ネマ歌舞伎の上映を始めたのも当館である。難点は券売機の操作が器械に弱い私には複雑なことである。

最後に柏駅から徒歩二分のキネマ旬報シアターである。ここは純粋な封切館ではないが、過去の名作や国別、監督別、俳優別の特集を組むなど独自の経営手法で固定ファンも少なくない。まず一番の特長はここでは人間の匂いがする。アナログ人間の私には堪らない魅力である。まずチケット売場ではスタッフが手ずからチケットを販売し、上映前の諸注意やお願いもスタッフで客席の前に立ち肉声で伝える。ドリンクバーもありスタッフが交代で販売を行い、二階には映画関係の雑誌や本が備えてあるミニライブラリーもあって待ち時間も退屈しない。また観客の映画評を記した掲示板を読むのも一興である。

若干の手数料はかかるが会員になると五回観ると一回無料のチケットがゲットできるし、通常二百五十円のドリンクバーも二百円で利用できる。前記の二館に比べて予告編が短いのは良いが開映五分

前でないとい入場できないのが難点と言え難点である。他は概ね十五分前である。席は通常自由席である。私の指定席は最前列の中心である。この劇場は最前列でもスクリーンと離れているのであまり首を上げる必要がなく、前に席がないので足も十分に伸ばせる。昨今大手のシネコンに押されて名画座と呼ばれる映画館が減少してきている実情である。人間の温もりの感じられる神田神保町の岩波ホールと同様に柏のキネマ旬報シアターはこれからもずっと存続してほしい映画館である。

以上最近の映画事情と近くの映画館についての私の雑感を述べておきたい。

### 映画を見る方法いろいろ

#### 柳橋和郎

昔映画を見た後、家で見たいな、所有することできないかと良く思いました。映画を所有するのは50年前は夢の話でした。

そして公開終了後、次にこの映画と出会えるのはいつになるかわかりませんが、人気がないと永遠に会うことができないかもしれませんでした。

それがビデオの出現で家で映画を見ることができるようになり、そしていろんな映画がビデオ化されるようになり、お気に入りの映画を手に入れることもできるようになりました。但し映画のビデオが出始めたころは1本15、000円以上していたと思います。この価格今でも高いと思いますが貨幣価値からすると今なら30、000円以上という感覚でした。なかなか買えるものではありませんでした。

そこにレンタルビデオが始まり、ビデオを買う十分の一以下の価格で家で映画を見ることができるようになりました。会社の帰りにビデオを借りて家で見るのが楽しみでした。昔見た映画や見逃した映画も見ましたが、人気や話題のビデオよりは、B級の匂いのする知らないのを良く借りました。

## 特集 映画ときどきプライベート

## 小林寺拳法シニア流山健康クラブ

健康クラブ、テレビで紹介＝4月18日、「J」：COMテレビ（旧コアラテレビ）の「デイリーニュース」で小林寺拳法シニア流山健康クラブが取り上げられた。場所は流山市コミュニティプラザ。練習風景を見せながら、ニュースキャスターは、「練習に勤しむメンバー。体力に自信のないシニアを対象として、突きの蹴りの少林寺拳法が体験できる。健康増進につながる運動メニュー。講師は少林寺拳法歴53年の石井宏明さん。少林寺拳法の基本の型を示しながら指導。少林寺拳法は体の左右を均等に使うことにより体幹を鍛え、自身を守る護身術にも役立つ」とクラブを紹介した。石井先生は「年を取ってくると体力が衰えますから。健康というのは体力と気力の問題。関心のある方は是非体験してみてください」と語った。

印象に残っているのは映画の題名は覚えていないのですが1970年代になっても1950年代の音楽にこだわるバンドのメンバー間の葛藤を描いた映画で、売れないバンドは解散寸前までおいこまれましたが、自分達の好きな音楽をやるうと、困難を乗り越え集まりライブをやるというわかりやすい映画です。ビートルズが出てからは50年代の音楽はあまり見向きもされない時期がありました。50年代のこのサウンドでなければだめだとこだわり続けるバンドの話です。もう一つ、明るく純情でまじめで品の良い女の子が大学生活のなかで友達の影響を受け最後に自分の殻をやぶるという話の映画ですが、殻の破り方は最後のシーンで海でみんなが裸になって踊って自由をアピールします。仲間から君も裸になり一緒に踊ろうと誘われますが最後まで拒んでいた主人公が遂に恥ずかしさをすて服も脱ぎ捨て裸になりみんなと砂浜で踊るといふ物語ですが、のう天気な作りが良かったです。

そして映画のビデオもどんどん安くなって行きましたが、高画質のレーザーディスクが発売され6

000円で買えるようになり、頑張れば映画を所有できる時代がやってきました。レーザーディスクで映画を楽しんでいると、そういうしているうちにDVDが発売され、馬鹿でかいレーザーディスクは画像の面でも、価格の面でもすべての面でDVDに敵わなくなり、すたれて行きました。DVDになると価格も信じられないくらい安くなり少し古い映画は1000円ぐらいで買えるシリーズも出てきました。旧作の名画だと10枚セットで2000円ほどでなんと1本2000円で所有し見ることが出来ます。DVDより画質の良いブルーレイという規格もあり、少し高いですが大きな画面で見ると解像度の差が出てきます。

DVDはアマゾンで買えばその日に届き楽しむことができました。その日のうちに見れるというのは革命的でしたが最近人手不足で運送会社が悲鳴を上げ、今後どうなるのでしょうか？またテレビもアナログからデジタルになり映画だけを放送する専門チャンネルもでき、時代劇だけとかドラマだけとかアイテムで絞り込みそれを一日中やっています。

ディスプレイがブラウン管から

液晶になりデジタル放送になると画面が横長になり、ブラウン管の時代だと映画を画面いっぱいにして見るには両サイドをカットしてみなければならず映画とテレビの画面の不一致に悩みました。液晶だと大きさも40インチだ50インチだと大きくなり、より映画館に近い雰囲気を楽しめるようになってきました。もっと本格的にはプロジェクターをつかえば120インチ以上とか大画面で楽しめます。音も映画館のような大迫力にしたければ専門のアンプにスピーカーを6本以上つなぎ前から上から横からと音を出せます。映画の所有どころか映画館を家に作るのも夢ではなくなりました。もう一方ではインターネットが普及、初期のころは電話回線では質の悪い映像を小さな画面でしか見れませんでしたしコマ落ちも良くありましたが、光回線で通信が進歩、パソコンの性能も格段に進化して、今ではダウンロードしていつでもすぐ見たい時に見ることができるようになりました。ちなみにアップルだと映画の購入で2500円ぐらい、レンタルで500円ぐらいで見ることができ中には1000円もあり

ます。

アップルを最初に使ったのは、ちょうど読んでいた本に紹介されていた映画で、アメリカの芸術作品を集めている老夫婦のドキュメンタリーで大半の購入した作品は作者が無名の時に買ったもので、その後作者は超有名となり作品を売ったら大変な金持ちになれるのですが、お金の為に売ったりはしない、老夫婦の作品を見る目は芸術家から一目おかれていたという実録映画で、調べたら封切りは終わり、DVDも出ていない、アップルを見たら有ったのですぐダウンロードして見ることが出来ました。

インターネットでは無料の映画もあります。短編映画特集をやっている。1本見たら引き込まれました。20分ぐらいの作品で外国の映画でしたが毎日同じ時間と同じ道を通り会社にまじめに通勤するというごく平均的なサラリーマンがある日会社に行こうと、いつもの道にでたら工事中で通れず、はじめて回り道をしたらそこで強盗が逃げるとこにバツタリ会ってしまい一緒に強盗の車に乗せられてしまいます、そこからどん

どん偶然がかさなりいろんな事件に遭遇するという短編映画で面白かったです。人生にはたまたまということがありますが良い方に出してもらいたいものです。

そして携帯電話の進歩も著しく携帯電話（スマートフォン）でいつでも映画を見ることができず携帯が今のようにならなくなると良く思いました。スマートフォンが出て性能がよくなり可能になりました。携帯の場合ストーリーミングでの再生になると思いますが少し前に地下鉄でも電波が通るようになり、外出中だいたい何処でも見れるようになり便利になりました。

ところでいつでもどこでも見ることが出来るようになった映画ですがテレビの出現でどうなるかという時期がありました。特に日本映画はどうなることやらという感じだったのでですが映画館がシネコンの出現で変わってきたから大きな会社ではなくとも映画を作り

上映ができ小粒でもなかなか味のある映画が増えてきていると思います。今の映画館は普通席でも全部指定席という所も有り立ち見しないですむのはありがたいです。

ということでは現在映画を見る方法は昔にくらべていろいろと有り楽しめます。

ということでは最近あまり映画館に行かなくなっています。

ということでは時間を見つけて映画館にでかけ映画を見るようにしたいと思っています。

ということでは本日「ラッキー」を映画館に見いきます。

これは最近少林寺拳法の門屋さん（今号に記事有り）から映画の質問が有り、調べたらこれは見に行かなくてはと思ったからです。

## ビール片手に映画のことを

土田博志

私は、少林寺拳法健康クラブで、日常の凝り固まった心と体をほぐす為、練習時は、ぐっと力を注入

すると一挙手一投足に活力が漲り、体中から喜びの汗が流れ出て晴れ晴れとしたスッキリ感に包まれます。

練習後の、ささやかな褒美の缶ビールをグラスに注ぎ一気に飲干すと、干上った喉は潤い落ち着きます。

此の一連の習慣で、体調も良くなり風邪も引かなくなりました。

平成三十年四月二十日金曜日の朝刊に、「サウジ35年ぶり映画上映」の見出しに目が止まりました。

記事は、欧米文化の流入が社会に悪影響をもたらすととして一九八〇年代から、映画館が禁止されてきたが、脱石油依存の経済・社会改革「ビジョン2030」の一環として解禁が発表され、消費を吸収し娯楽産業の発展を図るとありました。

映画館が禁止されている国がある事を知り浅学の自分が恥ずかしい。

又、映画館が再開し、娯楽として映画の価値が見直された事は素晴らしい。我が国でも幾多の歴史の変遷を乗り越え、映像を享楽出来る環境に有る今に感謝したい。

私が若き頃に享受した映画があります。

角川映画が一九七九年に製作した松田優作、風吹ジュンが出演した「蘇える金狼」です。

主人公の松田優作は、東和油脂に勤める平凡なサラリーマンを装い、裏では悪の一面を持ち、強靱な体と拳闘を身に付け武器とし、スーパーカーを颯爽と乗り回し、幾多の騒動を起す熱き男のハードボイルドアクションです。

特に、愛人役の風吹ジュンに心をつかまれた記憶があります。

ゴルフ練習場で、わざと何回もゴルフクラブを投げ入れる松田優作に、風吹ジュンの笑いを誘うきっかけを作り、食事に連れ出す事に成功する。

その時の屈託の無い表情は、とても輝きチャーミングに映し出されています。

弱弱しい背後から、予想だにしない豊かで弾力のある滑らかな曲線に包まれた胸、朝食事に、触れ合うシーンは動物的で強い衝撃を受け目に焼き付いています。

一九九一年に、「無能の人」で、日本アカデミー賞優秀助演女優賞

を受賞しました。

現在も、ドラマでは母親役や司会などの活動の幅を広げ、存在感を示し、年齢を重ねても、ルックスは変わらず微笑みが似合う好きな女優です。

次に、思い出すのが数字が題材の二〇〇八年公開された「252 生存者あり」の災害を取り扱った映画です。

主演は、元救助隊員役を伊藤英明、現役救助隊隊長役を内野聖陽、他に山田孝之、木村祐一などが出ています。

都心が、巨大災害に襲われ逃げ惑う人々でパニックになり、地下街も出入口が崩落し閉じ込められてしまいます。

救助隊は、危険と隣り合せの現場で救出活動に取り組むが、二次災害発生の恐れから一時退避する。突然「252」と聞いた隊員は、「生存者」は生きていると判断し活動を再開するも、狭隘な空間と限られた時間との闘いの中で救出活動が展開していく。

「252」は、日本一の人員と消防装備を保有する、東京消防庁が使用している災害救助の情報を表現する暗号で、各市の消防本部でも独自の暗号が使用されていま

す。

暗号は、情報を簡潔、明確化を主眼とし隊員が無線等で聴取すると、統一認識が図られるので便利で使い易いものです。

災害では、ゴールデンタイムと言われる七十二時間が生存の分かれ目で、助ける側の使命感と安全面、助けを待つ側の不安と恐怖心と、いろいろな感情が交差する姿が描かれています。

もしも、主人公や地下に残された人に準えたなら、どのような行動や判断がベストなのか考えさせられました。

最後に、時代劇など次第次第に作品数も減り、いろんな面で一時期邦画の人氣が下降し低迷した時期もありました。

最近では、邦画も意欲的で魅力のある作品や繊細な作品も多く、アニメ映画は世界的に誇れるものがあり、盛り返して来たので嬉しく感じます。

楽しめ・楽しめる・楽しもう頑張れ邦画。

×  
×  
×

## 『裏窓』覗きは「注意

### 大築 猛

アルフレッド・ヒッチコックの最高傑作と評される『裏窓 (Rear Window)』を観たのは理由がありました。私はホラー物はあまり好きではなくて、彼の映画をずっと敬遠していました。

気分がスカッとする西部劇が好きでよく観に行きました。とりわけ鋭い目つきで渋くて悪役が似合うガンマン、リー・ヴァン・クリーフが好きでした。余談ですが、サントリーオールドのコーマシヤルでカウボーイ・スタイルで出ていました。♪ランバンデイダン

シユビラデ オデーエーエー  
オー・・・♪

ある時、リー・ヴァン・クリーフが出演するゲイリー・クーバー主演の『真昼の決闘』を観に行きました。オープニング、丘の上で1人のガンマンが人待ち顔で立っています。勿論リー・ヴァン・クリーフです。恰好いいなあ！思わず拍手と歓声を上げたくくなります。

それから場面は進み、突然、スクリーンに光輝く気品に満ちた凛々しく笑顔の素敵な顔立ち、そしてエーゲ海に吸い込まれそうな透き通った目をしたためちやくちや美しい女性が現れました。「えっ！」と思わず固まってしまいました。観終わってからも何日かは興奮が収まらずにいました。そして、後に分かったのですが、その女優さんはグレイス・ケリーという名前でした。忘れかけた頃、たまたま「日曜洋画劇場」を観ていたら、淀川長治さんが、「次週は映画の神様ヒッチコックがジェームス・スチュアート、グレイス・ケリーを迎えてお送りするサスペンス巨編、怖くて面白い、面白くて怖い『裏窓 (Rear Window)』です。」最後にいつもの名台詞の「それではまた次週をお楽しみに、サヨナラ、サヨナラ、サヨナラ」。わあ！グレイス・ケリーが出る。次週が本当に待ち遠しかったことを思い出します。そして、この『裏窓 (Rear Window)』の待ち焦がれた美人グレイス・ケリーと、ヒッチコックの作品作りの発想の素晴らしさに感動し、イメージが一変し好きになりました。

ストーリーは、ニューヨークの

とあるアパートの一室。自由気ままな生活を送っていたカメラマンのジェフ（ジェームス・スチュアート）が左足を骨折し、車いすの生活を強いられる。骨折中ジェフ

の世話をしている看護婦ステラ、そして恋人のリザ（グレイス・ケリー）。部屋から一步も出られず暇を持て余した彼の、退屈のぎの楽しみは、裏窓から見える中庭と

シネマ気球アンケート

⑥肉類等何でもおいしく頂いております。

向いのアパートの住人たちの生活と人間模様を望遠鏡で覗き見ることでした。エアロビを楽しんでいる胸が自慢の女、新婚の男女の濃厚なラブ・シーン。ピアノに向か

って苦吟している作曲家、そして集まってくる仲間たち。犬を飼っている夫婦者など……。ある日、ジェフの興味を惹くことが起きます。セールスマンらしい夫婦で口

①これまで観た映画で好きな作品は何ですか。何本あげてもかまいません。

●鈴木健介

①「E.T.」「ランボー」「駅馬車」「ロッキーマン」

②「最近観た映画は何ですか。好きな俳優は。」

①「我が道を往く」「怒りの葡萄」「誰が為に鐘は鳴る」いわゆる文芸作品が好きだと言うことです。

②最近観た映画は何ですか。

②「劔岳 点の記」のあと見た記憶があるが、思い出せないのので不明とします。

②「七人の侍」

④「世界紀行等の番組。※リポーターの意見、主張などは聞かなくて良い。忠実に情景を描写する内容を好む。」

③好きな俳優は。

③トム・クルーズ、ジョン・ウェイン、高倉健

②25年位前の「釣りバカ日誌」

④イングリッド・バーグマン、ゲリー・クーパー

④テレビ番組は何が好きですか。

④クイズ番組

③「ダーウィンが来た！」のような自然と動物番組

⑤ボクシング（するスポーツ）。見るスポーツ、特に無し。

⑤好きなスポーツは。観るスポーツ。するスポーツ。

⑤観るスポーツより、自分で体を動かすのが好きで、現在はジョギングをやっています。

④新しく出来た道、「高速道」の走行。最近では、マツカーサー道路といわれた環状2号線、外環道の三郷より市川方面開通部分。

⑥テレビ番組について。余りにも国籍、民族を主張する番組が多い。例えば、「こんなところに日本人」など。誰がどこで何してようと、日本人だからと探すなど馬鹿らしい番組だ。それから外国人を多くの番組に登場させ、ちやほやし過ぎた。外人天国を番組で煽り立てている。

●梅木美知廣

①「カムイ外伝」「荒野の1ドル銀貨」「燃えよドラゴン」「ローマの休日」「ひまわり」

⑥趣味として写真撮影。フィルムカメラにこだわっています。

⑥観るスポーツは、バレーボール。するスポーツは、バレーボール。

※協力ありがとうございました。

②「3月のライオン」

●田辺喜三男

①あえてあげれば、「シエーン」「ウエスト・サイド物語」「サウンド・オブ・ミュージック」「ジョーズ」

③渡辺謙、渡哲也

①「我が道を往く」「怒りの葡萄」「誰が為に鐘は鳴る」いわゆる文芸作品が好きだと言うことです。

②「劔岳 点の記」のあと見た記憶があるが、思い出せないのので不明とします。

④「世界紀行等の番組。※リポーターの意見、主張などは聞かなくて良い。忠実に情景を描写する内容を好む。」

④「西郷どん」で涙を流しています。

⑤合気道（七段）、相撲、スポーツ

⑤観るスポーツは、バレーボール。するスポーツは、バレーボール。

⑥テレビ番組について。余りにも国籍、民族を主張する番組が多い。例えば、「こんなところに日本人」など。誰がどこで何してようと、日本人だからと探すなど馬鹿らしい番組だ。それから外国人を多くの番組に登場させ、ちやほやし過ぎた。外人天国を番組で煽り立てている。

⑤合気道（七段）、相撲、スポーツ

吹矢（三段）、柔道（五段）

世の中に対しては、歩きスマホ、自転車の交通規則のでたらめ。

※協力ありがとうございました。

特集 映画ときどきプライベート

小林寺拳法シーニア流山健康クラブ

論の絶えなかつた病床の妻がこつ然と姿を消したことに気づいたのです。セールスマンの怪しい挙動を観察していたジェフは、数々の状況証拠から殺人事件と確信。友人の刑事に訴えたり、恋人のリザ、看護婦ステラの協力を得てドラマが進んでいきます。

その男は雨の中大きなトランクを持って外出したり、ひと晩の内に何度も家に入ったり入ったりしています。花壇をしきりに気にしています。外で花壇を掘り返す子犬を追い払っています。更に肉切り包丁と小型のこぎりを新聞紙に包んでいます。長距離電話をかけたり、妻の愛用バッグを漁ってアクセサリーを取り出したりと落ち着きません。すると突然泣き叫ぶ声が聞こえます。アパートの住人が飼っていた子犬が誰かに殺されてしまったらしいのです。住人が一斉に顔を出す中、そのサラリーマンだけが現れません。

てしまいます。リザが何かを発見します。そこへセールスマンが帰って来ます。リザは見つかってしまい、引き倒され助けを求めて叫びます。ジェフは慌てて通報し、警官がセールスマンの家に急行します。警察の到着に安堵するジェフ。するとリザが手を使って何かサインを送っています。彼女は妻の結婚指輪を発見していたのです。喜んだジェフとステラでしたが、リザのサインにセールスマンが気づき、外へ向けたサラリーマンの視線はジェフを捉え、睨みつけていました。そして、ジェフの電話が鳴り響き取り上げると、受話器からは不気味な沈黙が続きます。相手はセールスマンだと直感したジェフ。やがて足音が聞こえ、セールスマンが部屋をこじ開け入って来ました。指輪を返せと要求するセールスマンと応じないジェフ。セールスマンはジェフの首を絞め、窓から突き落とそうとします。2人が争っているところへ刑事率いる警察が駆けつけ、セールスマンは取り押さえられます。ジェフは結局窓から落ちてしましますが、大事には至りませんでした。しかし乍ら、怪我が悪化し両足にギブスをはめたままうたた寝をしてい

ます。そんな彼の隣でリザが微笑みながら読書し、この映画は終わりを迎えます。

面白くて楽しくていい映画を見たなあと思いました。ほぼ全編にわたってカメラはジェフの部屋から出ない。視点と舞台をカメラマンのジェフとその部屋に限定し、構成とカメラワークが素晴らしく、観ているスクリーンとの緊張感と一体感がありました。人の家を覗いた罰の代償で片足の骨折が両足の骨折になって落胆した様子。そして、窓と言えば普通に窓と思うけど、裏窓となると何か「覗く、覗き見る」のイメージを浮かばせる「Pear Window」の命名がいいなあと感じました。最後は、グレイス・ケリーです。華麗で気品に溢れた笑顔の素敵な美しさです。残念ながら、彼女は27歳で女優業を離れ、モナコ公国のプリンセスになったシンデレラです。記憶に残る女優さんです。当然のことですが彼女が出演した、アルフレッド・ヒッチコックの作品『ダイヤルMを廻せ!』『泥棒成金』そして女優最後の作品『上流社会』を観たことを書き添えます。

## outsiderの映画事情

### 門屋大二

関田さんから「シネマ気球」寄稿のご案内を頂き、この一年を振り返って映画outsiderの私を取り巻く「映画事情」を思いつくまに書かせて頂きました。昨年のこの機会以来、映画館に足を運んだ回数は僅か2回ですが、映画関連の情報・話題を意識する様になって、映画に対する興味が次第に湧きつつある昨今です。

#### 映画を観て

○「デイヴィッドとギリアン 響きあふたり」(映画館)

天才ピアニストを追うドキュメンタリー映画。占星術師である夫人との出会いは運命的とも思われ、主人公デイヴィッドの以後の活躍を暗示する挿話。11年間精神疾患で療養して来た主人公の振る舞いが、時に子供の様に落ち着きがなく、歌いながら演奏をする様な一見常軌を逸した様に見えるけれども、ステージ上で赤裸々に自分の全てを表現することにより、聴衆を魅了して行く。見る人はこのド



キュメンタリーを辿るに従い、主人公の純粋な人間性に共鳴し、醸し出す希望・喜び・安心を共有する。全身全霊を込めた高速の運指による演奏は圧倒的であらためて

天才を思わせる。この天才ピアニストは最高の贅沢とも言える「豊かな心」を舞台から聴衆に贈り届ける。コンサート・ツアーの訪問先で周囲の誰にでも天真爛漫に話しかけ、名前を尋ね、出身地を尋ね、お互いの幸せを確認し合った後、彼が見せる安堵した表情は人を和ませる。演奏後彼が早口で発する単純で明快でほのぼのとした言葉は聴く人の魂に届き、会場が一つになって拍手と歓声が何時までも続く。どうすれば一期一会の聴衆をこの様に一つにして楽しめるかと言う課題は至難の業の様に思えるが、彼はその天与の才能と人柄でいとも簡単に実現する。主人公は演奏会で全てを表現し尽くして、聴衆と握手・抱擁を繰り返し、親指を立てて「いいね」サインをしながら満面の笑みで会場を去って行く。常に寄り添う妻ギリアンの愛情と時に彼が見せるコカ・コーラ嗜好癖や、挙動の幼児

性などのおおらかさに気持ちよく包まれて、演奏する天才の姿を繰り返し浮かべながら、幸福な余韻に浸りつつ劇場を出た次第。

### ○「狼よさらば」(TV)

犯罪率が高く逮捕率が極端に低いNYで主人公の家族が不条理な惨劇に巻き込まれる。残酷な事件後の悲しさ・虚無感に打ちひしがれ、犯人を捕らえるべき警察が全く機能しないと現実絶望した状態で、主人公は古き西部の雰囲気と漂わせていて、銃のopportunity が許される程の銃許容社会であるアリゾナに、不動産会社社員として転勤する。そこで銃を手に入れ復讐の策を練る。無法者が繰り返す惨劇・不条理を懲らしめるべく自警団を組織したり・処刑したりする西部劇を彷彿させる要素が整って来る。射撃の腕を鍛え直してNYに帰任し、「幻の狩人」として暴力的な犯罪に走る無法者を誘い出す状況を仕掛け、待ち伏せして問答無用で粛清し続ける。警察の無力を良く知っている市民・メディアはこの「幻の狩人」による復讐劇に理解を示す。本来連続する「幻の狩人」による殺人事

件を追求すべき警察さえも、犯罪者を次々と処刑して行く主人公に「警察がお前を追跡している」とにかく急ぎNYを去れ」と「幻の狩人」を逮捕しないで逃がすべく裏面から忠告を繰り返す。主人公は警察の配慮・忠告を呑み、無法者粛清を止め、NYを去りアリゾナに再度赴任する。最終場面で「幻の狩人」は赴任先の空港で「犯罪現場」を目撃するが、この無法者を処刑しないで、微笑みつつ「finger gun」で引き金を引く。ジェスチャーをしながら人混みに消える。チャールズ・ブロンソンの魅力満載。銃社会米国の持つ「難病」にも思いが及ぶ。

### ○「羊と鋼の森」(映画館)

ピアノ調律師を目指す青年が挫折し苦悩しながらも成長していく物語。調律師は羊毛フェルト・鋼線の張力・音に係わるあらゆる要素を、綿密に調整して理想の音を追求する。理想の音を実現することとは「大きな森の中の一点を探し当てる」程に困難なことと言われる。本映画の導入部分を見てタイトル「羊と鋼の森」の意味を理解した次第。調律師としてこの「森

の一点」を探す困難に悩む時、突破口を求めて自分が生まれ育った大きな森を幾度も逍遙し思索を尽くす。理想の音を文体に譬えて先輩調律師は「明るく静かに澄んで懐かしい文体、少し甘えているようでありながら、きびしく深いものを湛えている文体、夢のように美しいが現実のようにたしかかな文体」であると言う、ある作家の言を引用して繰り返し教える。この青年が調律師を通じて様々な困難を乗り越えることにより成長し、遂には最高の難関と言われる「コンサート調律師」を目指す決意に至る。こつこつ、こつこつ・・・果てしなく遠い道を怯まず一途に歩む姿は爽やかで印象深い。この青年の調律師を受けながら、それぞれの葛藤を逞しく乗り越えて、それぞれの道を切り拓いて前進するピアニスト姉妹の演奏も印象的。劇中演奏される曲に水の戯れ(ラヴェル)・亡き王女のためのパヴァーヌ(ラヴェル)・ピアノソナタ第23番 熱情(ベートーベン)他。劇中曲を良く聞き込んで再度劇場で見るべく「お気に入り」に登録しておく。



石井宏明先生（奥）の指導のもと練習に励む健康クラブの面々。流山市立常盤松中学校・武道場。（撮影：田中稔）

## 映画outsiderの周辺事情

英会話教室の米人の先生は無類の映画好きで、映画の話題が飛び交い、この会話に加わることで一味違った英会話を楽しんでいる。ここでは往々にして多様な映画が話題になり、映画初心者には格好の耳学問の場になっている。先生は興が乗ると通常のペースに輪をかけた早口で映画中の口語的表現を教材として紹介するので緊張感を高めて「聴き取り」に集中しなければならぬ。情景がはつきりイメージできなかった際には、週2回少林寺拳法を共に楽しむ映画先達の関田さんに聞けば即刻明快

に周辺情報も含めて補足説明を聞ける。少林寺シニア健康クラブでも石井先生と関田さんの間で映画談義が弾むのが常で、これを通じて得られる映画情報には事欠かない。英会話教室や少林寺健康クラブは映画outsiderの我が身にとつて、映画界を垣間見ることが出来る、狭いけれど貴重な窓となっていて、これを通じて我が映画に関するdatabaseは急速に充実して来ている。お陰様でこれまで考えてもなかった「是非見たい」・「タイトルとストーリーに思いを巡らす」とも屢々である。この窓を通じて、「お気に入り」リストに載せたタイトルには以下の様なものがある。ラッキー／ステイニング／オーシャンズ11／15時17分、パリ行き／ゲティ家の身代金／ペンタゴン・ペーパーズ 最高機密文書。最も気がかりな映画は「ウインストン・チャーチル／ヒトラーから世界を救った男」でチャーチルの生家を尋ねたこともあり特別な思い入れの映画である。戦局の劣勢に意気阻喪し、講和に傾く国民や議員を鼓舞し、ナチスに屈せず最後まで戦い抜くことを説き続け、一語一語選び抜いた言葉は説得力

があり、格調が高くこの演説は「英語」を学ぶ者にとつて「格好の教材」との評がある。有り難いことに関田さんのご配慮で演説のテキストを入手出来て一層の興味を深めている次第。今年中の宿題として丸暗記しようと挑戦中である。訪英した際、チャーチルが生まれ育ったブレナム宮殿をオックスフォード郊外に訪ね、その彼方此方でチャーチルが過ごした當時を思いつつ、広大で美しい庭園の午後「紅茶」と「スコーン」と言う「英国風」を楽しんだことを思い出している。またウインザー城でもチャーチルを讚えるコーナーがあり英国民から如何に親しまれ、尊敬されている人物であるかを再認識した次第。関田さんのご厚意で近く「チャーチルの演説の声」を聞けそうで、更に「チャーチル演説」に熱中しそうである。チャーチルの特殊メイクでオスカール賞のメイクアップ&ヘアスタイリング賞を受賞したのは、邦人辻一弘であることも興味を増す。機会あらば「演説を諳んじて」劇場で観ることにしたい。

映画を日常的に楽しんでいる人を身近に見て、映画outsiderは憶測する。我を忘れて「映画」と言

う別世界を楽しむことで、積極的に多種多様のドラマを追体験し、更に創意工夫を凝らして作品を世に問うている製作者・役者・裏方のチームにも思いを馳せているに違いない。長年この映画と言う媒体の魅力を追求し続けている先達は、劇場で「これこそ映画」と膝を打って、満足感を味わっているに相違ない。坐禅会でよく耳にする言葉「認識論」では、人間は記憶容量無限大のハードディスクを持っていると言う。これに蓄積されたメモリーの中には数少ない「良き種子」が埋もれていて、それを見つけて出して丁寧に育て上げると言うことが人生の大きな意味の一つであると説く。映画先達にとつて、この「種子」は映画であり、これを手厚く大事に育て、良質の果実を味わっている様にお見受けする。遙か前方をひた走る映画先達の一途な追求姿勢に習い、われもまた遅れ馳せながらこの果実を味わうべく、折々の気がかりな作品を映画館で見ることにするか。幸いにして身近な先達が道を照らしてくれる。関田さんのご配慮で、この一年の我が映画事情を整理することが出来た。有り難く御礼申し上げる次第です。

特集 映画ときどきプライベート



さくらを見つめる寅さん

# 寅さん 写真展

撮影：鈴木伸夫

健康クラブの鈴木伸夫さんは、カメラとか陶芸、スケッチが趣味。「寅さん像」の撮影をお願いしたところ、梅雨の晴れ間の6月26日、流山西初石の自宅から葛飾柴又まで自転車を飛ばして「寅さん」と「さくら」の銅像をさまざまなアングルでカメラに収めてくれました。鈴木さんの「寅さん写真展」です。おたのしみください。

柴又駅前の寅さん



さくら（手前）と寅さん

小林寺拳法シニア流山健康クラブ

## 男とは？

杉山昇

「男」！なんと素晴らしく力強い文字ではないだろうか。力強く頼り甲斐があり、優しくそして頼もしい！だが最近この文字を汚す輩が多くなった。「男」たる自信をなくしたのか、はじめから意味がわからないのか？独断と偏見で思うがままに任せ書きました。ご笑読くだされば光栄です。おこがましいが自分も「男」である！「男」とは？主観的で難しい。

私も生まれながらの「男」には違いないが、未だ自分が「男」と誇れることはしたことがない！あと数年の命だ！一度くらい「男」と己が誇れる、納得の行くことをしてみたいものだ。しかし「男の中の男」といえば誰だろうか？どんな人が「男」か？難しい！  
男心に男が惚れて

私が幼いときは東海林太郎の義理人情に強い国定忠治を歌った、「名月赤城山」なる歌がそこかしこで流れていた。「男心に男が惚れて

！」なんと素晴らし文句ではないだろうか、モノクロ映画でも芝居でも「国定忠次」の人情ものは大流行りであった。長い人生に一度でも良いからこんな人物に出会いたかった、いや！これからも期待できそうだ。

東海林太郎（しょうじ・たろう。1898年（明治31年）12月11日－1972年（昭和47年）10月4日）は、日本の歌手。ロイド眼鏡・燕尾服を着用し直立不動の姿勢で歌うという特徴があった。1965年、紫綬褒章受章。享年73。葬儀は史上初めての「音楽葬」だった。直立不動のスタイルは剣豪宮本武蔵を彷彿させるものであり、また「一唱民衆」の言葉のごとく、「歌は民のため」という信念を持ち、あの常に真剣勝負の姿の歌唱魂は、激動の昭和を生き抜いた時代精神を表している。

## 諸説あるが忠治は男

一番情景が浮かぶ不思議な光景、忠治の追い詰められた心境と秋の山の冷気やら虫の音、何処からか聞こえてくる微かな笛の音、見上げれば煌々と光る月に雁、こんな心情もいつしか想像されなくなっていくのが、残念ですが、それが

時世の流れというものかな。飢餓に苦しむ農民を救った、代官を斬り殺し関八州の役人を相手に赤城山に籠もった忠治を慕い一時は、日光の円蔵、三ツ木の文蔵、板割麻太郎、神崎友五郎、新川の秀吉等1000人ももの渡世人が集うたと言われるからには忠治も「男」であつただろう。話を半分としても500人の人が忠治を慕い集つたのだから素晴らしことである。

「赤城録」なるものがあるが見たことはない。多少美化されているところもある。とかく美談というのは大げさになりがちなものではありますが、忠治が少なくとも民衆を援助したというのは事実だと思います。今は弱いものいじめが多く情けない）忠治は堅気の衆に「親分」と呼ばれることを嫌い、「旦那」で通っていたそうですが、博徒の道に足を突っ込んで、心のどこかではいつも国定村の豪農の若旦那だったのかもしれない。他に伝説の部類に入る武勇伝としては、「飛脚を襲って大金を奪い村人に分け与えた」「娘を身売りしたうえ金を取られた百姓に同情し、殴りこんで娘と金を取り戻した」「悪代官を切り捨てた」「大沼の堰をきり農民に水を与えた」等枚挙

にいとまがありません。

## 土方歳三も「男」

土方歳三は、幕末期の幕臣。幕臣とは幕府の長である征夷大將軍を直接の主君として仕える武士のことである。新選組副長。新選組時代には、局長・近藤勇の右腕として数々の事件で武名を顕し、また隊内に峻厳な規律を実施して鬼の副長と称され、剣豪揃いの隊士たちに恐れられた。戊辰戦争では旧幕軍側指揮官の一人として各地を転戦し、またいわゆる「蝦夷共和国」では軍事治安部門の責任者に任ぜられて軍才を揮った。明治2年5月11日、戊辰戦争最後の戦場になった函館五稜郭防衛戦で2500人の新政府軍の中へたつた25人で突入するも、狙撃を受け戦死。享年34歳。その道一本に進んだ男の死にざまは「見事」と言うしかない。

## 男にもいろいろ

「男と言うものはなく！このくらの酒で明日は会社を休むなんてことはしない！それが男という者だ！」これが新入社員時代に野球部の先輩の居酒屋での言い草であつた。しかし言った本人は一度

も実行しなかった。そんな良き時代でもあった、因にこの時代に我々は仕事でも野球の試合があると思われ出された。そして相手のチームからビールケースが渡されると知り合いの居酒屋で冷えたビールと交換し飲んで赤い顔で職場に戻りなにかを顔をして仕事をすることが何度かあった。これも良き時代の良き思い出である。また、バブル時代に会社が買ったマシンシヨンの鍵を預かっており、仕事中に何度か風呂を沸かしはいたこともあった。「男」にしかできないことである？

**野球大会で負けて**

健保組合の野球大会でのこと、中央区の予選！相手は名選手が多い名門の野球部だ。当時、私は捕手を務めていた。我が社の投手も速球と落ちるカーブの切れが鋭く素人野球の中では注目を浴びていた選手の一人である。その日は連投の疲れからか今ひとつ速球に伸びがないばかりか、配球を読み取られたのか得意なカーブを狙い撃ちされた。アツという間に3点を献上してしまった。そればかりか

相手投手に追い込まれると流れるスライダーに手も足も出ずにあれこれと言う間に「完全試合」が成立してしまつた。最後のバッターの「N」さんは後日こんなことを呟いた。「あ!?!とうとう俺が最後のバッターになるか?何としても食いついたが、あのスライダーは当てるだけが精一杯だった。三振した時の相手のピッチャーの憎たらしい顔は今も忘れない。いや、一生忘れられない」と悔しさを吐き出してた。そんなNさんも15年前に他界し、あまりにも早い死に一同はがく然とした。

数年前に分かつたことであるが、私を含めて数人のものが完全試合で負けた日からあの会社の「ビール」は今も飲んでないと言う。「1点でも100点でも負けは負け」潔さに欠けた「男らしくない男の見本」であった。野球に負けたからといって相手の会社のビールを飲まないとは?長い間、自社のビールを飲まなかつたと言われては、この会社もたまつたものではない。単純計算をしてみれば10人が一日一本ビールを飲むとしたら当時の金で一本¥200として10人で

一日¥2,000、それを一年続ければ¥730,000であり20年も続ければ1,460万円にもなる(呑んべえの多い野球部員のこと、仕事帰りの居酒屋でも実行したのもいた)、これで負けの恨みを晴らされた会社はなんと思うだろうか?「負けは負け、勝ちも勝ち」その後はこのチームと対戦することとはなかつた。そしてゴルフブームの到来とバブルが弾けどこの会社も野球どころではなくなつた。それにしても「負けた」と言つて相手の商品を利用せず、また相手の会社もわが社の商品を使わなかつたら???

**大野伴睦「男でござる!」**

私が東京に来て間もなく、多くの傷痍軍人が白衣を着て街の路地に、ある人は立ちある人は座り、ひざまずき歌を唄つたり、ハーモニカを吹き、行き交う人に生活費を乞うていた。私は「戦争がまだこの人達には終わってない、いつになったら人間らしい生活ができるのか?」と政府の愚かさを嘆いていた。

人の集会に出席した大野伴睦議員が彼らに生活費を支払うこと約束した。そして大声で「大野伴睦は男でござる!」と叫び約束を固くした。集会の中から自然に「大野伴睦バンザイ!」の声が上がつたのを記憶している。それにしても生きた戦争犠牲者への対応の遅さには呆れた。その後は街から彼ら傷痍軍人の白衣の姿は消えた。私の故郷岐阜出身の議員だけに心に残つた「男」でした。しかし昭和電工疑獄また新幹線が計画されると彼は故郷「岐阜羽島」に大回りした駅を作らせた。当然に世間の風あたりは厳しかった。中にはこを走る列車は「バンボクバンボク!」と走ると笑わせた漫才師もいた。人は一生に一度いいことをすれば「御の字」だ!?!しかし一つ間違つたことをすれば評価は下がる。

**戦争は未だ続いている**

だが一方では未だに激戦地に眠る英霊の遺骨収集が果たされるどころか、忘れ去られていることは国民の一人として悲しいことである。東京の中心、霞ヶ関のビルの

特集 映画ときどきおきか。プライベート

小林寺拳法シニア流山健康クラブ

中に、1万を超える遺骨が人知れず眠っている。このことはほとんどの人は知らないだろう。

厚生労働省が入居する中央合同庁舎第5号館。1万を超える遺骨はひとつの部屋に収まりきらないため、複数の部屋に分散され保管されている。それらの部屋に公式な名称は与えられていないが、厚生労働省に安置されていることから省職員からは慣習的に「霊安室」と呼ばれている。

ここに保管されている遺骨は、第二次世界大戦とその結果により生じた日本人戦没者の遺骨のうち、遺骨収集帰還事業で日本へ帰還を果たした遺骨たちだ。アジア・太平洋の戦場となった地域や、戦後のシベリア抑留による死者など、世界中から集められた遺骨は一時的にここで保管され、誰の骨かが特定されれば遺族の元に帰るが、調査を尽くしても特定されなければ千鳥ヶ淵の戦没者墓苑へと送られる。終戦から70年を超える今、多くの日本人にとって戦争とは、遙か昔の歴史上の出来事のように思われている。それ自体は決して間違いではないと思う。しかし、今もなお都心で人知れず眠り続ける遺骨の存在は、我々の

すぐそばに未だ戦争が続いている事を示しているのではないか。

### 伴睦さんの逸話

義理と人情に厚いという評判から、真偽のわからない人情話に事欠かない政治家であった。一例として、自分の選挙区とは関係もないある老婦人達が「家の近くのドブ板の整備を役所に頼んでも一向にやってももらえない」と訪ねてきた際、憤慨した大野さんはさっそく役所に電話を入れ、すると今まで老婦人達の声を聞き入れもなかった担当課長が菓子折りを持ってきて謝罪し、すぐに作業が始まったといわれる。他にも、大野の在宅時に自宅に泥棒が入った際、外遊のために用意していた金を渡し、「今これだけしかないが、もつといるのか？」と聞いた。泥棒は大野の思いもよらない対応にのまれ、逆に「これから一生懸命働いて、必ずこのお金をお返しに来ます」とまで言った。また、事務所に全く見知らぬ青年が駆け込んできて「お金を貸してください」と言ってきたとき、大野は全く疑いもせずこころよくお金を貸したこともあったと言われた。以上のような態度・対応をとったのは、政

治家のところに泥棒に入ったり金を借りにくるのはよほど困ったことがあったのだから、できるだけのことをしてやるうという考え方があったのではないかと問われていた。面白い「男」でないか。

今の「安倍晋三」に爪の垢でも飲ませたい。もし、仮に「伴睦さん」の妻が加計だの森友のような事件に関与し今のような騒ぎが起これば、彼は間違いなく先祖様に無作法の許しを願ひ仏壇の前に六畳敷きのビニールを敷き割腹自決していたと私は確信する。安倍さんやその関わり人も潔く腹を切ってもらいたい。

### 褒められた!!

我が社の社長の顔を見るのは年に3回、新年の挨拶、創業記念日、送年式である。そんな社長に不意に廊下で出あった、私は軽く会釈をした。そのとき社長は「あ？君ね！今回はご苦労さま！ところでね！人間は良い時に一番に悪い原因をつくってるんだよ！ご苦労さま。私は怒られたのか褒められたのか？複雑な気持ちであった。よく意味がわからなかった？間もなく、バブル経済が崩壊し景気は右肩下がりに、バブルに浮かれた人た

ちは大変だ。私の友の一人にはいつも財布には万札を束に入れて居たが、自慢のベンツも売り飛ばし、挙句の果ては入院となった。

社長が私に言うには訳があった。どこの会社もそうだが我が社も「成績主義」だ。ある時、東京本社が成績が達成できないと私は踏んだ。そこで私は大げさに言うなら各部に「檄」を飛ばした。その成果が結実しての社長のさらなる私への「檄」と解釈した。立派な社長に仕えた我が身は本当に幸せで定年を迎えることができた。我が社の社長も「男」で人を育てるのに才長けた人物と思う。

羽振りを利用していた輩も、バブルが弾けると愛用ベンツを売り「入院」、そのほかにも独立した人の苦しみも多く拝見した。若い時に調子がよく酒に飲まれた友が酒の飲み過ぎで「糖尿病」になり今では2人が他界した。最近では安倍晋三総理のごとく「いい時に悪すぎる原因を湯水のごとく作成している」。また「日大の内田監督」それにまつわる輩もまさにいい時に最悪の事態を作り出している。今になり、社長の言葉の尊さが肩のしかかってくる。

ここまででは私の知る「男」をかいた。本題に入るにはおこがましいが「男」とは潔さが神髄と思う。「潔い男」を独断と偏見で語ってみた。ただし！ただし！私くらい「潔くない男」も少ないだろう、自分が言うからには間違いない。

### 潔い男とは

潔い男？独断と偏見で！最近この人は潔い男だなぁと感ずる人はいませんか。潔い男というのは男女共に、見ている側を爽快な気分させてくれる存在ではないだろうか。さっぱりとした強さを持ち、カッコ良く見え、こんな男に憧れてしまう人も多いのではないのでしょうか、私は憧れる。しからば、「潔い男」とは、どのような特徴なり神髄を持っている人なのでしょう。そこで、潔い男の特徴について独断と偏見で述べてみます。ぜひ貴殿や貴女の周りの人に当てはまるかどうか確認しながら最後までご笑読ください。

### ・すぐに謝る

潔い男は、自分に非があった場合、すぐに謝ることが出来る筈で

す。

「自分がしたことに對しては、最後まで自分が責任を持つ」という覚悟を持っているため、自分が悪かった場合はすぐにきちんと謝ることが、潔い男にとつては当たり前のことではないでしょうか。そのため、潔い上司と仕事をした場合、何か問題が起きて、大事に発展することが先ずは無い。しかも、その謝罪を先延ばしにせず、できるだけ早い段階で謝るのも、潔い男が持っている特徴です。「自分や部下が問題を起こしたらすぐに謝る」という考えが、彼らの中には浸透しているでしょう。間違いを部下のせいにしてたり、他人のせいにして美味しいところだけは自分がとる。こんな上司に貴方はあつたことはありませんか？私のことを言わせて貰えば、私はこんな上司が多く、絶えず上司の「顔色」を伺い通した。まるで鷹が怖い「雉や小綬鶏」のような日々もあつた、それではなければもつと思ひ切った仕事が出来たと「言い訳」をします。

### ・言い訳をしない

潔い「男」は、決して「グチャグチャ」言い訳をしない。「良いものは良い・悪いものは悪い」というのが彼らの考えなので、その理由をくどくどと他人に語ることはありません。特に、自分が何か問題を起こしてしまった時、潔い男は決して言い訳をしません、また人の所為にはしない。

「ただ謝罪するのみ」ということに徹するのが特徴です。

そのため潔い男は、各方面から大きな信頼を得るようになります。「言い訳を絶対にしない」という姿勢が、多くの人から好かれるのではない。部下の失敗を自ら進んで責任をとる、決してその失敗で部下に責めたりしない。そうすれば自然にチームの結束も固くなるはずである。

### ・愛敬をふりまかない

潔い男は、会う人全てに良い顔をしたり、愛敬をふりまいたりしないと思う。「セクハラ」の始まりは女性にやたらと愛敬を振り回すのが常のようだ。

もちろん、相手に失礼のないように最低限の配慮はするだろうが、それ以上の笑顔を必要以上にふりまかないと思います。

会う人全員に良い顔をすることで、かえって信用をなくしたり、自分にとつて不適切な人間が周りに集まって来たりするということがわかつているので、自分で自分をきちんと律して守っているのではないのでしょうか。

場合によっては、他人から「嫌な奴」と思われるかも知れませんが、潔い「男」にとつては、そのようなことは関係ありません。

それで離れていくのなら、最初から縁がなかった人たちなのだと割り切ることが出来るのです。

### ・大事な人を心から尊敬する

潔い男は、人から「嫌な奴」と言われることを恐がりません。人は皆、他人から嫌われたくないあまりに、どうしても必要以上にその場の空気を読んでしまったり、他人の顔色をうかがってしまったりしますが、潔い男たちはそのようなことをしません。「世の中には色々な考え方の人

がいるのだから、会う人全員から好かれることはそもそも不可能」というのが、潔い男たちの基本的な考え方です。全員に好かれるなんてとてもできるものではありません。

だから、他人から「嫌な奴」と言われることに關しては、あまり気にしていません。むしろ、「今、自分にとって大切な人達を、心から大切にする」ということを重視して生きているのです。それを所構わず部下を詰つたりすれば上辺だけで人は付いてくるが心から尊敬されることはないでしょう。

#### ・決断を簡単には変えない

潔い男は、決断力・判断力があります。グチャグチャ長い時間悩んでいることもない。自分の中でピンときたら、即決断してしまふのです。

即断即決ができるのが、潔い男の最も大きな特徴ではないか。また、自分の決断に絶対の自信を持つているということも特徴です。その裏には絶えず責任と言う十字架も背負っている筈です、これがなければ即決即断などできません。なので、一度下した決断は、簡単に変えたりはしません。決断する

のも早いけれど、自分が下した決断に対しては、それだけの覚悟を持つているのです。私の現役時代の上司で自分の言ったことをコロコロ変え、そのくせ上役にはもてはやされた人物がいる。しかしこの輩の定年送別会の出席者はかつてない程の少人数でした。

#### ・自分を信じ結果を出す

潔い男は、己に対して自信を持つています。いつも堂々としてい存在感があります。しかも、「自分はずい人間だ」という過信や見栄ではなく、「やり遂げられる」というような「自分を信じる力」を持つているのではないか。

驕ることなく、目の前のことに對して謙虚に取り組み、必ず結果を出すのが潔い男でしょう。

#### ・誤りを認め深く

自分に自信を持って何かに臨んだとしても、それが間違っていた時、間違った自分のやり方に固執するだけでは、「ただの頑固な人」です。世の中にはこんな人はすごく多い。しかし潔い男は、自分の間違いがわかった時、今までのやり方をさっさと捨てて、早い段階で、新しい改善方法を見つけよう

とします。

#### 私の思う潔い「男」

第58代横綱千代の富士。182センチ、120キロの体で優勝回数には史上3位の31回。1988年夏場所から53連勝を記録し、89年には角界初の国民栄誉賞に輝いた。90年には史上初の通算千勝に到達、一時代を築いた。彼の引退は実に潔かった。「もう1敗したら引退する」と決意して3日目の貴闘力戦に挑んだが完敗。この貴闘力戦の取組を最後に、その日の夜に九重部屋にて緊急記者会見して現役引退を表明。その冒頭、「体力の限界・・・、気力もなくなり引退することになりました。」と呟いたのは有名である。そして「最後に貴花田と当たってね、若い、強い芽が出てきたなど、そろそろ潮時だなど」と貴花田戦の衝撃をコメントしていた。そうして「小さな大横綱」として歴史に名を刻んだその相撲人生を終えた。しかし小さな大横綱も病には勝てず、昭和から平成にかけて一時代を築いた元横綱千代の富士の九重親方（本名Ⅱ秋元貢Ⅱあきもと・みつぐ）が2016年7月31日、膀胱がんのため東京都内の病院で死去

した。61歳だった。

言い換えれば、潔い男は、「時には、自分が引き下がる勇氣」も持つていると言えます。自分に対する自信やこだわりが強ければ強いほど、引き下がるのが難しいものですが、潔い男は、そんな自分のエゴやメンツは持ち合わせていません。自分のメンツよりも、その先にある「人のためにまたより良い結果」のために、臨機応変にやり方を変えていくこともできるのではないか。横綱千代の富士も潔い男の見本を後世に残してくれた。



長々と書きましたが、全て自分の憧れです。最近の国会またスポーツ界における男らしくないまた潔くない男の多いことには「目を覆いたくなる」。なんだかんだと人の所為にしたたり質問の核心に触れず、他所ごとでその場を逃げたり、全く見苦しい男が多い。それが我が国のリーダーたるべく首相となると国民はガツクリくるどころか何を語ったら良いかその口をつぐむ。

だが、冷静に考えてみれば簡単に解決することである、国民には選挙なる大きな武器がある。それを正しく使うか使わないかで決着



はつく。

国のリーダーたる男たちに男らしくない、潔くない男が多いのは驚く、「男」は男たる己にも自信を持つべきではないか？この国は今に滅びる？いやすでに「滅びている」のではないか？

余談「もう」から「まだ」に  
限界を取り払おう！

過日、久方の「クラス会」に出席した。あいも変わらず年齢や病気の話が出るのも歳相応のことである。こんな場面である女性が大声で言った「もう70歳、もう80歳になったなんて希望のない言い方は止めましょう！まだ70歳、まだ80歳と夢のある言い方に変えましょう！」多くの人はなんと思っただろうか？私は大賛成だ。90歳であるのが80歳であるのが「男」には、いや「人」はいつでも「大きな夢を描き、幾つになろうとも邁進してこそ生きがいというものではなかるるか？」。「まだ90歳！80歳」にはそれなりの夢が作れる。それには、10台、20台また50歳台とまた違った年齢があるから、そ

れなりの夢が作れると思う！そして一日一日を大事に過ごす。それが天から与えられた「命」への恩返しではなかるるか？

## 仕事を辞めて思うこと

田中 稔

学生と社会人の違い、学生時代は親に学資を工面して貰い、当り前のように学業やクラブ活動（バレーボール）、酒、パチンコ、恋愛遊び、衣・食・住全てを親に頼っていた。社会人となれば自分の生活の為に当り前のように仕事を見つけて、私はサラリーマンとして労働することで、収入を得て自分の生活を支えて行くのは、当然の成り行きである。

従業員100人程の中小企業に就職。工学系の学部を出て、最初の仕事は電子回路の設計が担当だった。時代はコンピュータなるものが出始めた頃で、大卒の初任給が10万円になったと言うニュースが流れていたのを覚えている。仕事は忙しかったが、私にはやり

がいのある仕事でした。と同時に遊びも会社の先輩たちに付き合っただけで麻雀、今は懐かしい8トランプの歌詞カードを見て歌うカラオケ、スナックやキャバレーで夜を徹して遊んだのは、同輩も同じである。今思えば、こんな夜の遊び方が仕事を引退した私には、ある意味で余裕を持たせてくれていたのかなと思う。加山雄三の「若大将シリーズ」やブルース・リーの「燃えよドラゴン」等に影響を受け、入社して間も無く会社の有志で構成されたヨットクラブに病みつきになる。その頃、新橋に事務所のあった民間のヨットスクール「レッツツゴーゼーリングクラブ」に入り、江の島の公営ヨットハーバーに通い、10年間で50回程乗艇。とにかく潮風の中に身を置いてる事に、何とも言えない言葉では言い表しがたい充実感を覚えた。このクラブは今はないが、当時の初任給でも活動できた事は、大いに私を喜ばせてくれた。

サラリーマンには、仕事を自分から選択する余地はない、好むと好まざるとにかかわらず、やるし

かない。気の進まない命令にも従わざるを得ないのである。そうなれば仕事の終わった夜には、自分の気の趣くままに羽を伸ばしたくなるのは「当り前」のクラッカー」なのだ。しかし私の場合、仕事がこの上なく面白くて時間を忘れて没頭した為、三十歳の坂を超えた頃、残業代は毎月の給料より多くなり、それが三か月間続いた、私の体は悲鳴を上げ遂にダウン。元々弱かった扁桃腺は腫れあがり、医者のお勧めでこれを摘出。それ以来薬のご厄介に今でもなっている。この副作用で日中でも睡魔に襲われ、上司に「睡魔せん？」なんて謝るより術を知らなかったのである。

中小企業だけに、社長の耳にすぐ入り、私は田舎の工場に左遷。でもこれが良かったんです。残業はない、工場長を囲んで徹マンの挙句に翌日揃って出勤もありました。この工場長が男らしいナイスガイで、私より年齢は一回りで、部下の私から見ても頼りがいのある人物でした。この頃から自宅近くのテニススクールに通い始め、ラケットを初めて握るところから、三年で上級者クラスに入る程熱中

したのですが、試合となると、からつきしダメでした。また、居酒屋で知り合った友達とは市のダンス教室に通ったり、今もスキーや小型のヨットをともに楽しむ仲で、もう30年以上の付き合いだ。大自然の懐で一日遊んでいると、風邪をひいている体でも治ってしまふ、おまけに帰る時には、真冬でもポカポカと温まって来るから答えられない。

私が37歳の時、結婚を機に家内の実家のある流山に移り住み、間もなく会社が倒産、時代の流れである。間もなく銀行に庶務職員として入社。以来23年間の月日が経過した。

中国の諺に「塞翁が馬」と言うのがあるが、幸運と思っても、それが不幸の種になり、その不幸が幸運を呼んだりするのが人生なんだなと思う。生まれてからこれまでの64年間で自分の中に何が残ったかと云うと、私に関わった全ての人達との縁の深さかな、思い出と言うだけでは語り尽せない。年上とか年下とか、男とか女とかでは無く、良い事、悪い事があるのが人生で、何方かしかない人の道などありはしないな。そういえば、亡くなった親父は「俺の自

慢は経験だよ」と言っていたことを思い出します。

どうも私という人間は、今思えば勝つ為に何かをする、例えばスポーツの試合に勝つ、人の上に立つために仕事をやる。などの様に、どこか抜けているらしく、そういう考えが全く無い。スポーツなら、プレー自体を楽しむ事、テニスなら二人のコンビネーションを創っていく事、バレーボールなら六人ソレゾレの個性を發揮できるチームスピリットを、具現化して行く事、「一体感を作り出す事」に夢中になる自分の姿こそが最大の目的になり、生きていて良かったと思える。私にとって、最大の敵は私自身の中にいるもう一人の自分である。自分に自信を持ち、どんな場面も切り抜けていける自分に気付いたのはつい最近の事で、これからも少林寺拳法の修養は続きます。また少林寺拳法とはそういうものです。

仕事が無くなって、時間が過ぎるにつれて嫌な思い出は、忘却の彼方へ葬り去られ、鮮やかな思い出に変わる。良い思い出とかいい奴の事は、心の中に浮かび上がってくるのは不思議だ。自分は、「悔いの無い人生を送ることが出来

た」そう思つて冥途の旅に出たいものです。これから自分のしたいこと、やり残したこと、しなければならぬ事をガツガツやってやるうと思えます。先ずは、毎朝玄関の掃除をする事から・・・

エンゲル係数が高くとも、夫婦二人が仲良く暮らしていければそれでいいと思つている。何と言つても、強くて優しい人間を育てる事をライフワークとして、活動的・文化的な生活を送れば……。「全ては心の決めたままに片」マウエイの一節である。

## やつて良かった少林寺拳法

### 青柳 武

私が少林寺拳法を始めたのは35歳の時でした。武道を始める年齢にしてはかなり遅いと思えます。

きっかけは特に無いのですが、格闘技やプロレスが好きでブルース・リーにも憧れていたこともあり、たまたま電話帳に載っていた少林寺拳法流山支部に電話をかけた。「八木北小学校体育館で練習をしているので、見学に来てください。」といわれ見学に行きました。

その日は何らかの事情で体育館が使えなく、石井先生が校門の所にいらっしやつて「立ち話も何ですか」と自宅でコーヒーを頂きながら話をしたので覚えています。

私が入門したころは少年部と大人の部があり、子供も大人もかなりの人数で稽古をしていた記憶があります。健康クラブでは坐禅をやりませんが、少林寺拳法の修練の中では「鎮魂行」という行を行います。初めてこの行を見たとき何か新興宗教に入信させられるのではと、正直危惧しました。

あれから20年以上たった今振り返ると色々なことがありました。

参段の昇段審査では実技で不合格となりこの時はかなり落ち込みましたし、仕事の関係で当時は片道2時間以上の会社に通勤していたので修練にもあまり参加できず、石井先生に「休眠したいのですが」と相談に行ったこともありました。石井先生は「長い人生だから紆余曲折はあります。最終的には自分で決めることですよ」と言われ、結局自分で決められないまま今日が来ているので結果オーライだと思つています。

父が亡くなった時には石井先生、国吉道院長をはじめ多くの仲間が

弔問に来てくれました。親族や友人、会社の同僚とは違う別の繋がりを感じました。

石井先生と運用法の稽古をしている時、私の受け方が悪かったのか左手の中指が反対側に反り返り脱臼したこともありました。

また少林寺拳法をやっている悲しい出来事が二つあります。二つとも別れの話ですが、一つは流山支部を支え我々には良き先輩であり野田に新支部を設立したばかりの磯貝さんとの別れです。もう一つは武専でもよく面倒を見ていた

健康クラブ2年——中段自由攻撃

健康クラブでは、二人一組となつて、一人がいろいろな技を繰り出し、相手がそれを防衛したり反撃したりする技の練習をします。そのなかに中段自由攻撃という練習があります。これは拳を握って相手の腹、鳩尾（水月）をめがけて思い切り拳を突き出します。対峙する間隔は、突きを繰り返せば当たる距離です。石井先生は「当たっても痛くありません」とおっしゃいますが、当たればもちろん痛いんです。突き方は、相手の隙をついて左右関係なく突きます。身構えて腕の根元の部分を使って防がないと、拳を腹に食らうこと

だった野田川間道院の古嶋先生との別れです。

磯貝さんは特に年も私と一つ違いで、四段の特別昇格考試の時には野田の体育館で特練を何度もやってもらいました。わざわざ休みの日なのに体育館を借りたお金も割り勘で無償で教えてくれる。これが少林寺拳法の拳士なんだと痛感しました。

私が腰の手術で入院している時も、道院や健康クラブの仲間が見舞いに来てくれました。これは人言われて行動するのではなく、

になります。例えば相手の右の拳が飛んで来れば腰を捻ってよけながら左手の腕で相手の右腕を叩きます。このようにすればナイフで刺されそうになったときに咄嗟によけることができるということです。左右どちらの拳が飛んでくるのかわかりません。相手の肩を見ていればどちらの拳が突きだされるのかわかるということです。二、三発は突きを食らいません。二、三発は突きを食らいます。必死に上げようとしているせいか、攻撃する側も多少の手加減をするためか、当たっても痛みを感じるほどではありません。たまに肋骨にあたりると2、3日痛いこともありま

自らの意思で行動することが当たり前という少林寺拳法拳士の心だと思っています。

今一部の道院や支部を除いて大多数の所で拳士の数が減っています。少子化の影響は確かにあると思いますが、他武道（空手や剣道など）では大ぜいの子供たちが練習しています。

インターネットやホームページ等での告知や個々のニーズに合わせた練習の取り組み、放送媒体の利用など様々なことをして入門者を増やしています。

ですが、めったにそういうことはありません。練習の相手が誰になるかは、その日の運です。例えば、6人3組で技の練習をしているときは、相手を次々に変えて行う練習なので、中段自由攻撃の相手は5人にひとり、5分の1の確率となります。その日の練習の人数によっても確率は変わってきます。さて、いちばん緊張するのは、相手が先生のときます。先生は相手が有段者であろうとなかろうと容赦はしません（そう見えませんが）。段位のない者には多少手加減しているのかもしれないが、先生は、さまざまな技の指導をしてくれませんが、このときが、一番楽しそうに

少林寺拳法も同様なことをすれば拳士が増えるか、私は否だと思っています。こんな時代だからこそ「技法と教え」をしっかりと伝えるべきで、そのためにはまず「正」を復活させることです。これはこ

とりの話にしておいて下さい。とりとめのない文章になってしまいました。最後に私が少林寺拳法を始めたときには創始者である開祖は既に亡くなられておられましたので、私は開祖を直接は知りませんが私にとつての開祖は石井先生だと思っています。

のです。嬉嬉としているというか、相手に一つでも多く拳を当てることに喜びを見出しているというか。高段者が素人相手に無謀？なのではないかと思うことも。が、これが練習なのでしょう。先ほどの確率の問題なのですが、参加者が奇数の場合は、先生は二人一組の輪から外れて指導に専念することになるので、必然的に先生と当たることはないわけです。ほっとします。いやいや、これではいけません。毎回、中段自由攻撃の練習相手は先生で、その攻撃をかわしてやるとの気概がなければ、上達はおぼつかないかもしれません。

（関田孝正）

特集

映画ときぞのプライベート

少林寺拳法シニア流山健康クラブ

イラスト &amp; エッセイ

## いのちを食べない田

中田好美

「いただきます」

いま口にした食べ物は、原産国はどこで、何を原料として作られているのだろうか……。

食に関するドキュメンタリー映画を観た後、食品表示だけでなく、砂糖の種類まで確認するようになった。

今回観たドキュメンタリー映画の中で、印象に残ったシーンをご紹介。

## 『フード・インク』

アメリカの食肉産業の裏側を描いた、ドキュメンタリー作品。遺伝子組換え作物や、大量生産低コストに潜むリスク、企業に対して無力な国事情などが明らかとなる。

この作品がフードドキュメンタリーとして、初めて観た作品である。描かれている内容に衝撃を受け、様々な食品に関心を持つようになった。

鶏肉、牛肉、豚肉など、家畜として生まれてから、食肉になるまでの工程を知ることができる。ど

のような環境で、何を食べて食肉として育てられるのか。生きている動物が屠殺されるまでの映像があるため、苦手な方は見るのが辛いかもれない。けれど、日頃食べている食肉がどのように作られているのか、その事実と向き合うことも命をいただく側として、とても大切なことだと思った。

タイソン社は、史上最大の精肉会社である。養鶏を根底から変えた大企業が農家を牛耳る様子が窺える。

鶏は育種改良によって、育つ早さまで変えられていた。大量のニーズに応えるためには、通常の鶏よりも早く育たなければならぬ。短期間で急速に成長する雑種鶏の総称として、ブロイラーと呼ばれている。

自然界の鶏は、成鶏に達するまで70日かかるといふ。ブロイラーは48日程度で成鶏するため、急激な成長に上半身を支えきれず、少し歩いただけで足が折れてしまう。歩行困難だけでなく、趾蹼皮膚炎や心不全などにもなりやすい。

鶏舎でひしめき合う鶏たちは、身動きもままならず、痛みにも耐えながら屠殺されるまで生きなければならぬ。

飼料には添加物として、抗菌性物質が混ぜられていた。家畜の健康を守り、安全な畜産物を生産するための重要な資材とされている。

しかし、家畜に抗菌性物質を使用すると、薬剤耐性菌が生き残って増えることがある。薬剤耐性菌が検出された鶏肉を食べ、免疫力が落ちた病人や高齢者の体内に入り感染すると、抗菌薬による治療が難しくなる恐れがあるという。

日本では国産鶏肉の59%から、薬剤耐性菌が検出されている(ここ数年の厚生労働省研究班による調査)。普段口にしていく鶏肉にこのような危険が潜んでいたなんて、思いも寄らなかつた。出荷の7日前から休薬期間(抗菌性物質が入っていない飼料)が設けられているが、半数以上から検出されているということは、絶対安全とはいえない。

集鶏作業では、鶏が蹴られる様子も映っていた。集鶏作業をするのは、権利もなく不平を言わない(言えない)不法就労者たち。低賃金かつ口止めができるという、

企業にとつては一石二鳥である。そのような扱いをされる人間は、鶏にも同じような扱いをしていた。人を人とも思わない企業の黒さは、労働者にも伝染していた。家畜として生まれてから屠殺されるまでの様子は、尊い命の扱いではなかつた。広々とした鶏舎で鶏が歩き回る姿は、単なるイメージに過ぎなかつた。

大量生産低コストが生んだ悲劇。それは、1993年にアメリカのハンバーガーチェーン「ジャック・イン・ザ・ボックス」において、ビーフパティを生焼けのまま使用したことにより、732人がO157に感染した集団食中毒事件。その原因の元は、牛に与える餌を草からコーンへ変えたことにある。牛はコーンを食べる体になっていないが、コスト第一の企業



## いのちを食べない日

は遺伝子組換えのコーンを大量生産し、牛の餌にしている。コーンで育てるのは安く、太るのも早いという。しかし、コーンの多い飼料を与え続けると、大腸菌が耐酸性を持つようになり、より危険な大腸菌へと変わる。コーン飼料によって、普通の大腸菌が突然変異を起こし、大腸菌O157という株ができてしまったのだ。ハンバーガーのパテは、何千頭もの牛ひき肉から作られている。一頭が感染すれば次々と広がり、処理場に着いた頃には体は糞まみれ。1時間に400頭が処理されるなか、死体に糞が付着するのを防げるのか、肉に混入しないのか、スピンドとコストが重視されるフードシステムの問題点を知ることができる。

コーンの代わりに5日間牧草を与えれば、大腸菌の8割が死滅するという。しかし企業が食品安全のために造った設備は、アンモニアを用いて牛肉を殺菌するというものであった。

アンモニアで殺菌されている牛肉の映像を見ていたら、ハンバーガーを食べたいという気持ちが吹き飛んでしまった。どんなに安全性をアピールされても、ファスト

フード店へは行かなくなった。生産者が見える産直豚のひき肉を使い、十分な加熱調理を行った手作りハンバーガーが一番安全だと思った。

スミスフィールド社（アメリカのスミスフィールドで創業されたが、現在は中国の万洲国際の完全子会社となっている）は、世界最大の豚肉生産、食肉処理企業である。

スミスフィールド社は労働者をうまく選び、うまく搾取するという。地元の労働者から貧しい白人や黒人など、長期雇用をせず、すぐに切り捨てる。

豚にとって（労働者にとって）快適かは関係なく、1日3万2000頭の豚が処理される。1時間に2000頭を処理する中、大量の内臓を手で触るため、爪が細菌に感染して全部剥がれ落ちる。豚の血、便、尿にまみれ怪我もしやすい。過酷な労働条件の中、懸命に働いてきた労働者たち（不法移民）は、移民反対運動を機に突然取り締まりが始まる。雇用していた企業ではなく、労働者たちが逮捕される。「安い食品を買うため、いかに代償を払っているか」という、組合オーガナイザーの言葉が

忘れられない。

安さばかりを求め、働く人々や家畜の環境に目を向けたことがなかった。1円でも安くという消費者の声は、家畜だけでなく働く人々をも苦しめていた。値段に隠された裏側をもっと知らなければならぬと思った。

モンサント社は、ベトナム戦争で使用された枯葉剤を製造した会社である。現在は遺伝子組み換え作物の種子を開発し、その世界シェアは90%になるといふ。

遺伝子組み換え作物のひとつとして、大豆が取り上げられていた。その大豆は、「ラウンドアップ」という除草剤に耐性を持つ大豆(ラウンドアップ・レディ)であった。ラウンドアップを散布しても、耐性を持つ大豆だけが枯れないというから驚きである。

一見すると農家にとって、とても便利な作物に思える。しかし、こうした遺伝子組み換え作物には問題点があった。在来種の遺伝子汚染である。周りの畑が遺伝子組み換え作物になる中、在来種を大切に育ててきた畑があった。在来種は種子を洗浄し保存することで、翌年も蒔くことができる。周りの畑が遺伝子組み換えだらけとなり

花粉や種子が飛んできて交雑してしまい、遺伝子汚染されてしまったのだ。汚染されたのにもかかわらず、権利を侵害していないことをモンサント社に証明しなければならぬ。

モンサント社は、遺伝子組み換えの種子と除草剤をセットにして農家に販売している。種子の保存は認められず、毎年種子を購入しなければならぬ。種子を洗浄し保存すると、モンサント社の偵察チームから調査をされ、違反があると特許権侵害で捜査されてしまう。

モンサント社は、種子洗浄を行う業者や在来種を扱う農家を次々と訴える。モンサント社には「認可していない農家リスト」というものがあり、モンサント社に否定的な農家や企業に対し、常に目を光らせている。

種子洗浄業者であるモエ・パーは、遺伝子汚染された農家の種子洗浄を行っていた。モエは、種子洗浄による特許権侵害の教唆で、モンサント社に告訴されてしまう。種苗会社が生産する人間を訴えた初の裁判であったが、裁判から4ヶ月後、訴訟費用が続かず、モエはモンサント社と和解するこ

とになった。モンサント社の重役と有力な司法関係者には秘密のペールがあり、本来管理すべき企業に管理されていたのだ。小さな農家が大企業を相手に裁判で勝てるわけがない。農家に罪がないとしても罪を「作られて」しまうのだ。

遺伝子組み換え作物には、様々な意見や議論があり、なにが正しいのか判断が難しい。ひとつ言えるのは、在来種はとて長い間(数百年)人間に害を及ぼすことはなかったということ。遺伝子組み換え作物は、誕生してからそれほど時間が経っていない(22年ほど)。いわば消費者の身体をもって実験中のようなものだ。健康に害があるとも、害がないとも言いがた。確かにはできない、なんとも不確かな食物である。

日本では本年4月から、種子法(主要農作物種子法)が廃止となった。種子法は、稲、大麦、はだか麦、小麦及び大豆などの主要作物について、優良な種子の生産及び普及を促進するため、種子の生産については場審査その他の措置を行うことを目的とする」というものであった。

それぞれの地域にあった品種が、都道府県の農業試験場などで国の

予算の補助を受けて開発・栽培され、それを各農家が使い、消費者の下に届けられている。これら都道府県が推奨している品種の種子の価格は、1キログラム約400円〜600円だという。それに対し民間企業の種子の価格は5倍〜10倍高くなってしまふ。直ちに予算が削られることはないが、種子法廃止で予算の法的根拠が無くなり、将来的には非常に不安定になってしまった。

在来種が高くなり、安い作物を消費者が求めるようになったら、遺伝子組み換え作物へと移行してしまうのではないかと、とても不安になった。遠くない未来、ラウンドアップ・レディのように除草剤に耐性を持つコメが作られ、遺伝子汚染により在来種が消えてしまふ日がくるかもしれない。おいしく安全な食生活のためにできること、消費者に委ねられた「選ぶ権利」を大切にしていきたいと思った。

この映画で唯一の救いは、人間の手を加えない自然の形で、大切に育てられている牛や豚、鶏たちがいたこと。「ポリフェイイス農場」では、抗菌性物質や遺伝子組み換え飼料などを一切使わず、家畜そ

れぞれの習性が自然とともに循環するよう飼育されていた。広々とした谷間で草を食べる牛や、尾を振りながら飼料を食べる豚を見て、大切に育てられたいのちを食べたいと思った。

### 『このちの食べ方』

解説やBGMなど一切ないが、いのちを扱う人々の仕事を見ることができる。

孵化したばかりのひよこがコンベアに乗せられ、ものすごいスピードで移動する映像は衝撃的だった。「ピヨピヨ」と鳴く可愛らしいひよここと、スピード重視の容赦ない機械の対比がとても印象に残った。集鶏作業も機械で行われ、次々とカゴの中へ集められる。一定数集めると、かごを引き出しのようにしまうのだが、羽の一部が挟まっても気にしない。鶏に配慮する余裕がないほど、鶏舎一面にひしめく数が凄まじい。

作中で母豚が横たわったまま固定されている映像や、子豚に行っている作業内容が気になったので、少し調べてみた。

母豚は妊娠ストールと呼ばれる、体がギリギリ入る大きさの檻に入られ、人間の手によって受精さ

せられていた。この檻はとても狭く、方向転換することも首を横に曲げることもできない。横たわれれば隣の母豚にぶつかると、足を伸ばして寝ることすらできない。この檻の中で約114日を過ごし、分娩間近になると、分娩ストールと呼ばれる別の檻へと移される。授乳期間の約21日間、横たわった状態で固定され、我が子を見ることも許されない。授乳を終えるとまた受精させられ、1年に2〜3回出産し、4〜5年で屠殺されるという。約15年という寿命のなか、子を繁殖するために身動きできない檻の中で一生を過ごす。

子豚は産まれて1〜3日後に、無麻酔で尾を切断される。豚同士で尾をかじらないようにするためだという。尾をかじってしまうのは、飼育環境によるものだ。自由に動き回ることができないストレスを柵や尾、耳をかじることも、もしくは攻撃行動といった行動に転嫁して発現するという。雄は臭みをなくすために、無麻酔で去勢される。鋭利なカミソリで陰囊を切り、睾丸を一気に引き抜き、切り取るそうだ。授乳の際、母豚の乳房や他の豚への損傷を最小限にするため、歯も無麻酔で切断。歯

医者で治療を受けたことがあるため、無麻酔で歯の根元付近まで切断されたら、その痛みには耐えられないだろうと、自身に置き換え想像してしまった。無麻酔による処置で心的外傷疾患による死亡や腹膜炎を起こして死亡する子豚もいる。ビジネス化され、いのちが物となる場所には、痛みや苦しみを外にもなかつた。生まれてから屠殺されるまで、生き続けることすら難しいなんて、こんなにも過酷な日々の上に成り立つ食肉産業は、消費者の意思によって変えていかねばならないと感じた。

この作品では動物と植物の映像が交互に写される。りんごがもがれていても平気なのに、豚や牛が処理場へと追い込まれるシーンは、胸に迫るものがあった。植物にも声があり、もぐ度に断末魔の叫びを上げられたら、収穫もままならないと想像してしまった。

黙々と働く人々を見て、食肉が食べられることへの感謝の気持ちと、家畜たちの現状に板挟みとなり、複雑な気持ちになった。誰かが屠殺しなければ食べられない食肉。家畜にも働く人々にも優しい環境が広がってほしいと思った。

映画を見て、日頃食べている食

肉の現状にショックを受け、ネット上で色々なことを調べた。調べれば調べるほど、残酷で悲しい現実が書かれていた。

驚愕したのが動画サイトにアップされている、『Shocking Animal Cruelty at Tyson Foods Supplier』という豚への虐待映像。食肉用の豚は、身動きが取れないよう飼育されているため足腰がとても弱い。後ろ足が折れて動けない豚の上に人間が乗り、豚の悲鳴を聞きながらグラグラと笑う。産まれて数日の子豚は、耳を掴まれ乱暴に放り投げられる。交配の際、子宮ではなく直腸に種付され、子宮脱を引き起こす。糞尿を下に溜めるよう床に隙間が作られているため、産まれて間もない子豚が隙間に挟まったまま何匹も死んでしまう。手違いで水が止められ、栄養補給もできない環境の中、脱水と飢えに苦しみながら死んでいく。虐待されている映像はあまりにも残酷で見ていると胸が締め付けられる。豚たちの痛みと恐怖の叫び声が耳から離れない。虐待していた養豚場は、伊藤ハムの米国関連会社が所有するものだったため、すぐに対応し解雇されたが、このようなことが行われていた事実にも、もの

すごくショックを受けてしまった。家畜たちの苦しみをなくそうと、様々な団体が行動を起こしていた。海外では妊娠ストールの禁止が進み、少しずつ飼育環境が変わっている。日本では残念ながら、妊娠ストールの新設に国の補助金がおりにしているという。妊娠ストールを使わなくても経済的に生産量が落ちないことが、EUを中心とする養豚場での実績で立証されている。そうだ。断尾や断歯、去勢を行わない飼育方法も行われている。個人でできることは限られているが、家畜を大切に飼育している企業を選びたいと思った。

### 『あまくない砂糖の話』

オーストラリア生まれの俳優兼映画監督、デイモン・ガモー自らが被験者となり、糖分を多く摂取する食生活を続けることで、体になどどのような変化が起こるのかを伝える作品である。専門家による分かりやすい説明と、ユーモアを交えて作られているので、家族で見るともおすすすめだ。

オーストラリア人の糖分摂取量は、1日平均ティースプーン40杯（160グラム）程度と言われている。そんな量を摂取するには、甘

いお菓子をたくさん食べればいいのかと専門家に聞くが、お菓子やジャンクフードを食べなくても、スーパーに売られている食品で事足りると言われる。

朝食の一例として、市販のシリアルに低脂肪ヨーグルト、リンゴジュースというメニューだけで、ティースプーン20杯分に達してしまつた。

砂糖の大量摂取が起こる理由、それは文明の利器にあつた。リンゴの場合そのまま食べれば食物繊維が含まれるため、2個ほどで満腹感を得られる。しかし、ジュースを用いてグラス一杯分のジュースにすると、4個分の糖分を摂取することになってしまふ。糖分だけを取り出し、食物繊維などの大切な栄養素を捨てているのだ。飲み物に含まれる大量の糖分が人々の健康を脅かしている。

実験から12日目に体重測定をすると、3・2キロ増加していた。砂糖の摂取は内臓脂肪の増加につながるという。デイモンのウエストは目に見えて太くなつていた。18日目には肝細胞の死滅が起こり、肝臓は脂肪まみれになつた。

砂糖は体内に入ると2つに分かれ、果糖とブドウ糖になる。ブド

ウ糖は肝臓で素早く処理され、エネルギーとして使われるか、蓄えられるかに分かれる。果糖は自然界において希少なため、肝臓はすべて吸収しようとし、余つた分を脂肪に変えてしまふ。その脂肪の一部は肝臓に居座り続け、インスリンの機能不全や糖尿病のリスクを高めるといふ。果糖から作られた脂肪は中性脂肪として血中へ流れ、肥満、動脈硬化、心臓病の原因になる。糖分には様々な種類があるが、ブラウンシュガー、白砂糖、異性化糖、濃縮果汁など、健康によいとされるものでも人体への影響は同じだといふ。

糖分による影響は体だけでなく、精神面にも現れ始める。デイモンは糖分の摂取によって、気分の変動を感じるようになっていた。糖分を摂取すると45分くらいハイな状態が続く、その後だるくなつてボンヤリした状態になってしまう。集中力の低下や落ち着きのなさもパートナーから指摘されていた。砂糖は子供の行動や心に大きな影響を及ぼし、様々な神経障害とも関連があるといふ。集中できない子供が増えているのは、日常に潜む砂糖の影響も考えられている。生まれた街にファストフード店し

がなく、幼い頃から甘い飲料やお菓子が育つ子供もいる。それらが危険であることを知らなければ、健康で生きていくのは難しい。

ピュリッツァー賞（新聞等の印刷報道、文学、作曲に与えられる米国で最も権威ある賞）作家のマイケル・モスは、大企業が行う科学研究はあなどれないといふ。人間の舌が何をおいしいと感じ、いかに中毒性が高まるかを探っている。ドクターペッパーは、甘味料のレベルを61段階に分け、全米3000人を対象とした試飲テストを行う。使用する甘味料の量の最適値を割り出すことで、商品が飛ぶように売れるのだ。砂糖を増やすほど商品は売れたが、一定量を越えたと売れなくなつてしまふ。その境界線を「至福点」と名付けた。ドクターペッパーが生み出した至福点は、様々な企業や商品に使われている。

たまに無性に飲みたくなるのが、コーラやサイダーなどの炭酸飲料水。成分表示を見るとよく記載されているのが、「ぶどう糖果糖液糖」といふもの。実は、コーンシロップ（企業のほとんどが遺伝子組み換えコーンを使用している）を原料に作られた甘味料である。



冷たい温度でも甘みを強く感じるため、ほとんどの炭酸飲料に使われている。コーラやサイダーがおいしいと感じるのは、己の味覚によるものなのか、企業によって生み出された至福点によるものなのか、分からなくなってしまう。

糖分の高い物を食べると、よりそれが欲しくなり、結果的に食べ続けることになるという。企業は肥満や病気は消費者の選択の問題であり、自己責任という立場を取る。中毒や肥満の責任を消費者に押しつけてしまうのだ。

デイモンは60日の実験を終え、検査を行った。体重は8・5キロ増え、体脂肪率は7%増加、ウエストは10センチも増えてしまった。以前と変わらない摂取カロリーにもかかわらず、摂取源を健康的な脂肪（野菜、肉、魚など）から糖分の高い食品（シリアル、低脂肪ヨーグルト、穀物バーなど）に変えただけで、血中の様々な数値が悪化した。

世界保健機関（WHO）は、1日あたりの砂糖の摂取量を25グラム程度にするのが望ましいとしている。人々の健康な未来のためにできること。それは砂糖を使わず、いかに自然の食材をおいしく食べ

させられるか、親が子供に栄養の摂り方を教えるのがとても重要だという。果物や野菜のおいしさを知れば、健康な未来への一歩が踏み出せるのだ。

私は子供の頃から甘いお菓子が大好きだった。幼い頃の様子を聞くと、落ち着きのない子供だったらしい。ハイチュウに病みつきになり、1日に一本食べていた。成分表を見ると糖質は表記されていない。炭酸飲料、ジュース、アイスなどスーパードで様々な成分表を確かめたが、そのほとんどに糖質は表記されていない。そこで、成分表から糖質を割り出す方法をネット調べてみることにした。栄養素にはそれぞれエネルギー（カロリー）が決まっている。糖質は1グラム4カロリー、たんばく質は1グラム4カロリー、脂質は1グラム9カロリーとなっている。これらすべてのカロリーを合計したのが、栄養成分表示に記載される総エネルギーとなる。糖質II（総エネルギー）÷たんばく質×4÷脂質×9÷4となる。ハイチュウ（ストロベリー）で計算してみると、1粒当たり、19カロリー、たんばく質0・07グラム、脂質0・36グラムなので、 $(19 - 0.07 \times 4 - 0$

$\cdot 36 \times 9) \div 4 = 3 \cdot 87$ グラムの糖質となる。12粒入りなので、 $3 \cdot 87 \times 12 = 46 \cdot 44$ グラムもの糖質を摂取していたのだ。無知とはなんと恐ろしいことか。

歳を重ね、甘い物を食べる機会が減ると、味覚に変化が起きた。それは、砂糖に対する甘みの感じ方だ。昔はおいしく感じたチョコレートケーキだが、今食べると脳にガツンとした刺激があり、あまりの甘さに目を見開き、悶絶しながら完食した。コーラはまだおいしいと感じてしまうが、炭酸飲料やジュースなども、月に数本買う程度になった。完全に止めることはまだできないが、1日の摂取量を意識して、健康的な食生活を送りたいと思った。

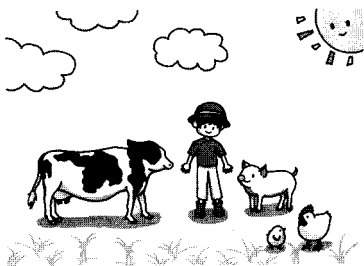
様々なドキュメンタリー映画を観てふと考えたのは、いのちを食べなかつた日はあつただろうか……ということ。胃カメラの検査時に絶食したことはあるが、終わった後は消化のよいお粥を口にしていた。水だけで過ごした記憶はないので、いのちを食べなかつた日は1日もないのだと思った。

家畜たちの断末魔が耳に残る中、夕ご飯を食べた。豚の生姜焼きを見つめながら、絶命の瞬間を頭に

描きながら口へと運ぶ。

「ああ、やっぱりおいしいなあ、ありがとう、いただきます」

なにも知らずに食べ続けるのと、知って食べ続けるのとでは、一口の重みがまるで違った。肉や魚から取れる栄養素や、そのおいしさとともに生きてきた。長い間続けてきた食生活を変えることはなかなか難しく、ベジタリアンになれるほどの実行力はない。そんな中でも原産地表示があるか、適正価格か、飼育環境が家畜に優しいものかを知って買うことは、これから生きていく中で大切な教えとなつた。今日の食事を知ることは、未来の健康な身体へと繋がる。「いのちの選択」という大切な一歩をあなたもはじめてみませんか。



## ロビン・フッドは何者？

## 久保嘉之

## 序

私の生家に初めてテレビが登場したのは、いつごろだったろう。

引越して現在の地に住居を構えたのが、私が小学校三年の時であったから、その一、二年前、多分昭和三十三年、四年頃だと思う。転居した先は住宅地であるが、それまでは町中の商店街に住み暮らしていた。隣が酒屋で我が家の大家さんでもあった寺平さん家で、私はそこで毎週日曜日夜七時から八時まで、『月光仮面』と『ポパイ』を観せて貰っていた。ついでに晩御飯も御馳走になっていた。酒屋の親父さんは剛毅な人で、未成年どころか小学生である私に、ワインを振る舞ってくれたりもした。赤玉ポートワイン、銘柄もはっきり覚えてる。口当たりがとてもよかった。親父さんには娘がふたりいたが、男の子がなかったため、「それでおまえを可愛がってくれたのだろう」後に母親から

そう聞かされた。  
なにせず隣である。何メートルもあるわけではないのだが、帰り道はいつもふらふらの足取りであった。

私の家は決して裕福ではなかった。それでも当時贅沢品に違いなかったテレビを購入したのは、なぜだろう。母親の決断である。父親は（保守）をコンクリートで固めたような人で、新しいものを敬遠するようなタイプだったから、当然渋った。なぜ母はそんな父の意向を蹴ってまで、テレビを買ったのだろう。毎週息子にテレビを観せてくれるだけでなく、夕飯まで振る舞ってくれるお隣さんに遠慮したから、或いは毎度ふらふらな足取りで帰宅する息子の行く末を案じたから、もしかしたら久保家の跡取りである私を養子に欲しいといわれでもしたら、と心配したから（実際、私よりひとつ年上の下の娘と、一緒にしようかという話も、当時あったらしい）。理由はともあれ、嬉しかったのは間

違いない。可笑しかったのは、あれほど不承不承だった父が、間なしにテレビをほぼ独占したことである。

テレビが運び込まれたのは午後であったが、なかなか映らず、電器屋さんは悪戦苦闘、ようやく観ることができるようになったのは、日も落ちる頃であった。我が家のテレビで私が最初に観た番組は『矢車剣之助』である。それも途中から。

この頃だったか、もう少しあとだったか、『ロビン・フッド』という番組があったのを、覚えている。無論当時の私にロビン・フッドについての知識、何者であるかという認識はまったく、ない。薄暗くて小さな画面の中で、矢筒を背負い羽飾りのついたチロルハットを被った主人公らしい人物や、肥った修道士（いるまん）や、あまり賢そうではない大男などが、忙しそうに動き回っていた記憶があるだけである。だから後年ロビン・フッドの物語に触れた折、

「ああ、小さい時に観ていたテレビ番組はロビン・フッドだったのだ。」と気付いた次第なのだが、でもなぜすぐに思い出せるほど覚えていたのだろうか。ストーリーは判らず、さして面白いとも思えなかったのだが、おそらく日本の番組では見られないフオークロア的なコスチュームや、異質な世界観に、興味とある種の畏怖を抱いていたせいではなからうかと思う。

唐突めいて恐縮だが、少し長じて中学生の頃『コンバット』というTVシリーズがあった。ゴールデン・タイムに放映された人気番組で、確か五年程続いたのではなからうか。アメリカ陸軍歩兵連隊の一分隊の活躍を描いた話で、当初はヘンリー少尉を演じたリック・ジェイソンを主役とした企画だったらしいが、粗野で言葉遣いは乱暴だが、叩き上げだけに隊員の気持がよく判るサンダース軍曹（ヴィック・モロー）の人氣が急激に高まったため、一話ごとに主役を交代、最後の方は専ら軍曹が

主で、少尉は偶にしか顔を出さないようになっていた。私もサンダース軍曹の大ファンで、ヘンリー少尉が主役の回だったりとがっかりしたものである。分隊の兵士の一人にリトル・ジョンという名の大男がいた。鱧子唇が特徴的で、調べたらデイック・ピーバディという人が、演じていた。学校教育で英語の習い始め、大男なのに「ちいさなジョン」とは、その可笑しさには気が付いたが、迂闊にも少年期に観た『ロビン・フッド』に登場していたロビンの相棒である大男の名が、リトル・ジョンだということには、そのときは気が付かなかったのである。

壱

ロビン・フッドと正式に対面するのは、一九七六年に上映された『ロビンとマリアン』においてである。但しこれもロビン・フッドの映画だと知って観たわけではない。内容についての予備知識は持たず、中学生の時007シリーズに夢中になって以来の、シヨーン・コネリーのファンであったから観ただけのこと。本編が始まって「あれっ、これってロビン・フッ

ドの映画だったんだ。」気が付く始末、何ともいいようのない間抜けぶりである。しかも対面できたのは結構なのだが、その映画が、それからのロビンとでもいうべきもので、彼が迎える終焉を描いた物語だとは、何と奇しき縁であることか。

監督はリチャード・レスター、ロビン役は勿論シヨーン・コネリー、そしてマリアンは世界的名女優のオードリー・ヘプバーン。彼女は六七年に『暗くなるまで待って』を撮って以来休業中であつたが、今作で復帰を果たした。前作から九年の時の移ろいがあるとはいえ、美しさに衰えがなかったのは流石。

——嘗ては愛し合う仲で、共に暮らしていたロビンとマリアン。それが獅子王という異名を持つリチャード一世(リチャード・ハリス)とロビンが出会つたため、二人の運命の歯車は大きく狂い始める。

獅子王の考えに共鳴したロビンは、イスラム教国から聖地エルサレムを取り返さんが為の《聖戦》と銘打たれた遠征に、相棒のリトル・ジョン(ニコル・ウイリアムソン)と共に、随行する。所謂十

字軍の遠征である。そして彼の地で二十年近い歳月を戦い抜き、帰国する。が、国内での小競り合いで獅子王の命に背いた二人は、王の逆鱗に触れ、幽囚の身となつてしまう。しかしそれも小競り合いで傷を負つた獅子王の死で、罪を許されるも、臣下勤めに嫌気がさしたロビンとジョンは、故郷であるシャーウッドの森へと帰つていく。

戻るに際して、ロビンの一番の気懸りは、後に残してきたマリアンのことであつた。彼女はどうかたるう。シャーウッドの森もそこに住み暮らす人たちも、ロビンとジョンを温かく迎えてくれた。だがマリアンは——彼女は、カークリー近くの修道院で院長をしているといふ。マリアンが？なぜ？彼女はロビンのことが忘れられず、ロビンと過ごした日々を消し去ることができず、小川の近くで手首を切つて死のうとしたのである。通りかかった尼さんに助けられ、修道院に運び込まれて以来、そこで過ごしてきた。そして二十年近い歳月をかけ、漸く記憶を風化させようとしていたのである。

マリアンに会いたい、気が急ぐままに修道院へ向かうロビン。だ

がそこで目にしたものは、亡き獅子王の跡を継いだジョン王(イアン・ホルム)の命を受けた、いや王の機嫌を取り結ばんが為に圧政を施し、修道院を失くしてしまおうと画策するノッテンガム公とその代官(ロバート・シヨーン)が、命令に従わず立ち退こうとしないマリアンの身を、まさに拘束しようとする、光景であつた。彼女を助けなくては、ロビンはマリアンを拉致し、シャーウッドの森へ連れて行く……

こういうふうを書いてくると、かなり切羽詰まつた展開のようだが、レスター監督は決してそうは描かず、至つて大様というか、長閑というか、牧歌的な描き方をしている。景色・景観もロングに引いて、広々と映し出しているし、為に普段は全容が描かれないシャーウッドの森も、こんなに広大な森なんだ、これでは少々の軍隊が押し寄せても守りきれぬなど教えてくれるし、雄渾な自然の中での人間の営みなんてちつぽげなものなんだよと、判らせてもくれる。

但し戦いの場面も同じテンションなので、緊迫感はどうしても希薄になつてしまう。故に全体を通して、メリハリのない間延びした感

じを受けてしまうのである。

シヨーン・コネリーの演技についても同様である。この人なかなか茶目つ気のある人で、ジェームズ・ボンドのように絶えず危険に晒され、危機を潜り抜けているような状況下では、ちよつとしたユーモアは一服の清涼剤のように感じられるが、この映画ではそれが功を奏さず、世界的名女優と共演できたがゆえに、舞い上がっているのではないかと思えない。

——森での生活は、昔に還ったかのような感じだ。だが幸せな日々は長くは続かなかつた。命令に従わないばかりか、反抗的な姿勢を崩さないロビンたちに業を煮やしたノッテングラム公は、ジョン王から二百の兵を借り受け反撃に転じたのである。シャーウッドの森を取り囲み、持久戦が始まった。このままでは罅があかないと判断したロビン・フッドは、自分と代官が一騎打ちをして、代官が勝てば以後は公の命令に服従するが、自分が勝利したら兵を引き上げ二度と手出しをしない事という打開案を、提案する。かくてロビンと代官の対決が行われる。

シヨーン・コネリーとロバート・シヨ、それに音楽を担当した

ジョン・バリーとくれば、いやでも007シリーズの『ロシアより愛をこめて』を思い出さざるを得ない。オリエント急行内での息も継がせぬ死闘は、映画史に残る傑作だと思うが、今作でも長く静かながら見応えのある闘いであった。正直な処、『ロビンとマリアン』で私はこのシーンだけを評価する。

辛うじて代官を斃せはしたものの、ロビンも深手を負う。ノッテングラム公は約束を反故にし一斉攻撃をかける。マリアンとジョンは、ロビンを連れて修道院に逃げ込んだ。

ラストである。ジョンを部屋の外へ出したマリアンは自ら毒を啜り、ロビンにも薬と偽って飲ませる。これ以上逃げ切れないと判断したわけではなからう。傷が癒えたとロビンは再び戦い始めるに違いない。今日はどうにか代官に勝つことができたが、明日はどうなるか判らない。一度は歳月の風化作用に助けられたが、再びロビンとの生活を取り戻せた現在、彼のない生活には耐えられない。手首を切つて死のうと思ひ詰めた絶望を、金輪際繰り返したくない。ならば今ここで、共に手を携えて

死を選んだ方が、いつそ幸せである。実はノッテングラム公の襲撃に合う前、ロビンの元を去ろうとするマリアンのエピソードが描かれている。ロビン・フッドは戦場の中に身を置くことでしか生きられない男。もし再び彼と巡り合う前の自分に戻れたら、一人で生きてきた自分に返ることが出来るなら、ロビンの死を間近で見ること

はないし、寂しくはあっても心穏やかでいられるのではないか。機を逸し、それが叶わぬ今、マリアンが採るべき道はただひとつ、そう思い込んだとしても、誰も非難はできないだろう。

ロビンはジョンを呼び、毒を盛られたことを告げ、窓越しに矢を放ち、その矢が落ちた処に二人一緒に埋葬してくれと、遺言する。マリアンの気持に殉じることを、決意したのである。

### 式

一九九一年に制作された、ケビン・レイノルズ監督、ケビン・コスナー主演による『ロビン・フッド』である。

この映画、なんとメルヘンチックで、喜劇的であることか。だから

らといって面白くないかというと、それがそこそこ楽しめるのである。そもそもロビン・フッドの物語自体が、伝承による伝説であるから、その対極にある全くの空想によるお伽話的手法が、語り口として有効なのではないか、脚本を担当したペン・デンシヤムとジョン・ワトソンは、そう考えたのではなからうか。私にはそう思える。

第三次十字軍の兵士として遠征したロビン・フッドは、イスラム教国に捕えられ、エルサレムで五年の間捕虜として憂き目を見る。どうか隙を見つけて異教徒であるムーア人のアジーム（モーガン・フリーマン）と共に脱走し、や

つとの思いで故郷に帰りつくも、父親は既にノッテングラムの代官ジョージ（アラン・リックマン）の手に掛かり、殺されていた。——このアラン・リックマンという役者さん、ご存知のように『ダイ・ハード』でテロリスト集団の首領

ハンス・グルーパー役で強烈な印象を与え、ブルース・ウィリスをスターダムに押し上げるのに大いに与つた人である。また（ハリリー・ポッター）シリーズで、何を考えているのか判らない不気味なセブルス・スネイプ先生を演じてい

るが、若い方にはこちらの方が、馴染み深いかも知れない。とにかく凄い演技派で、顔芸もつとに有名なため、レイノルズ監督もそれを意識してカリックマンのアップが頗る多い。そして笑えるのである。スネイプ先生は別として、グルーバーや本作の代官などオーバーな演技に見えるのだが、緻密に計算されているため、すんなりと受け入れられ、素直に笑ってしまふ。主役のケビン・コスナーを食ってしまつた感はあるが、英国アカデミー賞助演男優賞を受賞したのも、むべなるかな。二〇一六年すい臓癌のため、六十九歳で亡くなっている。惜しまれる人である。

ヒロインのマリアン（メアリー・エリザベス・マストラントニオ）は、今作ではロビン・フッドの幼馴染である。十字軍の遠征に共に参加した親友ピーターの妹。兄の遺品を届けた折再会するのだが、

子供の頃ロビンに苛められたマリアンは、最初は警戒して打ち解けようとはしなかったが、お互い次第に惹かれあうようになっていく。まあ定番です。が、実はこのマリアンが獅子王リチャード一世の従妹にあたるため、代官ジョージが彼女を妻に娶って王位継承の資格

を得、獅子王が戦で不在の際にちやっかり王座を手に入れようと画策する。それを阻止すべくロビン・フッドを初め、アジームやシャールウッドの森の仲間リトル・ジョーンやタック修道僧・ウィル・スカールレット等が、奮闘するというのが大筋である。

書きたいことはまだある。何しろこの映画二時間半もある大作なため、エピソードが豊富なのだ。代官ジョージが行動を起こす際の規範とする占いをなす魔女、彼女はジョージの養い親に過ぎないと思われていたのだが、本当は実の母親だったこと。ロビンとリトル・ジョンの出会い、タックが仲間入りした経緯。ウィル・スカールレット（クリスチャン・スレーター）が、ロビンの異母弟であったこと等々……

しかしながら紙数に制限もあり、残念だが割愛させていただく。ラストシーンで、ロビンとマリアンが結婚式を挙げようとするとき、『ロビンとマリアン』でロビン・フッドを演じたシヨン・コネリーが、獅子王リチャード一世役でカメオ出演していることだけ、付け加えておこう。

## 参

私にとつては本命とでもいうべきリドリー・スコット監督の『ロビン・フッド』である。二〇一〇年の製作。これはお奨めしておきたい作品である。スコット監督、ごく稀に芸術臭を払拭した、すんなり楽しめるというか、自らも楽しんで撮つたのではないかと思える映画を、作ることがある。『誰かに見られてる』や『マツチステック・メン』がそうだし、『ブレードランナー』なども、その範疇に含まれるかもしれない。この『ロビン・フッド』もまさしくそうである。観ていて肩は凝らないが、気持ちの中に残るものが多い作品なのだ。ロビン・フッド役のラッセル・クロウは、当然いい。大ファンだから褒めそやす訳ではないが、自ら制作に名を連ねるくらいだから、相当思い入れは深かつたのだと思う。

——今作では「獅子心王」と訳されるリチャード一世は、十字軍遠征での莫大な費えを補填すべく、帰路フランス領内のあちこちの山城を攻め落とし、金銀を略奪していた。フランス王フィリップは業

を煮やすも、リチャードの強さは如何ともし難い。そこで彼の留守中、末弟のジョンが守りに就いているイングランドを攻め落とすべく、一計を案じる。ジョンと乳兄弟で近臣として侍っているゴドフリーを、手なづけ懐柔し、ジョンを裏切らせようとしたのである。正妻を放り出し、イザベラなるフランス女を城に引つ張り込んで血道をあげ、母親の壘蹙を買っているジョンをあわよくば暗殺、出来なくとも内部から切り崩そうと謀つたのである。このゴドフリー役のマーク・ストロングが、いい味を出している。ロバート・シヨアやラン・リックマンほどではないにしろ、同じ乳母で兄弟同様に育てられるも、片や君臨する者であり、自分はかしく者ではない屈折した僻み・嫉みを、恨み・憎しみに変貌させた男を、そつなく演じている。彼はロビン・フッドの敵役であるが、代官ではない。ノッティンガムの代官も登場はするのだが、今作ではマリアンに懸想するだけの、添え物的役割しか担っていない。「暴政と不平等な法により、人々を苦しめる」先鋒としての執行官ゆえに、前二作では代官が直接の敵役であった

が、今作ではその部分は後半にほんの少し描かれるだけで、大筋はイングランド軍対フランス軍の戦いという、規模が大きくなったための、いわば必然的配置であろう。ところがである。一一九九年シヤールス城の攻防において、当のリチャード一世が敵の矢を頸に受けて絶命するという、不慮の事態が発生する。遺体をイングランドまで持ち帰る訳にもいかず、せめて一報と王冠だけでも届けるべく、数騎が馳せ向かう。それを見たゴドフリーは、事情を知らぬが故に、リチャードを国に帰しては不味いと、プロセリアンドの森で



『ロビン・フッド』ラッセル・クロウ

彼らを待ち伏せ、殲滅する。まだ息のある騎士からリチャードの死を知らされ、帰国の顛末を訊きだすと、「王冠はどこだ?」。そこへ通りかかったのが、統率者のいなくなつた軍から、いち早く逃げ出したロビン・フッドと仲間たちであつた。死闘。配下を殆ど殺され、自身も頬に傷を受けたゴドフリーはからがら逃走する。まだ息のあつた騎士はロバート・ロクスリー、ノッティンガムの領主ウォルター・ロクスリーの一人息子であつた。ロビンは彼に、父親に無断で持ち出した剣を届けて欲しいと、依頼される。受け取つた剣の柄には、「仔羊が獅子となるまで」と彫られており、その言葉にロビンは見覚えがあつた。

ちよつと余談。ケビン・コスナーはロックスリーのロビンと名乗つていたが、ラッセル・クロウはロビン・ロングストライド、なぜだろう。(『ロビン・フッドの物語』は、十二世紀以降各地で連綿と語り継がれてきた、伝承である。何世紀も経てば、土地ごとに内容が少しずつ変化してきたであろうし、全く異なつてしまつた可能性もある。日本における民話・伝説然り。本に纏めるにあたり一本化したと

いう話を、聞いたことがある。ロビン・フッドに土地名を冠する、若しくは別性を名乗らせるのは、その土地の伝承を基にしているか、架空の話であることを強調するためであり、「自分が聞いたロビン・フッドと違つている」という違和感を覚えさせないための一種の予防策、或いは今や世界的伝承となつている(『ロビン・フッド』)に対する配慮ではなからうか。私はそう考えるのだが、いかがなものか。

王冠をジョンの元へ届けたロビンとリトル・ジョン(ケヴィン・デュランド)を初めとする四人の仲間、その足でノッティンガムへと向かう。出迎えたのはサー・ウォルター・ロクスリー(マックス・フォン・シドー)と、ロバートの妻マリアン(ケイト・ブランシェット)であつた。

名バイブレイヤーであるマックス・フォン・シドー、この人いつたい幾つになるのだろう。一九二九年生まれというから、今年八九歳か。私が初めてこの人を認識したのは七三年の『エクソシスト』であつたが、その当時と現在と、さほど変わっていない印象を受ける。若い頃から老けた感じの人だつたことは、間違いない。二十歳

の折、演劇学校在学中に映画デビューしたというから六十九年、随分と長い芸歴である。

マリアン、そうロビン・フッドの恋人である。理知的で、自分というものをしっかりと持つており、男に媚びることをしない女性として描かれているが、演じるケイト・ブランシェットは、顔立ち・立ち居振る舞いまさに打つて付け、スコット監督の好みである男勝りのマリアン像を、見事に作り上げた。

ロクスリー卿は、ロビン・ロングストライドという名を聞いて、内心驚く。何とその昔「王には国民が必要だ、国民が王を必要とするのと同様に」故にすべての国民は自由でなければならぬ。そう標榜して一般の人たちのみならず、急進的な領主たちの心を驚嘆みにし、国民の自由の権利を求める憲章起草した、あのロングストライドの息子ではないか。ロクスリー卿も、憲章に署名・押印したひとりであつた。

ロクスリー卿は、ロビンに提案する。息子が死んで跡取りがいなくなつた今、このままだと領地は没収されてしまうので、表向き自分の息子としてマリアンの夫とし

て、この家に住んでもらえないかと。ロピンは了承する。

後になって判明するのだが、次いでだから先にここで記しておく。

ロピンは六歳の時父親に捨てられた、ずっとそう思い込んでいた。だが事実は違っていた。思想に賛同した人々が署名した憲章を渡すよう国王の軍に求められたが、毅然として断つたため、ロピンの父親は首を討たれたのである。しかも息子の眼の前で。幼いロピンは衝撃に耐えきれず、記憶に封印し、無理矢理父親に捨てられたと思いつ込んで、生きてきたのである。思いつ出した父親は、死の間も従容として、自らの思想に殉じる喜びゆえか、笑みを浮かべていた。

ロクスリー卿が剣の柄に彫った言葉、正しくは「幾たびも立て、仔羊が獅子となるまで！」は、自由を求める人たちへロピンの父親が飛ばした、檄だったのである。

領主たちは、獅子心王による十字軍遠征を初めとする度重なる徴収で、疲弊しきっていた。新王の座に就いたジョンは、追い打ちをかけるかの如く、国費補填の為に、更に彼らへ苛斂誅求を課す、触れを出すのである。いかに「聖地奪還」という大義の元にしろ、

兄の無謀とも思える遠征を、認め許した母親への面当てもそこにはあった。

リチャードの参謀格だったウィリアム・マーシャル卿(ウイリアム・ハート)は、その無謀さを反乱に繋がりかねないと諫めるが、ジョン王は耳を貸すどころかマーシャル卿を解任し、ゴドフリーを重用し税の取り立てに当たらせる。マーシャル卿はロクスリー卿の古からの友人であり、憲章に署名した同志でもあった。

ゴドフリーにとって、これは渡りに舟であった。王命による税の徴収を口実に、乱暴・狼藉思うさま傍若無人な仕打ちを重ねて、領主たちの反感を煽り立て、国王に背かせる。国内の勢力をこれ以上できないくらい分裂させてしまえば、あとはフランスが容易に侵略できるというもの。ゴドフリーはロクスリー卿も同じ伝でいたぶろうとしたが、眼が殆ど見えないことに油断したか顔に浅いが傷を負わされ、為に怒り心頭に発し、息子を殺したのは自分だと告げた後、卿を刺殺してしまう。

そんな折、マーシャル卿はゴドフリーがフランス国王の手先であることを突き止めるが、時すでに

遅し? イングランド国内を分裂させ、一触即発の状況を作り出したゴドフリーは、頃合いや良しとみて、フィリップ王に攻撃準備が整った合図を送る。

「これ以上の我慢は身の破滅を招く」もはや国王への反乱も辞さない、その勢いで集まった領主たちの前に、とうのジョン王が姿を現す。今では正妻に取って代わり王女となったイザベラが、マーシャル卿からの報告を受けたジョンの母親の頼みで、彼にゴドフリーの裏切りと国難を知らせたのである。「私が憎ければ、この胸を剣で貫くがよい。しかし今は、国の危難を乗り切るのが先ではないか」ジョン王は説得を試みる。

だが、「もう王の言うことに服従する気はない」領主たちは一顧だに聞かない。

その時、立ち上がった領主たちに訴えかけた男がいた。ロビン・ロングストライドは、やはり父の子であった。「私たちが真の自由を得るためには、まずフランスの攻撃による脅威を排除しなければならぬ。今こそみんなが共に力を合わせるときなのだ。ジョン王に力を貸して国難を斥けられた暁には、領主・領民、人々すべての自由の

権利を認めさせようではないか」仔羊は遂に獅子となったのである――

ロビン・フッドの定義は、中世イングランドの伝説上の人物である。それで事足りよう。

だが幼少時より折に触れ、私の前に顔を出すロビン・フッドとは、一体何者なのだろう。

単なる偶然を、無理に因縁話めかしてこじつけているだけだろう。そうかもしれない。だが「伝説」そのものが、もともとそういった要因を持ったものではないだろう。教義を授かったとか、人生訓を得たなどと述べる心算はさらさらでないが、話を聞いてわくわくドキドキするような冒険心だけは、幾つになっても無くすなよ、出会うたびにそう言われている気はする。

× × ×

## 「ひみやえでいかんわっ—」

## 鈴木輝夫

「うみやえでいかんわっ—」  
 「ハヤシもあるでしょう—」  
 「うはうは喜ぶよう—」

ベタバタな名古屋弁である。昔の懐かしいテレビコマースヤルだ。因みに、「ハヤシも」云々は、「ハヤシライス」のインスタントもあるよ—である。名古屋弁に因るインスタントカレーのCMは、静岡弁しか知らない少年に取っては実に強烈で、それをやっているタレントにも興味が湧き上った。

静岡県の辺鄙な地に住む無知な少年に取って、唯一、テレビだけが都会や世の中を、いや、それは文化と言いつても宜しいのだが、兎も角、ムラ社会以外を認識するツールであった。私は少年の頃、毎日、朝から深夜までテレビの前に坐っている様な、正にテレビ大好き少年であったのだ。放送される番組は何でも見たのだが、特に大好きだったのが準キー局の大阪

の放送局製作の、下卑た大阪弁を縦横に駆使したお笑い番組であった。

下品な大阪弁に因る只々笑い転げるしかないその下らなさ。次々と発せられる間の抜けたギャグのそのナンセンスさ。受けさえすればこれでもかと繰り返すそのしつこい厚かましき。番組名を記せば以下の如し。

『どんま天狗』、『番頭はんと丁稚どん』、『スチャラカ社員』(何と、うら若き日の藤純子が出ていた!!) まだまだあるが、先を急ぐ。当時、私が一番熱中したのは、その名も『てなもんや三度笠』である。日曜日の夕方六時には、必ずテレビに嘔り付いて我を忘れて見た。

関東と関西とでは笑いの質それ自体が大きく違っていた。それは東京人と大阪人の氣質の違いである。東京の劇場や寄席の客達、特に「通」と称される人士や、それを自任している者達は、見るか

らに下卑たネタやこれでもかと繰り返すしつこいネタは毛嫌いされ、第一、役者達自身、芸人達自身もそれに類する演技や芸を卑しんでいて、たまさかそんなことで爆笑を取っても、内心、際物との感を抱く者が多かった。芸はスマートでなければ—。そして粋でなければ—。こんな所が、東京の喜劇や笑劇の役者更には芸人達の秘められた矜持であった。が、東京にもそれらと全く違う役者達や芸人達もいた。

彼らの多くはストリップ小屋から生まれた。代表的人物を一人だけ上げれば、浅草のストリップ小屋で幕間のコントを演じていた渥美清であろう。渥美清は幸運にも大スターになって目出度しであったが、ストリップ小屋を根城とする役者や芸人には、スマートでなければとか粋でなければとか矜持などとは言っておれなかった。ストリップ小屋に詰めかける男どもは、当然、ストリップ嬢達のストリップ・ショーを見に来るのが目

的である。女の裸が絶対的な目当てであり、幕間のむくつけき男達のコントなどは全く眼中にないのは言うまでもない。

早い話、女の裸を見に来る助平な男どもから、何としても笑いを取らなければ、御飯の食い上げで忽ち路頭に迷って仕舞うのだ。それ故、笑いを取る為ならどんなあざとい真似もした。兎も角、笑って貰ってなんぼの世界なのである。

東京のお笑には二通りの道があったと書いたが、勿論、確然と分れていたのではなく、両者は実に曖昧模糊としてお互いダブったりカブったりしている。そしてそれは、ごちゃ混ぜになって一体化する。所謂、「マス社会」の到来である。マス社会をより加速させたのが、言わずと知れたテレビ放送である。テレビなる媒体はその情報を瞬時に津々浦々に伝え、企まずの内に全国を画一化して仕舞うのだ。極めて危険な一面を常に内包しているのであるが、マス社会はそれを薄々感じながらも、



多くの大衆一般は、その激流の快楽に乗ること（或いは乗せられること）に、麻薬的な甘美感を覚えて仕舞うのも偽らざる真実なのである。現在はそれにインターネッツが加わるから、増々、危なくなっている。

再度、大阪の喜劇役者、笑劇役者、お笑い芸人に就いて。大阪を中心とした関西にも、東京と同様な鱗背（この語は一般に東京でしか使わないが……）とか、粋（これも同様であろう……）とか称される芸風もあるのだろうが、それを体現していた人物は極少数で、多くの者達は兎も角も爆笑さえ取っていけば勝ちと考えていた。大阪を核とした関西系のお笑いからは昔から漫才が中心で、大方の漫才師は笑いを取る為なら、どんなえげつないことも構わないと考えている感が強かった。大阪人一般の氣質が芸人達にそれを求めたのであろうか……。漫才とは、元々は鎌倉・室町時代に発生した、正月家々を回って祝言を述べて祝儀を貰う角付芸（かづつけい）の一種の万歳が起りである。悲しい哉、言わば賤民が営む賤業の一種であった。三河

万歳、知多万歳、河内万歳、尾張万歳などとして残った。万歳から漫才へと字づらは変ったが、その本質は何も変ってはいない。深い悲しみを内に秘めて――。

「鼠小僧次郎吉だがやつー」  
「やつとかめだなも、時次郎さあー」  
「珍念さあーも、やつとかめだなも」

名古屋弁を自在に駆使して、旅人の「あんかけ時次郎」と連れの小坊主「珍念」を煙に巻く、名古屋弁しか使えない義賊の鼠小僧。名古屋弁しか使えない鼠小僧は文句なく抜群に面白く、この高視聴率を誇るコメディー番組に出演して笑いを誘う他の人気者達にも優るとも劣らない大爆笑を起させていた。全国の大人から子供まで圧倒的に人気のあつたハチャメチャコメディー番組は、その名も高き『てなもんや三度笠』である。長谷川伸の名作『沓掛時次郎』を、これでもかとパロって藤田まこと演じる旅人を沓掛ならぬあんかけとし、彼と一緒に旅する知恵者の小坊主珍念に白木みのるを配

した公開放送である。物語はこの二人の珍道中を描くのだが、毎回地元大阪は勿論、東京からも豪華なお笑いゲストが出演する。

登場するゲスト達は、皆それぞれに笑わせ方の壺を小憎らしい程に心得ていて、主役の藤田まことや白木みのるとここを先途と許り、丁々発止と渡り合つて会場の笑いを取り捲つた。静岡の片田舎の小学生の私は、毎回毎回彼らの巧みなお笑い芸に大笑いしたのだが、中でも名古屋弁で捲し立てる鼠小僧は群を抜く面白さであった。名古屋弁しか使えない鼠小僧。絶対にあり得ない設定を考えたのは、恐らく、『てなもんや三度笠』の台本作家の香川登志緒であつたろうが、彼は他にも歴史上の有名人物を史実を無視してパロディー化し、無理矢理にも登場させているのだ。それがまた面白い。鼠小僧次郎吉を演じたのは、誰であろうかの南利明その人。「うみやえでいかんわー」の「カレーおじさん」である。「南鼠」はゲストであつたが、好評なのか直ぐに準レギュラーになつたと記憶している。南利明は、元々、由利徹、八波むと志らと『脱線トリオ』を組み、コントや芝居をやっていた。

『脱線トリオ』の人気も高く、私も彼らの助平コントが少年ながら大好きであつた。いや、少年だったので、彼らの助平コントが好きであつたか……。

八波むと志は若くして亡くなつて仕舞つたが、由利徹のハゲヅラを被つた助平オヤジ振りや、口の回りにべつたりと墨を塗り捲つたとぼけた国定忠治振り、何とも言えない可笑しさに溢れ、後年の東映ヤクザ映画でもそのキャラクターが十分に生かされていた。一方の南利明の方も決して敗けてはいない。彼も得意の名古屋弁を縦横無尽に使いこなし、舞台のアチヤラカ劇やテレビのバラエティー番組に数多く出演し、由利徹同様、東映ヤクザ映画でもベタな名古屋弁を吹き捲つて大活躍していった。由利と南の二人は、高倉健、菅原文太、藤純子が主演する作品に出演することが多いのだが、彼らの笑わせる芸に因つて健や文太も二人に負けじと、丸でコメディアン張りの碎けた演技を見せる。それは、由利や南の巧みなる挑発や誘い水的な誘惑に、大スター二人が見事に乗せられたからではないかと、私には思われる。由利徹は高倉健の『網走番外地』シリーズ

に、丸でレギュラーの様に殆ど毎回何らかの役で出演しているのだが、その全部と言ってもよい程、所謂、「危ない男」での出演なのである。同僚の懲役囚に気色悪く色目を使って迫るオカマの囚人役や、東北訛が激しい少々変態気味の怪しい香具師の親分などは正に絶品であった。

差別に関して喧しい今なら大いに問題になりそうな気もするが、

製作当時はそんな気配は全くなく、観客は大笑いでやんややんやの大喝采であった。由利は当時テレビや舞台でも、同じ様な色合いのコントやドラマで人気であったが、東映ではそれに輪をかけた「危ない男」を演じ続けていた。セクシヤル・ハラスメントに関して注視される現在、映画は兎も角、テレビなどで由利の様な存在は、果して許されるのであろうか？

演芸、特に、お笑い芸には、必然として差別的言動が内包されているのであり、所詮、それを避けて笑いを取ることは当然として難しいのだ。世の中の真面目な良識派からすれば非難の対象となるのは必然であり、顔を顰めるのはこれまた当然なのである。彼らはそれらとも闘って行かなければなら

ないのだ。「笑い」と「差別」。そこには、暗澹足る深い深い暗部が絡み合っているのだ。

「長万部、俱知安、どこにあるのか稚内」

由利徹の数あるギャグの一つである。これが何でギャグになるのか？

「オシヤマンベ、クツチャンアー、どこにあるのかわっかないっ」

この様に書けば判る御仁には判るのである。更に由利徹はこれを独特のイントネーションで言い、無理にも「意義を意味」ならしめる。何度も書くが、私は「下卑て卑猥なギャグが大好きである」。

「エンヤアー トト エンヤアー トト 松島あーの 瑞巖寺ほどこにい」

御存じ宮城県の有名な民謡、『大漁歌い込み』の一節である。この民謡も由利の手にかかると、クサク笑わずにはいられない秀逸なギャグになり変る。東北訛も可笑しく唄いながら珍妙なる振り、詰り、言う所の「当て振り」を見せる珍芸が、思わず吹き出す程に馬鹿馬

鹿しくて、兎も角笑わずにはいられないのだ。高倉健の『綱走番外地』シリーズを始めとして、菅原文太の『まむしの兄弟』、更には『トラック野郎』シリーズでも少々バージョンを変えて披露に及んでいる。

子供の頃から『脱線トリオ』の大ファンであった私は、東映映画で由利徹や南利明が見せる厚かましい程のナンセンスな笑いに唯々感心した。宮城県石巻市出身の由利徹が東北弁なら、一方の愛知県名古屋出身の南利明は、勿論、書いて来た様に名古屋弁一本槍。

どんな役を演じても名古屋弁、否、正確に書けば、始めから名古屋弁を使うことを前提に、その役を設定した感が強い。南利明が出演した東映ヤクザ映画は、私が見ている限り総て名古屋弁だけを使っている。名古屋弁オシリ。そのインパクトは唯々凄まじい。

東映任侠映画は発生時から終末時まで数多の喜劇人・笑劇人・芸人を使って来たのだが、極一部の例外を除いて、笑わせる為だけに彼らは起用されているのだ。喜劇人や笑劇人や芸人なのだからそれは当然と思われるかも知れないが、有名になって人気を博す彼らの多

くは、シリアスな芝居を要求しても、それが然も当然だと心得ている下手な新劇人より、数段上手い者が数多くいるのが現実であり、若し、製作者や監督がそれを要求したなら満を持して要求に答えたであろうが、彼らは専らそれを完全に封印して仕舞って、観客達を笑わせる為だけに出演していた。勿論、例外もある。伴淳三郎、藤山寛美、曾我廼家明蝶などは代表的な例外であろう。

由利徹や南利明なら、その例外に負けず劣らずシリアスな芝居も出来たであろうが、二人はその道は頑として選択せず、只管、あちらからのドタバタ劇を貫いて笑いだけを取ることに終始した。天晴れと言う他なし。見事と言う他なし。感動したと言う他なし。由利や南が東映ヤクザ映画の中で、常として下卑た猥雑なお笑い芸をこれでもかこれでもかと繰り返すことに因って、主演の高倉健や菅原文太や藤純子らのヒーロー・ヒロイン振りが嫌でも際立ち、任侠スターとしての存在感を弥増に増す絶大なる効果があるのだ。それは同時に、ヤクザ映画の基本的構成は「切った張ったの陰惨なる殺戮劇」であるのだから、ス

トリーとダイレクトには関係が薄い彼らの唯々笑わず為だけの登場が、ある種の緩衝材となつて一瞬ほつとした気持ちにさせる効用もあるのだ。が、それはまた、次に来たる可き大カタストロフの悲しき序章でもあるのだが……。

更に更には言えば、彼らの笑いを取る為に配された者達や、それに準ずる役回りの役者達の大切な役目は、殺戮の修羅場へと向かうヒーローやヒロインの想い人なり恋人なりの傍らに寄り添い、残された者への支えになることである。鶴田浩二や高倉健や菅原文太らの男伊達は、想い人や恋人の傍らにいて彼らが支えて呉れることに困り、ある場合は安心感を持ち、ある場合は達観を持ち、修羅の巷へと一直線に行ける情念を燃え上げさせるのだ。それら多くの作品には、男伊達足ることを決意した主人公自らが唄う、悲しくも切ない主題歌が自虐的淋しきで流れ出すこの『シネマ気球』に何度も書いている様に、「何足る定石」、「何足る定番」、「何足るマンネリの極み」ではあるが、客達はそれを百も承知で詰めかけているのだ。それは必然として「歌舞伎」の如くに極めて様式化されている為

か、カタストロフに突入する直前に見せる愁嘆場の悲哀を、これでもかこれでもかと弥増に際立たせる。任侠映画の真なる醍醐味は、そこにこそあるのだ。笑いを振り撒く為に起用された喜劇人・笑劇人・芸人、更にはそれに準ずる役回りを与えられた役者達は、ここを先途と許り己の笑わせ芸を披歴することに困り、彼らと真逆様の鶴田浩二や高倉健や菅原文太らのヒーロー性が、明確なる輪郭を見せて増々輝き出すのである。が、時として定石通りではない作品もあるのだ。

その最もの好例が縷々書いて来た『網走番外地』シリーズである。我らの健さんの立ち位置は他の彼の作品と違い、この作品では由利徹や南利明の側に限りなく近いのだ。健さんが兎も角滑稽なのだ。更には、菅原文太の『まむしの兄弟』シリーズ。文太兄いもここではハチャメチャな滑稽さを終始見せている。更には更には、ヤクザ映画ではないが、後年の同じ文太主演の『トラック野郎』シリーズであるうか。

『網走番外地』で彼が演じている主人公は、粗野ではあるがどこか滑稽であり、底抜けに人が良く

ておっちょこちよい、更には、回りの懲役囚から兄貴として慕われ、ついつい親分肌の地を見せて危機に陥る極道である。一本気ではあるのだが、少々、いや、大いに分別が足りないのだ。早い話が間が抜けているのだ。腕っ節は抜群に強くて誰にも引けは取らないのだが、その癖、御頭おびらの中身の方はからつきし……、である。『網走番外地』シリーズでは、毎回毎回、その健さんの人並外れた素つ頓狂振りとんきやうと巧まず浮き出る滑稽さが、最初から最終の殴り込み直前までずっと続くのだ。健さんの今一つのヒットシリーズ『昭和残侠伝』シリーズでは、間違っても彼のそんな思わず笑って仕舞う姿など決して見られない。

『網走番外地』シリーズを監督したのは総て石井輝男であり、『新・網走番外地』を監督したのは二本を除き総て降旗康男であるから、当然、登場人物の造形には、二人の思惑が深く関与していると考えるのが常識であろう。『網走番外地』の高倉健の役名は橘真一であり、『新・網走番外地』の役名は末広勝治であつて、全く別人物としているのであるが、いやいや、基本的に何の変りもないキャラクター

ターに造形されているのである。更に書けば、共演者達、特に笑いの為に起用された喜劇人・笑劇人・お笑い芸人達は、全くキャラクターに変わりがない。ずっと書いている由利徹と南利明も新と旧とでは、全く別人物であるのだが、なあにつ——、その性格付けは全く変つてはいないのだ。御巫山戯おびらざげ振りも全く変わらず、我らの健さんを、これでもかとおちよくり捲る姿も全く変らない。私は新・旧の『網走番外地』シリーズを見て、常として思うのだが、高倉健のイメージは本来的には、「辛抱立役」の男伊達であるのだが、案外、いやいや絶対、喜劇役者の隠れた才能があつたと思うのだ。

それを陰に陽に上手く引き出したのが、誰であろう共演した多くの喜劇役者達・笑劇役者達・芸人達であり、取り分け、由利徹と南利明はその双璧である。彼らの使う東北弁や名古屋弁に対して、高倉健も堂々とべらんめえ口調で丁々発止と渡り合う。その妙な間合とリズム感がたまらない可笑しさを漂わす。由利徹と南利明。二人は東映任侠映画の「隠れた功労者」であつた。

私が少年の時に夢中になつた由

利徹と南利明は、青年になると任侠映画で違った形で楽しませて貰い、更にはおっさんになった今でも発売されるDVDで十分に楽しんでる。

### 面白映画生活

流 漂介

1/21「希望のかなた」(アキ・カウリスマキ)

フィンランド映画。レストランの経営者とシリアからの難民が出会い…。経営者はYシャツメーカーの仕事を辞め妻とも別れ、ポーカー賭博で稼いだ金でレストランを買収。缶詰を出すような貧弱な従業員3人のレストラン。売り上げを上げるために手を替え品を変え模様替え、寿司バーにも…。難民は家族を失い妹とも離れ離れ。施設に収容され、友達もできるが、戦火のシリアに強制送還されそうになり、脱走。移民排斥分子にからまれ、逃れてレストランの掃除夫に雇われる…。監督のとぼけた

「オシヤマンベ、クツチャンアー、どこにあるのかわからないっ」

「うみやえでいかんわっ」

「ハヤシもあるでしょう」

味(これがいい)は相変わらずだが、難民問題を扱い、難しい現状を反映してか、安易にハッピーエンドにはしなかった。

テルにいた黒人らが犯罪者と間違われ白人警官にいたぶられた末…

1/21「密偵」(キム・ジウン)

韓国映画。日本に統治されていたころの朝鮮。日本の官憲の手先になっていた朝鮮人(ソン・ガンホ)が、抗日組織を追う。組織は陶器商を装って活動、ソンを仲間に取り入れようとする。日本と民族との間で揺れるソン。抗日組織のなかにも日本のスパイがおり、多くの仲間が捕えられ拷問が行われる。ソンはスパイの嫌疑をかけられていたので、組織の女に焼きごてを当てて自分を強要する役目を担わされる…。アクションも面白い。

6人の殺人犯男女が仮釈放となり過疎の町へやってくる。主人公は市役所職員、彼らの世話係。6人を会わせることのないようにするが、祭りの晩に出会ってしまう。男女は一癖も二癖もある。事件を起こしてみんな破滅してしまうのか? 職員は、東京からUターンした女らとバンドを組んで練習に余念がない。仮釈のひとり(松田龍平)もバンドに興味を持って女とつきあい始める…。北村一樹がワルの雰囲気をもふんとさせる。

2/11「コンフィデンシャル助」(キム・ソンフン)

韓国映画。脱北した犯罪組織を北の刑事(ヒョンビン)と、韓国の刑事(ユ・ヘジン)が追う。北では偽ドル札をつくっていた。印刷のもとになる銅版を軍の将校が持ち出した。犯罪国家が犯罪者を追うために南に刑事を送り込み、南の刑事と合同捜査にあたらせる。北の刑事は国家が犯罪に加担しているもそれを封印して国家への忠誠を尽くして行動する。南の刑事はひょうきん。堅物の北の刑事がいかに南の刑事と心を通わしていくかが物語のポイント。

私は彼らのギャグが今でも大好きで、思い出しても笑って仕舞う。残念ながら今、好きなお笑い芸人は全くいない。はっきり言って若手有名芸人は大嫌いだ。冷静に一歩退いて考えれば、それは取りも

直さず、私がおっさんになった証拠である。そして私は頑強に叫び続ける。「東映ヤクザ映画は絶対に素晴らしい」と――。

了

2/12 「ダークタワー」(ニコライ・アーセル)

フリークスを集めて始めたショウが大当たり。だが…。

3/12 「坂道のアポロン」(三木孝浩)

3/30 「ウィンストン・チャーチル ヒトラーから世界を救った男」(ジョー・ライト)

わかりやすくまとめている。長大な原作もエッセンスをうまくつなげば面白い映画になる。ファンタジー、超能力、異次元空間、ガンアクション。少年が見る夢は実在する異次元空間。そこにある塔は宇宙の外にいる邪悪な者の侵入を阻止していた。黒衣の男(マシュー・マコノヒー)は、塔を破壊して邪悪な世界に変える企みもつっていた。黒衣の男と戦っているのが、拳銃の達人ガンスリンガー(イドリス・エルバ)。黒衣の男も少年も超能力者。最後に見せ場が…。

2/26 「blank 13」(斎藤工) 低予算、時間が短くてもいい映画は撮れる。上映時間70分。借金をつくって子供と妻(神野美鈴)を捨てて逃げた男(リリー・フランキー)が13年後、末期ガンの末死ぬ。子供たち(高橋一生、斎藤工)は恋人(松岡茉優)とともに葬儀場で父をおくる。そこに集まった人は…。どうしようもない父親にもいい面があったことを発見する。

3/5 「シェイプ・オブ・ウォーター」(ギレルモ・デルトロ) ア카데미作品賞・監督賞受賞。ファンタジー。半魚人と豊唾の女性(サリー・ホーキンス)の恋。孤独な者同士が心を通わせる。冷戦時代。アマゾン川で発見した生物を宇宙研究所で研究。高圧的な警備主任(マイケル・シャノン)。研究所にソ連のスパイ(科学者)が潜入している。生物を殺そうとする研究所とソ連。それを阻止しようとする女性とソ連のスパイ。半魚人は再生能力をもっている。豊唾の女性の隣人である画家、仕事仲間の黒人女性がヒロインの味方。当時のヒット曲も楽しい。

チャーチルが地下鉄の車内で乗客と語り合うシーンがいい。ヨーロッパでは、フランス、オランダなどがヒトラーに降伏。戦況悪化により、チャーチルは側近の強いアドバイスで和平交渉も考えざるを得なかった。が、ヒトラーとの戦いを決意する。この国会の演説がいい。それから終戦まで5年かかった。演説の文章は自分で考えていた。専属のタイプライターがいた。国王ジョージ6世(英国王のスピーチ)のモデルとなった)はチャーチルの自宅まできて戦局を語り合う。

2/12 「KUBO 二本の弦の秘密」(トラヴィス・ナイト)

3/30 「レッド・スパロー」(フランシス・ローレンス)

4/7 「ラッキー」(ジョン・キヤ

4/7 「ラッキー」(ジョン・キヤ

アメリカ映画。ストップモーションアニメ。CGも多用している。日本の中世を舞台にした時代劇。不思議な三味線を弾く少年の冒険譚。日本をずいぶん研究している。

ジェニファー・ローレンス主演。意外にシリアス。ロシアのバレリーナはライバルの罠によって足を骨折、再起不能となってしまう。病身の母の面倒を見なければならず、KGBの叔父からスパイの道に誘われる。教育(セックスがらみ)を受けてアメリカのスパイに近づく。任務はロシアにいる2重スパイを明らかにすることだ…。

しみじみとさせるラスト。老人(90歳)の日常。朝起きたら柔軟体操。パズルが趣味。テレビはクイズ、酒場ではブラッディ・マリー。パーティーに誘われてスペイン語で歌うシーンがよかった。昔の彼女になぜかつれなくしてしまったというような歌詞だ。

× × ×

2/18 「グレイテスト・ショーマン」(マイケル・グレイシー)

19世紀。サーカスの創始者。芸術は人を楽しませてこそ。夫婦愛、家族愛、友情の物語。子供をもうけ貧しいながらも幸せな毎日。が、会社が倒産。男は博物館を手に入れ、

× × ×

× × ×

ショウ・ビジネスに手を染める。

× × ×

× × ×

× × ×

## 映画原稿2018 森田洋一

▼最近お薦めの女スパイものの3本  
①「マリアンヌ」マリオン・コティヤールの素晴らしい演技。最初のミッションから恋愛ストーリーへと、結構濃厚な作品に仕上がっています。往年の大女優になりそうな感じがしました。

②「アトミック・ブロンド」シャーリーズ・セロンのアクションもの。冷戦時代を忠実に再現したところに見応えを感じました。ラスト近くは、テンポがよい展開であここのうシナリオだったのね、と納得。

③「レッド・スパロー」ジェニファアー・ローレンスの体当たり演技に注目。スパイ養成学校の教官役に、シャーロット・ランプリングが出ています。「愛の嵐」の女優さんです。物語もいくつか伏線があり、スパイ映画としては結構よくできていると思いました。

▼クラシック映画女スパイもの  
「マタハリ」がグレタ・ガルボ、「間諜X27」がマルレーネ・ディートリッヒ、30年代この2本は、はずせないと思います。似たようなストーリー展開です。上記「マ

リアンヌ」に通じるところもあります。グレタ・ガルボ、「アンナ・クリステイ」でハスキーな声を出しました。マルレーネ・ディートリッヒ、スタンバーグ監督と7本の映画、組んでいます。「モロツコ」「恋のページェント」あたりは、お薦めです。「五本の指」、ダニエル・ダリユーが魅力ある役どころ、ラストの展開が印象に残ります。

### ▼その他に残る作品

「女神の見えざる手」最後にどんな返しがあるロビー活動を描いた作品です。ロビー活動とは、相手の一歩先を読んで、相手が切り札のカードを出した後、自分の切り札のカードを出す、このセリフが、意味をもってきます。主人公の人を信用しない、信用できる自分のブレインがいる、といったところ、劇中で説得力があります。

「ゼロ・ダーク・サートイ」のジエシカ・チャステイン、名演技、計算しつくされたようなシナリオ構成、一級品の作品と思います。

「モリーズ・ゲーム」同じくジェシカ・チャステイン主演。ラストの「私はしぶとい」というセリフが印象的。ポーカールは人生戦略と同じ、人を支配したいという主人公の思いが伝わってきた。原作よりも映画の方が面白い。

「アイ、トニー」スーサイド・

スクワッド」の女優さんが、見事な演技。審査員に対するクレーム、自分の母親も信じない、反骨精神全開の実話。

### ▼クラシック映画

「遥かなる我が子」オリビア・デ・ハビランド主演。「女相続人」では、資産家の娘を演じて気弱な性格から、毅然とした一人の独立した女性に変わっていく姿を演じていました。本作品では、過去をもつ中年女性の回想からはじまります。若かりし頃のできごとから、回想している時点まで、素晴らしい演技と目力で、強烈な印象で、観る人をひきつけてきます。ラストは、涙、涙。オリビア・デ・ハビランド、当初は、エロール・フリ

ンと共演の活劇に出ています。「暗い鏡」もお薦めです。こちらは、真逆の性格、双子を一人で演じています。

「都会の牙」原題「D.O.A.(Dead On Arrival)」到着時死亡、です。

この意味は、ラストになってわかります。ストーリー展開が、自分は毒を盛られて、なぜ現在に至ったかを描く内容で、ユニークな描き方をしています。エドモンド・オブライエン主演。「ワイルド・バンチ」で、追跡する人を演じた俳優さんです。

「明日に別れの接吻を」ジェイム

ズ・キャグニー、女性にもてる親分といった感じの役。ワード・ボンドが名脇役。最初のワンシーンで出てくる登場人物が、ストーリー展開でどう関わっていくかを中心にみると面白いです。ジェイムズ・キャグニーが悪役を演じる、「白熱」「汚れた顔の天使」「民衆の敵」あたりは、必見と思います。

### ▼心に残る1本

「追悼のメロデー」アンリ・ベルヌイユ監督、ジャン・ポール・ベルモンド主演。小さな田舎街を舞台にした復讐劇のような展開。過去と向き合う、展開がパズルのようになっていて観る度に発見がある作品。

1回目…18歳の頃、観ました。特にこんな映画があるのか程度。ジャン・ポール・ベルモンドが当時から好きでした。

2回目…20代後半。フランス語を習っていました。町並み、小さな文具店が印象的といった感想。

3回目…40代後半。どん底状態の時に観ました。主人公が自分をはめた相手に仕返しをするような展開、小さな街でも腐敗した感じが心に残りました。

4回目…先日観ました。結局、自分の人生に決着をつけて再出発したいという思いが何となく伝わってきました。



## 一生懸命生きている姿に好感

「アイ、トーニヤ 史上最大のスキャンダル」監督IIクレイグ・グレスピー）

アメリカの女子フィギュアスケート選手、トーニヤ・ハーディングのスケート人生を描く。トーニヤ・ハーディングは、アメリカ人女子として初めてトリプルアクセルを成功させた（ちなみに女子で史上初は、日本の伊藤みどり）。1991年世界フィギュアスケート選手権で2位に輝いている（1位はクリステイー・ヤマグチ、3位はケリー・キヤリガン）。トーニヤを有名にしたのは、1994年リレハンメルオリンピックの前にしたライバルのケリー・キヤリガン襲撃事件だ。当時日本でも話題になった。ライバルを蹴落とすために汚い手を使う、そんなことが実際に起こったのだ。

トーニヤはどのようにして一流の選手になり、どこで間違つて事件を引き起こしてしまったのか——映画はトーニヤ（マーゴット・ロビー）と元夫のジェフ（セバスチャン・スタン）、そしてトーニヤの母親（アリソン・ジャネイ。アカデミー賞助演女優賞）にインタビューする形で当時を振り返りながら、進められていく。

トーニヤは子供のころからコー

チの指導のもとスケートに磨きをかける。母親との二人三脚でフィギュアスケートの頂点を目指そうとする。一流のスケーターにした、なりたいたいという夢を親子で追いかける。それは貧困からの脱却でもある。裕福な家庭ではない。母親はコーチ料を稼ぐためにウエイトレスとして働く。この母親が一筋縄ではいかない。口が悪い。一言でいうと品がない。結婚を6回もしている。6回して悪いことはないのだが、この母親を見ると相手のほうがついていけない。トーニヤが長じてデートをすることもあるが、その場に平気ですべてく。悪い虫がつかないように心配してのことだろうが、いきすぎは明らかだ。この母親を主人公にしてドラマを組み立てても面白い映画ができるのではないだろうか。このデート相手が、夫になるジェフ。母親からカス呼ばわりされてしまうが、二人は結ばれる。しかし、二人の間には諍いが絶えない。後にトーニヤがトリプルアクセルを成功させたのを機に夫婦仲が決定的に悪くなる。トーニヤは自分に自信をもちすぎるようになったせいなのか。ジェフからすれば自分の手の届かないところに行ってしまう不安を抱いたためか。離婚するが、また縋りを戻したりする。

そして事件が起こる。事件の前に、トーニヤも殺人予告を受けて大会出場を辞退したことがあるということだ。ジェフはその仕返しを考える。この時点でジェフはカスだという母親のかつての見立ては当たっていたと言わざるを得ない。ジェフは友人に頼んで、トーニヤのライバルであるケリー・キヤリガンに脅迫状を出すように依頼する。この友人がジェフに輪をかけてたようないい加減な人物だ。「私は諜報の仕事をしている」と平気そうそぶいている。この「諜報員」がさらに別の人間に頼んでケリー・キヤリガンをスケート場で襲い、膝を棍棒で殴打する。これが事件の顛末。事件後のオリンピックでトーニヤは8位。襲われたケリー・キヤリガンは傷を克服して銀メダル。オリンピック後、襲撃事件の捜査が行われた。ジェフやトーニヤは裁判にかけられ、ジェフは1・5年の懲役。トーニヤは執行猶予3年。スケート以外自分には特技は何もない、スケートを奪わないでと裁判長に訴えるが聞き入れられない。さらにスケート界からは永久追放の憂き目に会う。トーニヤは直接は事件に関わっていないように思える。

になぜ得点が低いのかと審判に食ってかかったり、駐車場で審判員を待ち伏せして抗議をしたり、直情径行型の人間であることも災いしているようだ。

この映画のもう一つのみどころは、母親の人柄だ。先に少し触れたが、トーニヤが襲撃事件で傷心のもとにやってくる。慰めに来たのか、やはり母親だと思わせるのだが、マスコミに頼まれたのか録音器を体に装着して「実際に襲撃を指示したのは本当か」と問いかけたりする。母親の行動ではない。このときはさすがのトーニヤも怒り心頭に発して家から母親をたたき出してしまふ。トーニヤがバイタリテイで生きているとしたら、母親はしたたかさで生きているということか。

トーニヤはスケート一途の生活で貧困から這い上がったのに、事件が起きて世間のバッシングを浴びて失墜。それでも彼女はくじけない。スケート界から追放された彼女は女子ボクシング界に転向。世間から殴られてもたたかれても起き上がる。まるでボクシングの選手のような。

一生懸命生きている姿に好感を覚える。一生懸命生きている人の姿はいつ見てもいい。トーニヤ・ハーディングもそのひとりだ。

（関田孝正）

【編集後記】今年も少林寺拳法シニア流山健康クラブの皆さんのご協力で作った紙面を作ることができました。お礼申し上げます。常連執筆者の皆さんにも、暑い中ありがとうございます。関田